

及び貿易の管理を断行して外貨を蓄積し、一シルリング二ペンスの爲替取引を行ふ必要があつたので、昭和十三年十月廿五日「通貨取締令」及び「重要物資搬出取締令」を公布實施して外貨の集中に乗出し、さらに昭和十四年十月二十日、新に「貿易統制法」を公布して貿易管理を強化し、原則として無爲替輸出を認めず、かつ羊毛その他ほとんど全物資に互つて輸出許可制を布き、その輸出爲替はすべて蒙銀に賣却せしめることとした。元來蒙疆は年々相當の出超をみせてゐたので漸次第三國貿易の振興に力を注ぎ外貨蓄積によつて蒙疆の建設資材その他を調達せむとの意圖によるのである。

しかし蒙疆經濟自體が原料を生産し、製品を輸入して生活する原始經濟であり、しかも多分に通過貿易地域としての特種性を兼ね備へてゐるため貿易、物價の點から日滿の悪影響を受け易い。従つて通貨の膨脹、物價の昂騰はこゝにおいても圓ブロック區域の例外とはなり得ず、同じ悩みを悩むわけである。

蒙疆銀行券發行高(單位千圓)

昭和十二年十二月	一一、九九五
十三年 六月	一七、七三三
十三年十二月	三五、五〇二
十四年 六月	三一、三七七
十二月	六〇、〇七九
十五年六月(推定)	六一、〇〇〇

同 十二月(同) 九三、〇〇〇

三 北支における通貨建設

中國聯合準備銀行生る

日滿支經濟ブロックの一環たる北支において、これをより高度化するためには、資本並に物資が圓滑に流通し得る統一的流通機構の確立がその前提をなす。かゝる要請に基き、先づその通貨の基礎を我が國と同一にせんがため創設されたのが發券銀行としての中國聯合準備銀行である。事變當初北支には朝鮮銀行券も一部流通をみてゐた結果急場を凌ぐため、一時軍費支辨通貨として鮮銀券の増發を行つたのであるが、事變の規模擴大とともにその價值維持は困難となり、こゝに方向轉換の已むなきに至つたのである。中國聯合準備銀行條例により三月十日創設開業をみるに至つたがその組織構成は次の如くである。

資本金 公稱資本五、〇〇〇萬圓の中華民國法人、最初は半額拂込とし、臨時政府と支那側銀行の折半出資、しかも臨時政府拂込の一、二五〇萬圓は日本政府保證のもとに、正金、鮮銀、興銀から融資、なほ支那側銀行は今なほ拂込を履行してゐない。

總裁 汪時璟(副總裁兼任)、董事、監事はすべて支邊側銀行人、ただ顧問として阪谷希一を任命。

業務 中央發券銀行としての固有の業務、國庫の事務、金融

統制に關し、政府の代行をなす外暫定的に普通銀行業務も管む。

發行通貨 その發行する聯銀券を國幣と定め、その對外價值については三月九日の臨時政府聲明書において「國幣の對外價值は現在の環境に鑑み、日本通貨と等價ならしむるをもつて適當なりと認む。政府はこれを堅持する方針」なる旨を明示し、對英一シルリング二ペンス基準とし、これより北支も圓ブロックの一員として發足することになつた。

發行準備 地金銀、外國通貨(圓紙幣を含む)及び外國通貨による預金をもつて發行全額をカバーしてゐる。なほ日本銀行團に一億圓のクレジットを設定した。

聯銀券による法幣驅逐

聯銀券の發展過程は先づ國內通貨としての基礎を固め、これに基き貿易通貨として對外工作に當らんとするにある。従つて出發當初より法幣に對しては果敢な通貨闘争を挑んだ。その手始めとして臨時政府は三月九日「舊通貨整理辦法」を公布して支那側の整理方針を明かにし同時に「經濟擾亂行爲取締辦法」をも公布してその妨害を取締ることとした。その要綱は(一)舊法幣は當分の間聯銀券と等價で流通する(二)舊法幣の中、中央銀行券、南方發行の中國並に交通銀行券、その他所謂雜券は三月十日以降三箇月を限り流通を許す(三)中國及び交通兩行券の中所謂北方券、河北省銀行券、冀東銀行券は三月十日以降一年間流通を許す。また六月三日には、中國、交通、河北省、冀東各銀行券の新規發行並に再發行

新那の通貨工作

を禁止し、いづれも豫定通り實施した。

しかるに法幣は八月一日八ペンスを割る第一次暴落を呈するに至つたので、八月八日從來の聯銀との等價交換回收を廢して、交換比率の一割切下げを断行し、次いで昭和十四年一月三日、五十日間の猶豫期限を附して更に三割合計四割の切下げが發表され、二月二十日から断行した。但し河北省、冀東兩銀行券は兩次とも切下げから除外された。かくして聯銀創設滿一箇年の昭和十四年三月十一日に至り一部小額通貨を除いては一切の法幣は流通禁止となりこゝに聯銀券統一工作は一應外面的に完了した譯である。

この一箇年間に於ける舊通貨の回收總額は約三、七〇〇萬圓内舊法幣は九〇〇萬圓と見積られてゐる。この回收總額は事變前の流通額からみれば約一割にすぎない。このことはなほ廣大な地域が聯銀券地帯に加はつてゐないことを物語るものである。先づ最も妨害的存在は天津の外國租界である。こゝでは舊法幣の流通禁止を認めず、聯銀券は租界内に集積し思惑筋によつて屢々賣却される有様である。その第二は所謂匪區地帯である。よつて先づ當面の措置として北支を聯銀地帯と匪區地帯とに分ち、前者については臨時政府は北支軍當局と協力して種々流通強化策を講じ、後者については武力による肅清工作の進展につれて、遂次聯銀券を押し擴めるやう工作が進められてゐる。

貿易通貨——聯銀券

聯銀券の對外價值維持工作は昭和十三年十月五日外國爲替資金



設定(五〇〇萬圓)による輸出入リンク制の實施に始まる。しかしこれは舊法幣市場に壓倒されて實效を擧げ得ないのに鑑み、そこに強制力を附加した。十四年三月十一日の舊法幣禁止と同時に北支重要輸出品十二品目を選び、その輸出にはすべて一シルリンダ二ペンス基準の爲替を取組み、これを聯銀に賣却する場合の外は海關の輸出許可を與へぬこととし、輸出ビルの聯銀集中をはかつた。しかし法幣は依然後退せず法幣デフレは却つて天津租界における法幣プレミアムを呼び一時は法幣千圓につき聯銀券千三、四百圓の暗相場さへ現出し、支那人の換物人氣、圓ブロックの輸出制限等は一層聯銀券の價值低落を招いた。こゝにおいて十四年七月十七日以降爲替集中の全輸出品目への擴大が實施された。即ち輸出ビルはすべて聯銀に賣却せぬ限り、海關の輸出許可を與へず同時に買付輸出ビル總額の九割をもつて輸入爲替をカバーすることとし輸入希望品目四二をさらに九五品目に擴大した。

聯銀券への課題

聯銀券の發行は軍費の支拂が最大のもので邦人旅行者の旅費、北支開發會社等を中心とする日本投資等がこれに附加され月々二、〇〇〇萬圓から二、五〇〇萬圓の膨脹を告げてゐる。各期末の發行高をみると次の如くである。(單位千圓)

昭和十三年	六月	五九、四六二
同	十二月	一六一、九六二
十四年	六月	二六四、一五九

同 十二月 四五八、〇四二  
 十五年六月(推定) 五九〇、〇〇〇  
 十五年十二月(同) 七〇〇、〇〇〇

従つて北支におけるインフレの問題は極めて重視されねばならない。こゝに對内對外兩方面からの對策が要請される。先づ匪區地帯の掃蕩による聯銀地帯の擴大、流通促進が根本であり、一面デフレ政策への轉換も餘儀ない歸結であつた。こゝにおいて十五年半ば頃から北支總領事館の新規營業許可制、外務省の渡支制限令實施、北支における圓系通貨の受拂制限、無爲替輸入の許可制實施による法幣驅逐等が實行に移された。更に物資による裏付工作としては對日滿關期待物資の確保である。即ち關係方面との密な連絡の下に、北支の輸入機構確立のため各種商品別輸入組合接続せしめ、内地側輸出組合と連繫して内地からの供給物資の確保をはかる。しかも原則として輸入組合員以外の輸入を認めず、また配給組合を作り一元的な輸入配給統制によつて重點主義配給を行ふ。また配給價值は現地における物價情勢と睨み合せ適正を期する。

以上の如き各般の措置によつて聯銀券の騰勢は漸く顯著となり十五年十月には七〇〇圓臺(法幣一、〇〇〇元につき)の新高値を示した。

しかし聯銀券はその對外價值基準を中心としてなほ多くの問題を殘してゐる。それは單に對法幣の場合に限らず、他の圓系通貨

との關聯において現に種々の問題に直面して居り、また中支に誕生した新法幣との價值基準の相違についても將來の難問が豫想されるのである。北支におけるインフレ對策とともに今後の北支幣制の課題はこゝにある。

四 中支の通貨工作

北支との相異性

中支における各般の通貨工作は、北支におけるが如く必ずしも一本調子のものではない。即ち内面的にみてそれが法幣との對立抗爭に立つことは北支と同斷にしても、北支においては法幣の全面的流通禁止をその前提とするに反し、中支にあつてはその流通を認め、これと併進することによつて、おもむろに新通貨の經濟力を培養し、しかるのち法幣を驅逐せんとする方向をとつてゐる。これは中支における法幣の根強さを裏書すること同時に、法幣を通じてこの英米外國勢力が遙かに北支に勝つてゐることを物語るものである。しかもその特殊性は價值を異にする圓系通貨(軍票日銀券)としからざるもの(新法幣、華興券)の二本建を餘儀なくし、こゝに又問題を複雑にしてゐる。以下工作の經過について略記しよう。

軍票の登場とその流通

中支における軍票の登場は昭和十二年十一月の杭州灣敵前上陸部隊による行使に始まる。しかし事變當初、中支にあつては日銀

新支那の通貨工作

券が専ら軍使用通貨とされたため事變の擴大とともにたちまち圓札インフレの問題をひき起し、これは惹いて日本内地の爲替基準に悪影響を及ぼすに至つた。こゝにおいて大藏省は軍當局と協力のもとに昭和十三年十一月一日以降上海を除く中支占領地區においては軍票一色の政策をとることとし同十二月二十日から實施した。しかし中支の經濟中心地たる上海が除外された結果、圓札氾濫の問題は何等改善されず、十四年五月頃は法幣一〇〇元に對し一二圓と圓札の不當暴落さへ示現した。しかも軍票の公定相場軍票八〇圓對法幣一〇〇元はそれ自身維持困難に加へ、軍票は日銀券に對しても更に下値を示す有様に、軍票法幣の交換比率は顛倒する狀況であつた。こゝにおいて軍票一色化は強化され昭和十四年七月から漸次上海地區もこれに包含せしめる方針をとり、日銀券の受拂を縮小しつゝ遂に同十二月一日を期して全中支の軍票一色化が斷行された。即ち十二月一日以後、中支の邦人銀行は原則的に日銀券の拂出しを禁ぜられ、昭和十五年一月一日からは日銀券の受入れについても當局の許可を要することになつた。

かゝる流通強化策と關聯してその價值維持工作は積極化された。即ち十二月一日の軍票一色化後の具對策としては次の如きものがあげられる。

(一)軍票價值維持のため重要九品目につき軍票交換用物資配給組合が結成された。

(二)物動物資輸入組合の他日本側の圓ブロック向輸出組合に對



應する中支那輸入配給組合が各種品目に互り結成され、爲替差益をブールする一方、現地販賣に當つては軍票回収を目標に高物價政策を採用した。

(三)現地における資金統制を強化した。

(四)邦人渡航者を五月二十日から嚴重制限した。

(五)中支那振興會社も軍票建料金の引上げを行ひ、軍票回収に努めた。

(六)振興會社始め現地諸會社も努めて事業資金の現地調達を行ふこととした。

更にその後軍票相場を昂騰せしめた要因としては、奥地への物資移動制限の強化、特に販賣協議會の結成によるその徹底化並にその軍票建販賣による奥地における異常なる軍票需要の發生等をあげ得る。

以上の諸工作は法幣の數次に互る暴落と相俟ち、次の如き軍票相場の昂騰となつて現れた。

上海軍票相場(法幣一〇〇元につき、單位圓)	九.九
昭和十四年 六月	七六・五
同 十二月	八〇・二五
十五年 六月	六一
同 十二月	

こゝで南支における通貨工作を一瞥する。昭和十三年十月のバ

イアス灣上陸以來南支においては當初から専ら軍票を使用し、廣東にあつては既存通貨毫幣の流通をみとめつゝ、軍票流通を促進し、同十一月決定公布した公定比率軍票一〇〇圓につき法幣一三〇元、毫幣一八〇元は比較的順調に維持され、その後も平靜なる経過を示してゐる。海南島その他においても事情はほぼ同様であるが厦門のみは、事變前からこゝには臺灣銀行券が流通をみてゐたので、その後も法幣と臺灣銀行券の併用が行はれてゐる。

貿易通貨華興券の役割

中支における法幣對策の第二矢は華興商業銀行の設立による華興券の發行であつた。華興商業銀行は昭和十四年五月一日、日支合辦の維新政府法人として資本金五、〇〇〇萬圓(華興圓八片四分一換算)——維新政府と日本側六銀行(興銀、豪銀、鮮銀、三井、三菱、住友)の折半出資——全額拂込をもつて設立された。同行の性格は所謂中央銀行ではなく、外國貿易金融を主業務とする商業銀行であり、かつ特權として強制通用力のある銀行券の發行權が附與された。従つて華興券は五月十六日の同行業務開始と同時に『中支全般の金融梗塞を打開して外國貿易を助長し併せて法幣不安より民衆を救済せんとする』重大使命を帯び、しかも外貨兌換一〇〇パーセントの所謂『健全通貨』主義のもとに發行された。しかしその後の状況は必ずしも當初豫期した如き發展を示さず、昭和十六年一月六日中央儲備銀行の開業と同時に華興銀行の發券業務は停止され、華興券は新法幣によつて回収されること

となり、この間二箇年足らずをもつて華興券の役割にも終止符が打たれた。かゝる経過は中支幣制工作の複雑困難性を裏書するものといつてよく、その意味でまた特記されねばならない。

當初華興券は法幣と等價をもつて發足した。しかし矢繼早の法幣低落によつて七月二十日には早くも法幣を絶縁し六ペンスの新基準に立つた。當時の状況としてはある程度已むを得ぬ措置ではあつたが、こゝにかへつて流通市場における法幣からの重壓は加重された。同九月一日以降上海の海關收入華興券建實施は、法幣不安による財政收入確保の點から極めて大きな寄與をなしたが、その實際は、法幣をその建値で換算して支拂はれる状況にあつた。しかも華興券は完全なる外貨兌換をあくまで堅持し、貿易通貨としての機能確立を遂げた上でもむろに國內通貨化をはかる意圖であつた。従つてその發行も輸出ビル見返等極めて制限された範圍に止まり、その流通面擴大は餘り期待されない状況にあつた。さらに軍票との併存關係もその伸び悩みの主要原因の一つである。一は輸出物資の調達、他は軍需品の調辦手段として流通圏を異にするが如く考へられるが現實は、限られた占領地域内において摩擦を生ずるは當然で、より大きな力と物を背景とする軍票に流通面を壓縮される結果となつた。更に北支における都市と生産地域の游離、外銀側の非協力は貿易通貨の機能發揮上可なりの障礙を來した。その發行高についてても十四年末五〇〇萬圓に達したまゝ、その後は大した増加をみせず、對内對外ともにその發

新支那の通貨工作

展性を見失つた形で、單に計算通貨の域に止まるにすぎなかつた。中央儲備銀行の新法幣による切替へはかゝる點からも要請されたのである。しかし中央儲備銀行開業後も華興商業銀行が存続してゆくことに變りはなく、今後は専ら國際金融並に商業貿易銀行として新分野の開拓に積極的乗出しの方針を明かにした。

五 法幣の後退と英米の挺入れ

事變當初一シルリング二ペンス四分の一の對外價値を堅持してゐた法幣は事變の進展につれめまぐるしい程の暴落歩調を辿り、現在はその四分一程度の四ペンス前後を維持する有様である。即ちその段階を示すと次の如くである。

崩落段階	期	間	對英相場	對米相場
公定相場維持期	自	昭和二二・八・二三	一・二/4	二九・五
第一次崩落期	自	二三・三・二四	八/4	一七・四
第二次崩落期	自	二四・六・六		
	自	二四・七・七	六・1/2	二二・六
第三次崩落期	自	二四・七・八	最高 五・1/2	最高 七・五
	自	二四・九・三	最高 三・5/8	最低 五・五
相對的安定期	自	二四・九・三	最高 五・5/8	最高 八・五
	自	二五・二・一	最高 四・	最低 六・五

その第一次崩落の契機は十三年三月十一日北支に開業した中國聯合準備銀行の聯銀券發行であり、六月には八ペンス四分一に低



落、更に十四年五月中支に華興券の發行をみ、又甚大なる入超による法幣安定資金の著減から香上銀行は従来の統制賣りを停止したため、第二次崩落を來し六ペンス半に落ちた。更にその落潮は止まず三ペンス臺へと第三次の崩落を續けたが、歐洲大戰の勃發はポンド不安、逃避資本の還流により相對的に四ペンス臺への小康を保つてゐる。

かかる暴落と表裏をなしてその發行高膨脹は當然であり、一説にはすでに發行高六、七十億元ともいはれるが蔣政權側の發表にみても次の如く激増振りを示してゐる。(單位一〇〇萬元)

發行高	膨脹指數
昭和十二年六月末	一、四〇七
十三年同	一、七二六
十四年同	二、六二六
十五年同	三、九六二

かかる状況にありながら法幣がなほ破局的インフレーションを起してゐないのは、支那の地理的特異性、原始的經濟の特質、民衆の執着等の外に、英米の積極的經濟援助をあげ得る。即ち十四年三月北支における法幣流通禁止の矢先英國は一、〇〇〇萬ポンドの法幣安定資金を設定し英支折半出資、香上銀行の操作によつてその挺入れに當つた。これと前後して米國は援蔣二、五〇〇萬ドルのクレジットを與へた。米國はこれより先十三年十二月にも二、〇〇〇萬ドルの援蔣借款を與へて居り、さらに十五年九月日

獨伊三國同盟締結と相前後して二、五〇〇萬ドル十一月の新國民政府承認の報復として五、〇〇〇萬ドルの新借款に加へて五、〇〇〇萬ドルの法幣安定資金を供與した。これに呼應して英國も一、〇〇〇萬ポンドの援蔣借款を行ひ内五〇〇萬ポンドは法幣安定資金の補強に充當し、從つて法幣の英米支配化は露骨となり、中支の通貨闘争は明かに、世界的規模にまで進展したといへる。

### 六 新法幣の發足

#### 中央銀行——中央儲備銀行

國民政府は南京に遷都後八箇月にして中央銀行の再建及び幣制の統一に關する具體案を決定し、昭和十五年十二月十九日これを正式發表した。即ち資本金一億元の中央銀行中央儲備銀行を創設しその發行する兌換券をもつて法幣と定め、新銀行總裁周佛海、副總裁錢大榭以下首腦陣容も決定し十六年一月六日より首都南京において營業を開始した。その法的基礎は

- 一、中央儲備銀行法、
- 二、整理貨幣暫行辦法
- 三、外匯基金管理委員會章程
- 四、財政部令

からなるものであるが、同時に財政部長周佛海は聲明を發して新銀行の性格、今後の經營方針等を明かにした。

財政部長聲明要旨 本財政部は遷都の初めに當り貨幣價值

業務に従事せしむべし。」

#### 新法幣の將來

の維持、金融の安定につき宣言し、次いで中央銀行籌備委員會を組織し、數箇月以來慎重かつ積極的に企畫したるが基金の準備、營業の方針及び紙幣發行等一切の準備緒につきたるをもつて民國二十六年三月の中央政治會議々決の原案に根據して名稱を「中央儲備銀行」と定め、こゝに民國三十年一月六日を期し首都において正式營業を開始するとともに、重要都市に期を分つて分行を設立し、もつて發展をはかることとせり。發行紙幣は一切法幣となし納税、爲替その他公私一切の取引には皆これを行使せんとす。

なほ金融市場の動搖防止、人民資産の保障をはかるため現在流通の各種舊法幣は當分中央儲備銀行發行の法幣と等價流通を認め、しかる後おもむろに調整をはかり、統一を講ぜんとするものなり。萬一重慶側發行の數量ます／＼膨脹し、貨幣價值ますます下落して市場を攪亂し民生に影響を與ふることあらば、本部は既に有效なる辦法を準備しあるをもつて隨時これを發動しもつて健全を期すべし。

日本軍票に關しては事變繼續中の特殊事態なるに鑑み正にこれと相互に十分の協力をなし、おのおのその負ふところの使命を遂ぐるを得せしむ。中國聯合準備銀行は華北金融の重心なるをもつて、また努めてその健全なる發展をはかり聯銀券の流通區域は暫時現狀を維持することとし、華興商業銀行はその發行權を取消し、主としてこれを國際貿易金融及び普通商業銀行の

#### 新支那の通貨工作

は財政經濟の問題であると同時にまた大きな政治問題でもある。蔣介石政權の全國的統一がよく今日までの舊法幣の牢固たる地盤を築いたことはその好例である。從つて新法幣がよく統一の通貨たる役割を果すか否かは、まづその前提として、國民政府の政治力の進展如何にかゝつてゐる。見方を換へていへば新法幣の流通力の増加は國民政府の統治力のバロメーターでもある。從つて中支における治安工作が先決問題であり、從來の「點と線」區域は更にその背後の生産地域にまで推し擴められねばならぬ。更に敵性通貨の温床租界の肅清と相俟ちこゝに始めて、新法幣の強制流通手段たる貿易管理、通貨管理の現實性を生み出して來る順序である。更に

經濟的觀點から 第一は物による裏附である。物に換へ得ない通貨は意味をなさぬ。從つてそこには流通性は生れて來ない。たとへそれが公租公課の受入れに使用されるとしても、それのみに止まる時は通貨の機能は甚だ狭く、民衆の通貨たり得ない。從つて生産地域への政治力の浸透が前提として必要となつて來るのである。新法幣の將來性に關聯する重要課題は現存の通貨關係にも見出される。即ち現在の支那に流通する北支の聯銀券、蒙銀券との關聯、更に差當つては、中支の舊法幣關係は勿論軍票と如何なる調和併進策をとるべきかの問題である。



新法幣はその根本方針として漸進主義をとりその流通區域としても差當つては中支の限られた範圍を目標とする、まづ北支については財政部長聲明においてもこの點を明かにし『聯銀券の流通區域は暫時現狀を維持する』こととした。しかしその結果兩者の關係をどう規定するかは別個の問題であり、こゝに新たな解決が要請される。聯銀券の對外價值は公定的には圓と等價の對外價值を持つ。しかし對法幣價值からみてそれが甚だ非現實的のものである事も事實である。しかも新法幣は法幣と等價で流通する、兩者の爲替協定を如何に決定するか、その根本方針が決定せぬ限り依然その物資交流の圓滑は十分なる期待をかけ得られない。

**法幣との關係** は最も根本的のものである。新法幣が本質的に法幣と相容れない運命を持つことは明かである。しかし兩者等價の關係をもつて新法幣が発足したのは『金融市場の動搖防止、人民資産の保障をはかるため』の漸進主義に基く。これによつても併進が暫定的な措置であることは明かである。ただ法幣が現在より更に暴落を續け或は重慶側が新法幣の對抗策として新通貨發行の擧にでも出た場合も豫め考慮して置く必要がある。かゝる際は財政部は『既に有效なる辦法を準備しある』と公表してあるが現實の問題としてはしかく簡單ではない。法幣と等價關係を切斷したのちの華興券が流通部面から浮き上つて、海關收入を除いては單なる單位貨幣的存在に墜したことは身近な經驗であつた。かゝる際物資基準と關聯して如何なる價值水準を獨目的に決定する

かが問題なのである。また屢々傳へられるが如く重慶側が萬一法幣を回收して外價兌換を封するやうな新通貨を發行した場合、新法幣自身既に一億圓の外貨準備を有するとしても、これをもつて今後とも健全通貨性を保持するに萬全を期し得るものとはいひ切れまい。しかもなほ根強い流通力をもつ法幣の驅逐はさきにもあげた如く各種條件の先行を俟たねば一朝一夕には期待し得ないのである。ここにおいて

**當面の課題** は軍票との地盤關係を如何にするか、問題となるのである。新法幣はその發足に明示した如く華興券の發行を停止して先づ海關收入、公租公課の受入れ等華興券がこれまで占めてゐた分野をそのまゝ代位することによつて流通を開始したのである。しかし華興券がその誕生後發育不良に陥つたのは一つには軍票との併進が事實上不可能であつたことに起因する。この點に關し國民政府の方針は『日本軍票に關しては事變繼續中の特殊事態なるに鑑み正にこれと相互に十分の協力をなし、おのおのの負ふところの使命を遂ぐるを得せしむ』と財政部長聲明中についてあるが、その具體策は詳かではない。しかし新法幣は軍票の存在を認める限り、その分野に蠶食することを避けるは當然でありその限りにおいてまた流通面の狹隘化を來すことは華興券の場合と何等異ならぬ。一部在野の議論として軍票の回收論が唱へられるのはかゝる根據からである。新法幣を眞に新支都の統一的通貨として育むためには理論的には正しい。ただその際軍票はあ

くまで軍作戦に基くものである以上、新法幣がよくその機能を代位し得るかどうか、またかゝる措置によつて發行額が急激に増加して、その價值維持に萬全を期し得るかどうか、この點は聯銀券の場合と全く同じ轍を踏む危険性が多分に存するのである。政治的壓力と經濟的統制が北支より一層困難視される中支においてはそれだけ慎重なる用意と覺悟が要請されねばならない。これを要するに新法幣の成長は一に國民政府の發展の問題にかかり、その意味で支那事變處理の方策によつて規定されるものといはねばならない。

## 西南經濟建設

### 一 西南經濟の工業化

西南五省——廣東、廣西、四川、貴州、雲南——の經濟開發は今次事變勃發の前より豫て重慶政府の全國經濟建設計畫における重要部門の一つとなつてゐたものであつたが、西南五省に割據してゐた反蔣將領の存在は五省政治、經濟の中央化を阻み、自然その開發計畫も全く一個の机上計畫に過ぎぬものであつた。しかるに綏遠事件を轉機として李宗仁、白崇禧の率ゐる廣西派との激しき對立も解け、引續きまた國共の合作によつて、『一致抗敵』の口

西南經濟建設

號の下に、内政統一の機運が熟し、かたがた日支間の空氣がいよいよ緊迫するにつれて、重慶政權は先づ西南經濟の開發を推進して抗戰に備へんと在上海有力實業家、銀行家を糾合して視察團を組織し、これを西南各地に派して、重慶政權の西南經濟開發計畫に對する彼等の關心を促したのである。やがて今次事變の勃發をみるに至り、重慶政權の財政が據つて立つ都市、沿岸富有の地を悉く喪ふに及んで、重慶政權は抗戰經濟の再建を奥地別けても西南經濟の建設に求めざるを得なかつたのである。すなはち日本軍を奥地に導入し、抗戰を長期化することによつて最後の勝利を期待した重慶政權は、ひたすら西南の經濟を開發して、持久抗戰の力量を整へんとしたのである。いづれにしろ重慶政權は上海の失守に先立ち上海、南京、無錫など江南主要都市および青島にあつた諸工場を生産設備を先づ武漢、南昌、長沙、株州、梧州、重慶などへ搬出することを命じたのであるが、武漢の失陥あるひは長沙、株州に對する我が空軍の絶ざる爆撃に脅かされて、廣東より搬出された工場生産設備とも、これを更に貴陽、桂林、昆明に移遷するの已むなきに至つた。かくて重慶政權の領導する『抗戰建國』はいよいよ西南經濟の建設に依存することとなり、その成否は今後における重慶政權の抗戰力量を決定する重要な因子となつたのである。

昭和十三年三月十日より四月三日の五日間に互り漢口において開催された國民黨全國臨時代表大會が上海、南京失守の後はいはゆ



る抗戦第二期における基本方策を規定した『抗戦建國綱領』に基いて決定された同年七月の『抗戦建國綱領實施辦法』のうち、抗戦經濟再建の具體的要領を次の如く掲げてゐる。

- (一) 經濟建設は軍事を中心とし、同時に民生の改善に留意する。この目的に基いて計畫經濟を實行し、内外の投資を奨励して戦時の生産を擴大する。
  - (二) 全力を擧げて農村經濟の發展を圖り、合作を奨励し、糧食を調節し、荒地を開墾し、水利を疎通し、鑛業を開發して重工業の基礎を確立し、輕工業の經營を奨励して各地の手工業を發展せしめ、戦時統制を強化して財、行政を徹底的に改革する。
  - (三) 銀行業務を統制し、商工業の活動を調和する。
  - (四) 法幣を強化し、外國爲替を統制し、國貨進出を管理して金融を安定する。
  - (五) 交通系統を整理し、水陸空の連絡運輸を行ひ、鐵道公路を増築し、航空路を増設する。
  - (六) 奸商の暴利、投機を嚴禁し、物品の平價制を實施する。
- ついで武漢淪陥の直後、重慶において開催された第五次國民參政會議は農業生産の促進、鑛業生産の擴充、工場、農地の移轉、對外貿易の促進、金融の整備など諸建設計畫に關する經濟部長翁文灝の報告を採擇した。右の建設計畫は中國經濟の工業化を主たる目標としたものであつて、その要領を摘記すれば次の如くである。

しめる。

- (一) 移遷せる民營工業の工廠再開に關する行政手續事務は行政院中國工業合作協會が擔當、指導する。
  - (二) 工業技術改善の研究は經濟部中央工業試驗所が之に當る。
  - (三) 國營重工業に關する事務は經濟部資源委員會がこれを管理し各地方關係の工業にあつては、經濟部が各省政府建設廳と協力合資のうへその經營に當る。
  - (四) 軍事と關聯する軍需工業たとへば兵工廠、修機廠、軍服廠などは軍政部兵工廠がこれを管理する。
  - (五) 交通工具製造工業たとへば自動車製造廠、自動車修理廠、造船廠などの管理は交通部、經濟部合作の交通工具製造工業設計委員會がこれに當る。
  - (六) 航空機製造工業は航空委員會が管掌する。
- 以上に掲げた各機關が抗戦開始より二箇年に互つて努力經營した結果、西南各地に設立された工場は西南經濟建設委員會統計科二十八年上期報告によると、民營工場一七六廠、國營ならびに省營工場一〇九廠、總計二八五廠であつて、右の統計は大體のところ西南各地における新式工場を網羅してゐるといはれる。なほこの外に開廠準備中のもの二〇餘廠あるがその内容は不明である。
- 民營工業の概況** 滿鐵調査月報昭和十五年四月號所載の『西南開發と新興工業』によれば、右に掲げた民營一七六廠の概況は左の如くである。

西南經濟建設

一、工業および鑛業の部門では(イ)基本企業の國營、(ロ)民營企業の保護奨励、(ハ)動力工業の建設、(ニ)農村工業を建設する。

二、商業に關する部門においては(イ)貿易機構の充實、(ロ)國貨生産販賣の奨励、(ハ)物價の平均を圖る、(ニ)燃料供給の圓滑を計る。

三、水利事業の部門においては(イ)農田水利の開發、(ロ)西南水路の改善、(ハ)河川の改修、防水工事の實施、(ニ)治水、發電計畫の併進、(ホ)治水技術の改善と水利文化施設の擴充を圖る。

この報告を基礎として翌昭和十四年一月經濟部に『西南經濟建設委員會』および『西南經濟研究所』が組織され、更に同委員會の下に『中央遷廠委員會』ならびに『工廠調整委員會』を設置して、専ら淪陷區内工場、西南移遷あるは西南工業の建設を指導する機關たらしめたのである。

かくて武漢、廣東の失陥を機縁として重慶政權の西南經濟建設計畫はいよいよ急テンポをもつて推し進められることになつたのであるが、わけても重慶政權今後の抗戦力量を決定する工業の建設については、經濟部と西南經濟建設委員會とが相協力して、次の如き各種の機關を設置、分掌することゝなつた。

(一) 民營工業の農地移遷事務は、經濟部工礦調整處が各商工業者と合作、中國工業聯合移遷委員會を組織して、これを處理せ

(1) 機器工廠

既に操業を開始してゐる工廠は計二一二廠、その大部分は重慶、昆明の兩地に集中してゐる。うち重慶に設立されたもの一五廠で、最も規模の大なるものは新中公司、大森機器公司の兩廠で夫々上海および漢口より移遷されたものである。しかし資本金は夫々六十萬元、二十萬の小額であつて、工場設備もまた狹隘不備があり、僅に吸水ポンプ、小型モーター、機械附屬品を製造し得るに過ぎない。そのほかハンドの製造、釘鋸の製作あるは機械類の修理を行つてをり、技術の程度も低いが、抗戦の急需によつて日夜操業を繼續してゐる。

(2) 化學工廠

現在開場してゐるもの約一〇廠、西南各地に分散し、そのうち規模の比較的大なるものは官商合併の昆明化學工業材料製造廠(新設)、自流永利硫酸廠(永利化學工業公司の塘沽、南京兩廠を合併して移遷せるもの)、重慶家庭工業社(上海より移遷)、重慶天厨味精廠(上海より移遷)、重慶酸素廠(上海より移遷)、硫酸廠(上海より移遷)の六廠であつて、いづれも百萬元以上の資本金を擁し、各工廠の設備もまた優秀であり、その技術も最新のものであるといはれてゐる。生産された硫酸、硝酸水、液體および吸入酸素は凡て政府が買上げ、軍用に供してゐる。

(3) 紡績工廠

既に操業を開始してゐる七工廠がある。すなはち中支方面より移遷し來れる裕豐、裕華、震雲の三廠、現地に新設された官商合併の一紡廠および成都、渭南、西安にある三紗廠である。四川省内に四、貴州省内に二、雲南省内に一と西南各地



に分散してゐる。何れも百萬元以上の資本金を擁し、紡錘数も一萬を超え、規模もまたみるべきものがあるが、その製品の大部分は軍用として政府に買上げられ、西南省民の需要を充すに足らず、積極的な生産擴充が期待されてゐる。

(4)印刷工廠 現在開場中のもの七廠、大部分は重慶、昆明にある。この外に大公報、掃蕩報、武漢日報、新華報など大新聞社の附屬印刷工廠がある。

(5)電氣廠 民營電氣廠の西南地方に在るものは僅に成都電燈公司、貴陽電燈公司、蒙自電燈公司、漢中電燈公司、嘉定電燈公司の五廠にすぎない。いづれも規模狭隘で、最大なものも資本金四〇萬元程度である。火力によつて發電してゐるが、出力も二、〇〇〇キロワット以下であつて巨大なる電力の供給は到底不可能である。

(6)陶器工廠 西南各省の製陶磁器工業は元來きわめて幼稚なものであり、現在では東南地区より移遷して來た三廠があるに過ぎない。その尤なるものは九江より移遷して來た光大瓷器廠である。景德鎮の優良工人を多く集めてゐる。

(7)煙草工廠 現在西南地區には三個の煙草工廠がある。その尤なるもの南洋兄弟煙草公司重慶分廠であつて、他の二廠の規模は取るに足りない。

(8)製革工廠 重慶に四、成都に三、貴陽に一、昆明に四のほかに西安に一、計一三個の製革工廠がある。規模は何れも狭少で

資本金は二萬元より、十萬元前後のものに過ぎない。年生産量は牛、羊豚皮約一萬枚であつて、すべて海外に輸出されてゐる。しかし重慶、昆明における皮革の需要増加とともに、生産の擴張が期待されてゐる。

(9)硝子工廠 重慶に二、昆明に一の硝子工廠がある。資本金は何れも一〇萬元に足りず、技術も幼稚である。製瓶を主としてをり、當分需要を充すことは出来ない。

(10)燐寸工廠 重慶、成都、昆明に各三乃至五廠のほか、雲南省の昭通と會澤および貴州省の貴陽、遵義、思南などに各一、二廠その他を合して二五廠がある。何れも資本金は僅少で最大なものも一、〇〇〇元を出ず、技術もまた極めて幼稚である。

(11)釀造工廠 主として江津(四川)、毛裏(貴州)の二地に集中してをり、現在十二廠が操業してゐる。土法釀造で毎年西南各地に一、〇〇〇萬斤前後の製品を販賣してゐる。原料は主に嘉陵江流域に産する玉蜀黍を使用してゐる。

(12)鑄物工廠 重慶および昆明に六廠がある。殆ど上海、漢口より移遷して來たものであつて、資本金は何れも一〇萬元前後のものに過ぎないが、戦時の急需によつて何れも良好なる業績をあげてゐる。

(13)鐵工廠 約四〇廠が西南各地に散在してゐる。資本金は何れも三―四萬元であつて、規模も極めて狭小であるが、鑄物廠とともに戦時景氣に惠まれて多大の収益をあげてゐる。

(14)セメント廠 啓新洋灰公司の經營にかゝる重慶水泥廠のほかにか雲南水泥廠が昆明碧鶴關に新設された。杜月笙が業主となり啓新および中國水泥公司の使用してゐた技術者によつて操業されてゐる。資本金二〇〇萬元、規模も比較的擴大である。兩廠の製品は凡て建設用として政府に買上げられ巨利を博してゐる。

(15)製紙廠 杜月笙の經營する雲南造紙廠一廠に過ぎない。資本金一〇〇萬元、工場を昆明に置いてゐる。月産量二〇、〇〇〇連すべて政府および有力言論機關において買上げられ、業績は極めて良好である。

(16)製材廠 官商合辦の四川伐木公司在四川省茂州に新設された。戦區内難民の移植かたんに設立されたものである。

(17)冶鐵廠 四川省南川、綦江、威遠一帯の地に約十四の小規模な冶鐵廠がある。土法によつて鐵鑛を採掘精錬し年産約六〇、〇〇〇トンに過ぎぬものである。

(18)製糖廠 四川省資中に資中糖廠が新設されてゐる資本金二百萬元、近代設備をもち月産二〇、〇〇〇袋の精糖を生産してゐる。

(19)絹織廠 新式の設備をもつ絹織物工場は四川省嘉定に新設された嘉定絲織廠一つのみである。生産能力は毎月蜀綬二、〇〇〇匹といはれてゐる。

ともあれ黨政府は事變勃發このかた江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、河南各省における民營工業に對して極力西南移遷を勸説す

る一方、抗戰建國の實需に應じて移遷を統制籌畫し、また地方經濟と調節、あるひは我が空軍による集中爆撃の損失を避けるために、各民營工廠を西南各地に分散移遷せしめたのであるが、中國工業合作社協會は全國を

區域	辦事處所在地
川康區	重慶
雲南區	昆明
東西南北區	重慶
西區	成都
南區	重慶
北區	重慶

の五工作區に分つて、移遷事業遂行の圓滑を計つてゐる。また重慶政權は前述したやうに中央工業試驗所を重慶その他の重要都市十箇所に設け、研究の結果を民營各工廠に紹介して、工業技術の改善に資してゐるほか、更に民營工廠の移遷奨励辦法、協助辦法を規定して、積極的に民營工業の助成に努めてゐる。兩辦法の大綱は次の如きものである。

(一)中國工業聯合移遷委員會は重慶、萬縣(武漢の失守前にな漢口、宜昌にも)に辦事處を、また巴東、沙市、奉節、鄧部はどに運輸站を設置して民營工廠の移遷運輸の便宜を計り、右に要する費用は暫時經濟部工礦調整處において立替へ、移遷完了の後にその半額を黨政府が補助金として出資補償する。



(二) 民營工廠の設備機械、什器の運輸に必要な交通工具有は工礦調整處より交通部軍政部に折衝して鐵道車輛、國營輪船、民船を徵用し右に要する費用および苦力賃、倉敷料、倉庫の建設費は週息四厘の利子をもつて貸付け、移遷工廠が開廠の日より十箇年賦によつて償還せしめる。

(三) 運輸の途中にある各廠機械、什器に對しては中央信託局がこれを保險する。爆撃による損失は廠商と政府において折半負擔し、運送の途中において遺失せる機械、什器に對しては工礦調整處が全額補償する。

(四) 各廠新設、移遷の地點は工礦調整處が各廠商と商議して決定し、公國有地なる場合は無償をもつて所要地を交付し、民有地なる場合は調整處が徵用土地法によつて立替へ買収し、のち政府貸附金の中に算入する。

(五) 各廠商が自己の資力をもつて移遷することが不可能なる場合は、全廠資産を抵當として工礦調整處および工業合作社協會より低利資金の融通を受けることが出来る。また廠商が經營することを欲しない場合は政府が優先的に市場の慣例に従つて評價買収する。また新廠の建設に當つては工礦調整處に委託代辦せしめることが出来る。

なほ政府は失業技術者の登録を行ひ、工礦調整處および工業合作社の紹介によつて必要なる熟練技術者を各廠商に供給する。また各工廠の必要とする機械、必需品は工業合作社協會が

代辦して海外より購入し、その價格は購入代價並に運賃の實費をもつて計算、政府協助貸附金とする。従つて各廠商は技術者の改善に關して政府の指導に従ふべき義務を有す。

(七) 民營各廠の製品に對し政府は優先的にこれを買収する權利を有し製品の輸送については政府より各種の便宜を供與し特に海外に輸出される製品は政府においてこれを統制し獎勵する。

中小商工業の勃興 由來この西南地區は經濟的には非常に立後れた地區であつたが、沿岸都市および東南富裕の地區が淪陥し政府が重慶に遷入するに及んで、右地方の有産階級は職禍を避けその資産を擁して陸續と西南各地に遷り、また上海をはじめ京津漢口の知識階級、技術家あるひは流散した官吏、失學青年も相ついで西南、西北に走つたのである。その數は四川省に約一五〇萬、湖南省中西部に約二〇〇萬といはれ重慶、萬縣、成都、貴陽、昆明、沅陵、衡陽、邵陽、芷江、韶關、郴州、吉安、思南、巴東各都市の人口は急に増加し、生活費も異常に昂騰したのである。かくて重慶政權は以上のべたやうに有産階級を勸説して民營工場

の西南移遷を補助する一方、これらの中産、知識階級および失學青年を救済するために、彼らに地方鄉村へ分散を命じた。すなはち交通の便を開いて市城鎮、鄉村に移民せしめ、彼らもまた我が空軍の都市爆撃を恐れて自發的に安全な農村に移動したのであるが、こゝに彼ら同郷知友が相よつて資本を出し、合作社組織によつて各種の小産業を經營して生活の途を開き、西南地方に安住せ

んとするに至つた。彼らは西南土着人に比して遙に商工の知識に富み、かつ優れた經營の才能を有するので、僅に一兩年の經營によつて早くも土着の中小商工業者を席巻しつゝある。西南土着中小商工業もまた自己の營業を擁護するために喜んでこれらの外來者と提携しそつて合作社を組織した。かくて、西南商工業は事變を轉機として頓に活況を呈するに至り、一兩年來に新興せる中小商工業は一六、〇〇〇家を越え、その資本金總額は三億餘元と、まさに西南中小商工業界に一紀元を畫したといはれる。重慶政權においてはこの新興中小商工業および土着商工業に調整を加へてこれを指導し、合作社の組織を採用せしめる一方、全國の商業銀行あるひは政府系銀行に對して、これらの新興中小商工業者に融資せしめるなど、各種の便宜を供與してゐる。

かくの如く西南地區における中小商工業は急テンポをもつて發展しつゝあるが、地方生産あるひは交通の未發達など四圍の事情より、いまだ一般的に各地に普及徹底してゐる譯ではない。いづれにしろ西南地區における中小商工業發展、分布の概況を適宜七箇區域に分つて記せば次の如くである。

(一) 川中區(四川省の中部) 嘉陵江沿岸にある江北、北碚、合川、潼南、南充、遂寧、太和鎮。長江沿岸にある江津、日沙、合江、瀘縣、納溪、江安、南溪、宜賓、犍爲、樂山および成渝鐵道、成渝公路または渝筑公路沿線の永川、營昌、隆昌、資中、銅梁、大足、資陽などの都市が中心となつてゐる。この區域は農業

西南經濟建設

生産品に富み、著名の營業は凡て農産品に關する手工業である。新興の中小商工業は多く浙江移民の組織せる合作者で毎社資本金四一五、〇〇〇元より一〇萬元に至るもので、總額は五一六、〇〇〇萬元といはれてゐる。經濟部の調査によると政府に登録を了せるもの四、〇〇〇件に上り、未登記のもの二一三、〇〇〇件とある。主なる營業の種類は小鐵廠、印刷廠、織布廠、釀造、藥房、石炭廠、糧行、絹織廠、火藥廠、機寸廠、運輸公司、鹽商、金物商などである。

(二) 川西區(四川省西部) 成渝鐵道沿線の簡陽、全堂、廣溪、川陝公路に沿ふ新都、德陽、羅江、綿陽、三臺、江油。長江沿岸にある、眉山、彭山、新津および岷江に沿ふ宗慶、温江、崇寧、新繁、郫縣、双流、灌縣などに分布してゐる。新興の中小商工業は多く河南、山西、陝西省一帶の北方より移住し來た者によつて經營されてゐる。従つて經營の方法は至つて舊式ではあるが新規開業二、〇〇〇家、資本金總額三三四、〇〇〇萬元に上つてゐる。營業の主たるものは鹽商、錢莊、糧行、茶莊、米莊、煙草莊、布廠である。

(三) 川東區(四川省東部ならびに湖北省西部) 長江沿岸の涪陵、鄖都、忠縣、萬縣、雲陽、奉節、巫山、巴東、秭歸。萬營公路に沿ふ梁山、大竹、渠縣、營山、宜漢、廣安、通江。萬施公路に沿ふ利川、恩施、宣恩、咸豐、建始および施渝公路に沿ふ黔江、彭水、南川に分布されてゐる。この區域に移住して來た者は餘り資



産を有せず、營業の規模も狭小で、何れも資本金は一―二、〇〇〇元から一〇、〇〇〇萬元程度のものに過ぎない。桐油をはじめ生葉、綿布を取扱つて僅に生活を維持してゐるに過ぎない。ただ桐油は刻下の重要輸出品の一つであるので、商人のこれに投資する者多く、萬縣においては桐材の購入、製油に一千餘萬元が投ぜられてゐる。

(四)湘西區(湖南省西部) 湘黔鐵道に沿ふ常德、桃源、溆溪辰谿、芷江。湘黔公路沿線の澧浦、新化、湘鄉、邵陽、黔陽などの地に分布されてゐる。武漢失陥の後、湖北省をはじめ江西、浙江省民の來往する者多く桐油廠、アンチモニー採掘、糧行を經營してゐるが、若干の來往者が桐油廠、アンチモニー採掘に巨費を投じてゐる以外は規模おほむね狭小であつて、來往者の總投資額は約二、〇〇〇萬元とみられてゐる。

(五)湘南區(湖南省南部および廣東省北部) 戰禍が武漢より更に西南にのび殊に長沙大火の後には湖南湖北の巨商は總て當區に逃れ、粵漢鐵道に沿ふ湘潭、株州、醴陵、衡陽、來陽、柳州、宜章、樂昌、韶州、英德に湘桂鐵道沿線の祁陽、零陵、興安、靈山、桂林および湘桂公路に沿ふ安仁、茶陵、蓮花などの地に分布して糧食行を營み、あるひはタングステン礦の採掘、小鐵工廠の經營に約三、〇〇〇萬元の資金を投じてゐる。

(六)粵贛區(廣東、江西省) 南昌失陥の、ち江西の富民は湘贛公路に沿ふ吉安、安福、永新に、また粵贛公路に沿ふ泰和、遂

川、上猶、贛州、南康、信豐、隴南、虔南に、あるひは閩贛公路沿線の臨川、南城、南豐、廣昌、寧都、興國などの都市にはしり商業のほかタングステン礦山の開發と小工業の經營に投資してゐるが、その總額一、〇〇〇萬元、いづれも相當の利益を収めてゐるといはれてゐる。

(七)昆明區(雲南省) 雲南省が我が空軍の爆撃を被る危険が、また海外との交通路を有してゐるので、武漢失守の、ち江西、廣東地方の巨商は相携へて滇越鐵道沿線の昆明、宜良、開遠、蒙自、または滄昆公路に沿ふ馬龍、曲靖、霽益、平彝あるひは滇緬公路に沿ふ安寧、綠豐、廣通、楚雄、鎮南、祥雲、大理、永平、保山の地に運れた。その數約二、〇〇〇家に上り紡織廠、茶莊、自動車行、機器廠、鐵工廠、印刷工廠、醸造廠、運輸公司、百貨公司等を興し、この地區に非常なる繁榮を招來してゐる。

國營工業の概況 主要重工業は凡て經濟部資源委員會が自ら經營するか、または各省政府と合辦經營してゐる。軍需工業はさきにも記したやうに軍政部兵工廠が經營の衝に當り、一部は外國資本と合作、いづれも極秘裡に經營されてゐるが、大要は次の如くである。

(1)精鍊工業 國營にかゝる精鍊工廠は次の八廠である。

設立地點	資本金	主辦機關	設備	技師	從業員	生産額	原料
中國鍊銅廠 (新設) 雲南省會澤	一五〇萬元	資源委員會	新式洗砂熔鍊機器を設備してゐる	三、〇〇〇餘名	三、〇〇〇餘名	精鍊年額一、五〇〇噸、銅年額八〇〇噸を占めてゐる	會澤、巧家、永勝などの銅鑛を土法によつて採掘してゐる
簡錫公司 (新設) 雲南省箇舊	一、〇〇〇萬元 (佛支合辦)	資源委員會、フランス資本	規模廣大にして、反模大ならざるを採用法	八、〇〇〇餘名	二、〇〇〇餘名	錫年額七、〇〇〇噸、銅年額九〇〇噸を占めてゐる	箇舊にて採掘
重慶鍊銅廠 (新設) 重慶磁器口	五〇〇萬元	兵工署	規模廣大にして、反模大ならざるを採用法	一、〇〇〇餘名	一、〇〇〇餘名	年鋼産一、二〇〇噸	四川省南川、威遠、瀘縣、威遠、瀘縣を求めてゐる
中佛鍊煤公司 (新設) 佛印河内、雲南省蒙化および宜良	一、〇〇〇萬元	資源委員會、佛印政府代表	規模廣大にして、反模大ならざるを採用法	四、〇〇〇餘名	四、〇〇〇餘名	年鋼産一、二〇〇噸、銅年額九〇〇噸を占めてゐる	探炭地は宜良、佛印、蒙化、地方
中國鍊錫廠 (新設) 雲南省會澤	一〇〇〇萬元	資源委員會、アンチモニー管理處	比較的良好	三、〇〇〇餘名	三、〇〇〇餘名	精鍊年額一、五〇〇噸、銅年額八〇〇噸を占めてゐる	原錫は湖南省、東安、沅陽、溆浦にて採掘されてゐる
中國鍊錫廠 (新設) 江西省吉安	一〇〇〇萬元	資源委員會、タングステン管理處	規模良好	三、〇〇〇餘名	三、〇〇〇餘名	年鋼産一、二〇〇噸、銅年額九〇〇噸を占めてゐる	江西省大庚、贛州、會昌、崇義、上猶などにて採掘されてゐる
中國冶金廠 (新設) 四川省潘松	二〇〇萬元	資源委員會	新式の水銀化鑛を設備してゐるが、土法が多い	一、〇〇〇餘名	一、〇〇〇餘名	年鋼産一、二〇〇噸、銅年額九〇〇噸を占めてゐる	潘松より採掘



販 賣

軍用に供するほか大部分は輸出され、國外輸出に當る。

上 大部分は海外に出に振りむけらる。

(2)軍需工業 軍需工業は計七一廠あるが、その概況は次の如くである。

(イ)兵工廠

全国各地より西南に移遷された兵工廠は七廠であつて、そのうち五龍兵工廠は漢陽兵工廠、重慶兵工廠は金陵兵工廠、宜賓兵工廠は琵琶江兵工廠の移遷したものである。全兵工廠の施設費は五、〇〇〇萬元と見積られ、年製造能力は歩兵銃一〇萬挺、機關銃二、〇〇〇挺、彈丸五〇〇萬發と稱せられてゐるが、刻下の需要には到底應じきれない有様である。

(ロ)大砲廠

湖南省株州にあつた大砲廠は、事變勃發ととも、に廣西に移遷された。フランス政府との合辦經營にかゝり資本金一、〇〇〇萬元、新式機械を設備し、フランスあるひはソ聯より技師を迎へてその指導を受け、年製造能力は二百門といはれてゐる。その他の地にも大砲廠が設置されてゐるやうであるが詳かでない。

(ハ)修機廠

黨政府は戰爭遂行の必要に應じて前線各都市に機械修理廠二七廠を設置し毎月四一五、〇〇〇挺の歩兵銃を修理してゐるといはれてゐるが、詳細は不明である。

(ニ)自動車製造、修理廠

製造廠は昆明にある。設備は五〇〇萬元と評價されてゐる。資源委員會がアメリカ資本家と合辦

經營してゐる。設備の内容は詳かでないが、年産能力は一、二〇〇輛であつて、原材料の大部分は海外より輸入されてゐる。修理廠は三四廠あり、設備資本は何れも一〇、〇〇〇萬元に達せず詳細は不明である。

(ホ)航空機製造廠

雲南省建水に新設されてゐる。資本金二、〇〇〇萬元であつて航空委員會がアメリカ、フランス資本家と合辦して經營に當つてゐる。規模廣大であつて、新式の機械を設備してゐる。従業員六、七萬を擁し、技術者二千餘名、米佛人技師を招聘して指導に當らしめてゐる。年生産能力一、〇〇〇臺、原材料はすべてアメリカより輸入してゐる。

(3)その他雜工業

まづ國營の機器廠二〇廠があり設置地點、内容ともに概ね詳かでないが、その内に昆明電廠、萬縣電廠、重慶電廠、涪縣水電廠(新設)、西安電廠がある。その總發電能力七萬キロワット、投下資本總額約一、四〇〇萬元といはれてゐる。その他の雜工業を一括して表示すれば次の如くである。

合川酒精廠 (新設)	自流井精鹽廠 (新設)	資中糖廠 (新設)	萬縣植物油廠 (新設)	重慶植物油廠 (新設)	廣西硫酸廠	廣西酒精廠
四川省合川	四川省自流井	四川省資中	四川省萬縣	重慶	廣西省蒼梧	廣西省馬平
設置地點	一八〇萬元	二〇〇萬元	五〇萬元	二〇〇萬元	一〇〇萬元	一〇〇萬元
資本金	經濟部、省政府	經濟部、省政府	經濟部	經濟部	省政府	省政府
主辦機關	規模良好新式蒸溜機を有す					
設備	年産額	年産二〇〇萬元	年産桐油三〇萬石	年産桐油三〇萬石		
生産額	〇桶					
原材料	江津、合川、南充地方の玉蜀黍および小麦を使用してゐる	内江、資中、資陽、簡陽に甘蔗を栽培してゐる				

右のほか雲南省保豐に經濟部の主辦にかゝる中國茶業公司(資本金一、〇〇〇萬元)が新設されてをり、業績は頗る良好といはれてゐる。

二 西南における交通建設

西南經濟の後進性については改めていふまでもないところである。従つてこれを工業化するに必要な建設諸資材の大部分を海外に求めざるを得ないのである。殊に沿岸水面が我が海軍によつて嚴重封鎖されるに至つては、西南經濟の建設を推進して、持久抗戰の急需に應ぜしめるためには、對外交通路を確保することが絶對的に必要なであつた。しかしながら重慶政權の窮迫した戰時

西南經濟建設

五九三

財政、生産技術の後進性わけでも戰時の急需は、西南地區における交通路の急速なる近代化を許さない。従つて重慶政權は切迫せる交通の需要を先づ公路の建設に求めざるを得なかつたのである。すなはち公路の建設は、必要な資材はもとより、技術的にもまた時間的にも、鐵道の建設に比して遙に容易なものである。従つて質的にもまた量的にも、よし鐵道に劣るにしても、公路の建設は在來公路および水路あるひは鐵道を相互に連繫して、西南地區における輸送體系を強化する可能性を重慶政權に與へたのである。たとへば昭和十四年二月から財政、經濟部合作の下に實施された八省連絡路による輸出土産品および輸入外國品の輸送計畫をみると、上海から湖南省衡陽に至る區間は次のやうな徑路をた



どつて輸送されてゐた。

(水路)——(公路)——(浙贛鐵道)——(公路)

上海—寧波—漢口—金華—應—潭—寧都—吉安—衡陽  
 右の輸送に要する日数は七日間であつたといはれてゐるが、衡陽からは粵漢鐵道によつて漢口、韶州に通じ、また衡陽より廣西省桂林を経て柳州に至る區間は粵漢、湘桂鐵道によつて輸送され更に公路によつて貴州省貴陽を経て、一つは重慶に、他の一つは昆明に輸送されるのであつた。かくの如く昭和十三年十月武漢の失陥によつて既成鐵道の六五%を失つた重慶政權は西南地區における戰時輸送體系の完成を先づ公路の建設に求めたのであるが雲南省における十四年末現在の公路建設状況をみると次の如くである。(單位キロ)

西南公路延長		未完成公路延長	
鋪裝路	土路	鋪裝路	土路
十四年八月末	一、〇〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇
十一年末	三、五〇〇	一、九五〇	二、三〇〇
		一、三〇〇	一、三二〇

すなはち通車公路の總延長は抗戰二箇年を通じて、事變前比し増加を認められないのであるが、鋪裝公路の延長が著しく増加してゐるところよりみて、重慶政權の西南地區における公路建設計畫は、専ら既成幹線公路輸送力の強化あるひは特に重要な幹線公路の建造に重點を置いてゐるものやうに推察されるのである。

いづれにしる支那における公路の建設は、從來もつばら各省政

府の手に委ねられてゐたものであつて、舊國民政府が自ら公路建設の計畫實施に參與するに至つたのは昭和六年全國經濟委員會成立以後のことであつた。右委員會は周知の如く國際聯盟の援助と指導とによつて誕生したものであつたが、當時なほ江西省を中心として蟠踞してゐた共產軍の討滅といふことが舊國民政府およびこれを支へる各帝國主義諸國にとつて緊迫した共同の必要となつたのである。翌六年秋蔣介石は同委員會委員長として漢口に江浙、浙江、安徽、江西、湖北、湖南および河南各省の建設廳當局を招集し、いはゆる七省連絡大幹線公路の建設を決議して、支那の公路建設に系統的かつ計畫的な形態を附與し、新機軸を齎したものであつた。しかしこの時期においても主要幹線公路を除いてはなほ、各省政府の管掌に委ねられてゐたのであつて、全國經濟委員會の西漢、西關公路の直轄建設のほかは概ね上記の幹線公路建設の督勵、財政援助の範圍を出なかつたものである。しかるに今次の事變が勃發して、前に記した如く公路建設に對する國家的必要が緊迫するにつれて、これに對する國家的統制が漸次強化されるに至つたのである。

すなはち全國經濟委員會は抗戰開始とともに、西北移遷のちにおける共產軍を討滅するため豫て西關、西漢、寧夏—平涼公路など西北公路網の建設に傾けてゐた努力を割いて、西南地區における公路交通體系の確立と整備および軍事的に必要な戰線或は東

部海岸地方に通ずる主要公路建設に傾けるに至つたのである。この期間における全國經濟委員會の西南地區公路建設に關する活動の概要は

(イ)軍用公路の建設に對する助成および監督 すなはち各省政府の公路建設に對して經濟委員會が施工上の監督に當り、多數の技術家を各省政府に派遣して各省政府建設廳當局に協力せしめたのである。その主要なる地域は江蘇、安徽、福建、河南山東、河北、山西諸省であつたが、當時これらの各省においては、一、五二〇キロの公路建設が遂行されたのである。

(ロ)西南における對外交通路の建設助成 その主要なるものは、いふまでもなく佛領インド支那および英領ビルマに通ずるものであつた。まづ佛印に對する交通路として湖南省衡陽より廣西省桂林、柳州、南寧を経て鎮南關に通ずる公路の建設および改良が施工されたのである。かくてこの公路の湖南段は昭和十二年十一月に完成され、廣西段に對しても、鎮南關附近の公路が著しく狹隘にして大量の輸送に堪へ得べくもなかつたのでこれを大々的に改良施工した。また公路全線に互つて橋梁を架設したが、これらの工事は總て經濟委員會より派遣された技術家の指導監督によつて施工されたのである。滇緬公路の建設も最初は専ら雲南省政府の施工にかゝるものであつたが、これに對して經濟委員會は技術的、財政的援助を供與したのである。右のほか、西南、西北を連絡する川陝公路、重慶—漢中公路

漢中—白河公路、白河—老河口公路、老河口—漢口公路の築造改良を助成してゐた。

しかるに戰區の擴大するにつれて、重慶政權は戰時交通の建設と管理を強化し、すべてこれを戰時の環境と需要に適應せしめるために昭和十四年十月より鐵道、公路、船舶、電信、航空などの各交通事業は全般的に交通部の統轄することとし、交通の建設、運營の中央集權制度を確立したのである。すなはち交通部の下に總務部、人事、財務、材料、路政、電政、航政の七司と郵政、路警、特設新路建設委員會において擔當することとしたのである。かつ交通部は後方勤務部と連絡し、後方勤務部の下に各戰區に總監部を、七省に直屬する糧食倉庫、九箇所にまた直屬の兵器總庫および運輸司令部を設け、更に運輸司令部の下には各地に船舶司令部同司令所、同司令隊をはじめ鐵道司令部、同司令局ならびに西北運輸、西南運輸の兩處を分設し、兩處の下に各省公路局、自動車大隊を設置した。更に輸送の效率を強調し、運輸機構を統一するために、昭和十四年十二月十四日公布された交通部令によつて中國運輸股份有限公司(資本金二千萬元)を特設して、輸送の統一、人材の集中、管理の強化、鐵道をはじめ公路、水運および航空など全運輸機關の需要する運輸工具の製造、所有運輸工具の統轄と、調度を謀らしめてゐる。なほこれに先だち水運を統轄するために長江航業聯合辦事處および内河航業聯合辦事處が設立されてをり



前者は長江一帯の民營航業を、後者は交通部航政局所有の船舶をそれぞれ管理しかたゞ、船舶の徴用と貨客運送の辨制を辦理してゐるのである。

ともあれ専ら公路輸送を一元的に管掌する西北公路運輸管理局は西安に、西南公路運輸管理處は貴州に設けられてゐるが、これが上には前記の交通部令によつて公路管理處が設置され、公路の建設、運営に關する一切を畫策してゐる。すなはち總管理處の下に總務科のほか監理、工程、橋渡三科が分設されてゐる。

△監理科 (イ)公路交通行政の管理ならびにその規定に關する事項、(ロ)自動車、運轉手、修理工の検査、試験ならびに登記に關する事項、(ハ)省管および私營自動車運輸機關の立案、開業、監督ならびに検査に關する事項、(ニ)公路旅行者の警備に關する事項、(ホ)その他公路交通に關係ある事項を管掌してゐる。

△工程科 (イ)公路工程の計畫ならびにこれが審査に關する事項、(ロ)公路工程の經費算出に關する事項、(ハ)公路の建造ならびに改良、(ニ)交通部直轄公路工程の直接實施に關する事項(ホ)その他公路施設の工務に關する事項などを管掌する。

△橋渡科 (イ)公路橋渡の計畫に關する事項、(ロ)架橋經費算出に關する事項、(ハ)橋渡の築造ならびに修理、(ニ)交通部直轄公路橋渡工程の直接實施に關する事項、(ホ)その他公路橋渡の工程に關する事項を管掌する。

公路建設の概況 かくして重慶政權が抗戰二箇年の間に完成した西南公路網體系は大要つぎの如きものである。

(1)川黔公路 重慶の對岸海棠溪を起點とし四川省最大の鐵礦埋藏地である綦江に通じ更に松坎、桐梓、遵義、息烽を経て貴州省の貴陽に至る延長四八八キロ、貴陽より瀘黔公路によつて昆明に通じた瀘緬公路とつながる西南公路體系における中樞路線である。事變前までに全線の通車を完成してゐたのであるが、事變の勃發によつて輸送密度の高まるにつれて重慶政權はこれが大改修に着手、昭和十三年八月より全線バスの運行をみるに至つた。

(2)瀘黔公路 貴陽より平朔、安順、鎮寧、安南、普安、盤縣を経て雲南省に入り平彝、富源、曲靖、馬龍を経て昆明に達する全長六六二キロの幹線で四川、貴州、雲南省向の主要連絡路である。昭和十二年三月全線の通車をみたものである。

(3)瀘緬公路 この公路は昆明より起つて下關、保山、陵龍、ムセを経て英領ビルマのラシオに通ずる延長一、一四六キロに及ぶ大公路であつて、うち九六キロは支那領にある。昆明と大理間は既に數年前より開通してゐたもので、いはゆる瀘緬公路として建設されたものは昆明、大理公路の下關より分岐し、西南折してビルマに至る區間五五二・四キロの建設と、既成區間綠豊の以西三〇〇キロの鋪裝と百を越ゆる橋梁の架設であつた。この區間は沿線の標高二、〇〇〇乃至六、〇〇〇呎に達し、その間をメコン、サルウインの二大河の河谷が縦走して、地層が切斷地に富むため

その工程は困難を極めたものである。しかし本公路は重慶政權にとつて西南地區に残された唯一の對外交通路として、日にその重要性を加へるに至つたため、昭和十二年八月建設の工が起され、翌年十一月十日に全線の工を終へ十二月に入つて通車をみるに至つたものである。本公路建設のために重慶政權より三二〇萬元、雲南省政府より五〇萬元、計三七〇萬元の資金が投ぜられてゐるが、全キロ程の長大なるに比して建設費の低廉なのは、荒地の利用、私有地の收用ならびに民工の勤勞奉仕によるものとみられ、この公路の築造に動員された民工の數は一時二十萬を越したと報告されてゐる。

(4)黔桂公路 貴陽より龍里、貴定、馬場坪など湘黔公路から分れて都勻、獨山、六寨、南丹を経て河池に至り、更に德勝、慶遠、思練城、里高、三都を経て柳州に達する全長六三二キロの公路である。昭和九年完成し、翌十年全埠に互つて大修理を施したのも通車をみたものであるが、全線ほとんど土路にして路面は不良であるといはれる。本公路は四川、貴州兩省と廣西省間の唯一の連絡路であつて、我が南寧作戦が開始されるまでは重慶、廣州灣間の對外交通路として重大な役割を演じてゐたものである。

(5)桂越公路 廣西省柳州より黔桂公路の一部を利用して思練城に至り北泗、遷江、賓陽、八塘、五塘を経て南寧に通じ、更に西南へ走つて吳村城、綏敏、思樂、明江、龍州を経て佛印國境の鎮南關に至る全長五九九キロ。南寧失陥までは對佛印輸送路として

極めて重要な公路であつた。なほ本公路の支線ともいふべき吳村城より岐れて欽州に通ずる邕欽公路がある。この公路も廣東失守の後佛印、香港よりの輸送路として相當の價值をもつてゐたものである。

(6)湘桂公路 粵漢鐵道の要衝である衡陽より湘桂鐵道に沿うて進み祁陽、永州、黃沙鋪を経て廣西省に入り全州、黃安、靈州を経て桂林に至り、更に南に折れて朝陽、荔浦、修仁、四排坪、榴江、雒谷を経て柳州に至るものである。全長七六〇キロ、廣東失陥の直後、桂越公路とともに全線に互つて路面の改良、橋梁の強化が施され、南寧失守までは湖南省にあつた中央軍主力の各據點と廣州灣および佛印との連絡に重大な役割を果した幹線公路である。

(7)柳州、廣州灣公路 柳州より起つて、桂越公路の賓陽より岐れ黎城城、黃練、貴縣、興業、鬱林、陸川、石角、藤江を経て寸金橋に至り廣州灣に通ずる全長約四〇〇キロの公路であつて、廣東失陥の、ちは香港より西南地區に至る最短公路として利用されてゐたが、鬱林より博白、石康、藤州を経て北海に至る約二〇〇キロの支線公路とともに昭和十四年四月軍事上の見地から破壊されてしまつた。

(8)湘黔公路 この公路は長沙と貴陽を結ぶ京黔公路の一環をなし、武漢失陥前にあつては武漢より貴陽、昆明に通ずる西南地區における對外交通路の一環として極めて重要な役割を演じてゐ



たものである。長沙より起つて益陽、常德、茶庵鋪、沅陵、辰谿、芷江、三穗、鎮遠、安江、鎮山、貴定を経て貴陽に達する全長一、〇〇九キロ、西南地區における一大東西幹線である。

(9)川湘公路 湘黔公路上の沅陵を起點とし瀘溪、乾州、永綏を経て、四川省境の茶洞鎮に至り西陽、彭水、角羊鎮、南川を経て綦江に至つて川黔公路に連る全長九〇四キロ公路で、重慶と湖南中部地方との連絡に重要な役割をもつてゐる。事變の勃發ともにも重慶政權は本公路の重要性に鑑みて大改修を施し昭和十三年十月その竣工をみたものである。

(10)成渝公路 重慶より内江、璧山、永川、榮昌、安富、隆昌、資中、資陽、簡陽を経て成都に達する總延長四八〇キロ政治的にはもとより経済的、軍事的にも重要な公路の一つであるばかりでなく、川陝公路(四川省成都より新都、廣漢、德陽、羅江、綿陽、梓潼、劍閣、昭化、廣元を経て陝西省に入り寧志、漢中を経て隴海鐵道の終端寶鶏に通ずる七八八・五キロ、昭和十一年六月までに全線の通車をみた西南、西北連絡幹線公路である)に連り西南西北兩公路體系を連絡する重要公路でもある。

(11)川鄂公路 成渝公路上の簡陽から分岐して樂至、遂寧、南充、渠縣、大竹、梁山、萬縣を経て長江を渡り利川を経て湖北省恩施に至る全長八一〇キロ餘、戰局の現段階においては四川、湖北兩省を結ぶ公路として軍事上相當の重要性をもたされてゐる。

(12)川滇公路 成渝公路上の隆昌より起り沱川、瀘州、叙永、赤水河、畢節、威寧の重要炭田地帯を縫ひ宣威、曲靖を経て昆明に通ずる全長九〇〇キロの公路であつて、昭和十三年十月末に全線の通車をみたものである。しかし本公路は地勢的條件により勾配、曲線に阻まれてゐるので運輸の一部は駄運により、また瀘州において長江の水運とも結ばれてゐる。

赤水河、畢節、威寧の重要炭田地帯を縫ひ宣威、曲靖を経て昆明に通ずる全長九〇〇キロの公路であつて、昭和十三年十月末に全線の通車をみたものである。しかし本公路は地勢的條件により勾配、曲線に阻まれてゐるので運輸の一部は駄運により、また瀘州において長江の水運とも結ばれてゐる。

(13)川滇中路及び川滇西路 前者は叙州より昭通、金澤を経て昆明に達する四川、雲南を結ぶ第二連絡公路であつて、全長八一〇キロ、昭和十五年二月全線の通車をみたものである。後者は四川雲南間の第三連絡公路であつて成都より新津、彭山、眉州、嘉定、西昌、會理を経て雲南省武安に達する全長約一、〇〇〇キロの新計畫路線である。なほ本公路は同十四年八月一日の起工にかゝり西康省の礦産開發に資する重要な役割をもたされてゐる。

(14)川康公路 成都より雙流、新津、名山、雅安、天全、瀘定を経て西康省域の康定に通ずる一七二キロの公路である。この公路の雅安、康定間はすでに昭和十二年に完成してをり、全線の竣工は同十四年内と豫定されてゐたものである。黨政府の重慶移遷とともに漸次重要性を加へて來た西康省の資源開發と省政の中央化を主たる目標としてゐるものゝやうであるが、重慶政權は將來この公路を更に印度國境まで延長して、西南地區における第二の對外交通路たらしめんとする意圖をもつてゐるものと推察せられるのである。

(15)滇桂公路 廣西省龍州より天保、百色、文山を経て越鐵

道の開通に至る約六〇〇キロの公路である。粵漢鐵道が遮斷されてからは欽州灣、雲南省間の捷徑交通幹線とする目的をもつて全線の完成工事が進められてゐた模様であるが、昭和十四年南寧失陥のち桂越連絡公路の遮斷にともなひ長い工を急ぎ、同十五年七月には全線の通車を豫定されてゐたものである。

ともあれ昭和十五年三月交通部長張公權の報告によると、戰時公路の建設は重慶を中心として成都、昆明、貴陽をもつて内衛とし蘭州、西安、鄭州、宜昌、長沙、衡陽、桂林をもつて外衛とする全支公路網の完成を目標とし、同十四年初には西南地區のみにても、改良工事を完成したものが四、七四一キロ、西南西北連絡線路二、二六三キロがあり、なほ積極的に興建中のものが二、〇八一キロ、西南西北連絡線路二、三〇〇キロがある。また右の報告において張公權は「戰時に完成された新公路は全長五、七〇〇キロ、在來公路と合すれば已に八二、〇〇〇キロに達し、毎年支出される公路維持費は約二、〇〇〇萬元、現在八、〇〇〇輛のトラックが各公路を疾驅してゐる」といつてゐるが、うち西南地區にあつては、王新元の推定によれば、常時運轉されてゐるトラック三、〇〇〇臺、乗用車一、〇〇〇臺(國民公論昭和十四年十一月號所載)。また重慶より逃れて來た交通關係技術員の語る所によると、西南公路體系上に運行されてゐる車輛臺數(軍用ならびに官衙用乗用車、少數のバス及び破損車輛を含む)は大體左の如くであるといはれる(滿鐵調査月報十五年八月號所載)。

軍事委員會西南運輸處	八〇〇輛
西南公路運輸管理局	一、二〇〇輛
中國運輸公司	一五〇輛
民間運輸業者	二、一五〇輛
湖南、湖北、江西、四川各省公路局	一、〇〇〇輛
合計	五、三〇〇輛

使用されてゐるトラックはフォード、ジホレー、ドツヂなどであつて、その大部分は積載量二トン車輛であるが、公路の舗裝あるひは橋梁の補強工事が推進されるにつれて、運輸コストの切下げ勞々漸次三・六乃至四トン積車輛の輸入をみつゝあるといはれる。また粗悪な土路また山間地公路の運輸に六、七トンの積載力をもつキヤタビラー式ダイゼル・トラックが使用されると傳へられてゐる。いづれにしろ右の如く推定されてゐる車輛をもつてしても西南地區における運輸の需要に應ずることは不可能であつて、公路上における輸送力のすべては輸入軍需、建設資材および重要輸出品の輸送に傾注され、一般貨物あるひは郵便小包の輸送は全く排除されてゐるものゝやうである。すなはち支那側の消息——「一般貨物の輸送は民間運送業者のトラックによらなければならぬのであるが、その運賃は法外なものであつて昆明、重慶間は一、三〇〇元を要する。しかも民間運送業者のトラックをかりることさへ容易なことではないのである」——はこの間の事情を如實に物語るものであらう。



**駄、挑運及び水運の概況** しかしながら西南地區は地勢の關係から、公路においてさへもトラックによる輸送が非常に困難である場合が尠くない。従つてかかる運輸體系の缺陷は、駄運あるひは挑夫(苦力)の肩により、または水運と連繫することによつて補はれてゐる。すなはち中國植物油公司昭和十四年度貿易報告によると、西南地區における運輸に使役されてゐる駄獸の数は、いまだなほ査査に資すべきものはないが、關係當局では何れも懸命となつて駄獸運輸を規畫し改善してゐる。傳へられるところによると、叙州、昆明間の公路を輸送される貨物は日に約四十トン、叙州より北上して重慶に至る運賃は平均毎トン六〇〇元、南下して昆明に至る運賃は平均毎トン五〇〇元、また昆明より貴陽を経て重慶に至る公路における運賃は平均毎トン一、三〇〇元であるといふ。昭和十四年末交通部は多數のゴム車輪荷車を採用して駄獸の拖曳に供し専ら叙昆公路、昆貴公路上の運輸に使用されてゐる。これらの駄獸行走路線は不斷に改善され、近代化されつつある。たとへば休憩所、警路站を設備し、また人畜に對する藥物治療の設備が施されてゐる。駄獸一頭は五〇斤の貨物を搭載、一日平均三〇キロを走る。通常三〇頭の駄獸が一群となり、五人の駄夫によつて率領されてゐる。駄獸のゴム輪荷車は毎輛五百斤を積載して日に平均二五キロを走らせることが出来る。通常四人の駄夫が一輛の荷車を率領してゐる。このやうにして重慶—昆明公路にあつては天候に異變のない限り三六日乃至四〇日を要してゐる。

る。昭和十四年末この公路を行走した駄獸は一日約三、〇〇〇頭、曳車は同二、四〇〇輛であつた。なほ重慶—昆明公路は専ら政府貨物の輸送に供せられ、一般貨物の大部分は徐州—昆明公路を経由してゐるが、重慶—貴陽公路上の輸送にあつては、その約三分の一すなはち四八八キロが綦江の水運によつて行はれてゐる。駄運によつて輸送される貨物は桐油、綿糸布、藥草、五倍子、烟草、豚毛、豚油である。

山徑に阻まれて駄運さへも通せぬ公路においては挑夫(苦力)を使用してゐる。また我が空軍によつて爆撃され、あるひは我が機械化部隊の進撃を阻止するために支那軍みづから破壊した公路上においても、この種の輸送方法が用ひられてゐる。一人の挑夫の擔ひ得る重量は石油箱二箱七四ポンドが精々であつて、廣西省鬱林より廣州灣に至る一般の公路上における桐油の輸送は専ら挑夫の肩によつて行はれてゐるものである。

西南地區に在る河川は地勢上ごく少數の例外を除いては殆ど航行に適さない。しかしこれらの河川あるひは湖沼に民船、小型汽艇をリレー式に行駛すれば、一連の運輸系統を整へることが出来る。西南地區における水路の擴張については主として經濟部によつて指導計畫されてゐるが、その主要なる水路としては、長江上流の金沙江航線および湘桂航線をはじめ路江(桂林—龍州間七〇〇キロ)、柳江(柳州—桂平間二〇〇キロ)、沅江(梅源—沅陵間一七〇キロ)のほか貴陽—思南間黔江の水路がある。

なかんづく最も重要な水路は金沙江および普渡河の連絡による重慶—昆明間一、三四〇キロの連絡水路であつて、昆明を經由する輸出入貨物の輸送路として重要視されてゐる。重慶政權においては昭和十三年三月より交通部水陸運輸聯合設計委員會、軍事委員會西南運輸處および四川、雲南兩省政府ならびに經濟部揚子江水利委員會の合作によつて測量を開始し、犠牲をいとせず着々と工事を進めてゐる。すなはち重慶—叙州間三九〇キロは減水期においても吃水二フィートの汽艇、民船を通じ、叙州より上流へ五五〇キロを遊航して普渡河に入つて富民に至る二九〇キロは小型汽艇または民船により同地から陸路昆明に通ずるものである。湘桂航線建設工作は全縣—桂林間一五〇キロの開鑿を中心とするものであつて經濟部揚子江水利委員會が廣西省政府と合作して工事を進め、つてゐるものである。この水路が開通すれば増、減水期を通じて五トン積船舶の航行が可能であるといはれる。また路江航線すなは路江と左江を連絡すれば桂林より龍州に通ずる水路系を完成し、竣工の曉には五十トンの汽艇が全水路を航行し得るといはれる。

**鐵道の建設** しかしながら公路による輸送といひ、駄運または水運による輸送といふもその輸送量、輸送原價あるひはまた輸送の正確迅速性においては鐵道輸送に比して遙に劣るものがある。のみならず抗戰の急需には到底應じうべくもない。昭和十一年かねて舊國民黨政府が立案した鐵道建設五箇年計畫は、その對日抗戰準備工作の一つとして、かゝる事態に對處すべく立案され

西南經濟建設

たものであつたが、右の計畫が漸く實現への一歩を踏みださんとした機先き、はからずも今次事變の勃發をみるに至つたものである。さりながら西南の經濟を持久抗戰の培養基とする重慶政權はあらゆる困難をも排除して鐵道の建設を遂行し、これを西南經濟建設推進の樞杆たらしめんとしたのである。すなはち窮迫せる戰時財政と建設資材の不足に悩む重慶政權は鐵道建設の推進を民工の努力率仕に求め、あるひは我が占領地區内にあつた各鐵道の輪轉材料、軌條を撤收して建設資材の不足を補ひ、または新建設線の技術的構成を低下せしめるなど一連の方策を採用せざるを得なかつたのである。

我が鐵道省運輸局編「支那之鐵道」によれば事變直前における支那國營鐵道の車輛數は機關車一、〇七〇臺、客車二、一八四臺、貨車一四、七九〇臺であつたが、昭和十三年十一月交通部長張公權は京滬、滬杭甬、津浦、龍海、京漢、膠濟、粵漢七鐵道における輪轉材料の損害を次の如く報告してゐる。

	機關車	客車	貨車	總計
事變直前現在數	八二六	一、四〇七	九、六五四	一一、八七四
損失數	一四八	一五四	二、四九五	二、七九七
三年六月末現在數	六七八	一二五三	七、一五〇	九、〇八一

なほ京綏鐵道にあつた輪轉材料の大部は我が軍の占領するところとなり、かつ廣九鐵道の遮斷によつて同鐵道上にあつた輪轉材料の大部分もまた英領に遁入したのであるが、北寧鐵道上にあつ



た輪轉資材の殆ど全部は奥地へ移されてゐるので、現在なほ主要幹線鐵道上にあつた輪轉資材の七五%以上のものが重慶政權の鐵道建設計畫推進の物質基礎となつてゐるとみて差支へあるまい。軌條の撤去は輪轉資材の搬出に比して遙に困難であつたものと想像され、その大部分は我が占領區域内に放棄されてゐたが、事變勃發このかた兩三年の間に撤去された軌條は大體つぎのやうなものであつた。

線名	撤去區間	(キロ)
浙贛鐵道	江邊—諸暨 東鄉—株州	六三〇〇 四五〇〇
南潯鐵道	全線	一二八・四
淮南鐵道	全線	二二二・一
京漢鐵道	信陽—亢村	三五八・一
計		一、二二一・六

右のほかには開海鐵道の鄭州—潼關および京湘鐵道、潮汕鐵道のほゞ全線の軌條が撤去されてゐるので總計二、〇〇〇キロに近い軌條が撤去され、輸送の便宜上その殆ど全部が西南地區に搬出されたものと想像される。

鐵道建設の技術的構成についてみるならば、事變直前における國營鐵道工場は總數二九廠であつたが、事變の勃發とともに京滬鐵道の戚野工廠、津浦鐵道の消鎮工廠、京漢鐵道の長辛店および漢口工廠、粵漢鐵道の株州工廠ならびに浙贛鐵道の某地にあつた一廠の機械設備の大部分は夫々奥地に移遷された。そのうち浙

贛鐵道の一廠は現在軍需工場に改變せられてゐるもの、やうなの、事變前にあつた鐵道工場二九廠のうち奥地に移遷されたものは僅に五廠に過ぎない譯である。しかもこれらの工場は株州にあつた製造工場を除くのはかは何れも機關車、客貨車の修理、部分品の製造工場に過ぎないので鐵道附屬工業の規模は事變前に比して極度に縮小されてをり、技術の水準もまた著しく低下してゐるものと推察される。のみならず對外交通路が封鎖されて、建設資材の輸入が非常に困難となつてゐるので、鐵道建設の需要が増大するにつれて、鐵道附屬工業は愈々廣汎なる手工業乃至マヌファクツールの工業に編成、これを組織し、あるひは狹軌によるなどして、建設の急需に應じてゐるものと想像されるのである。

昭和四年末における國有鐵道労働者總數は約八五、〇〇〇と報告されてゐたが、これらの労働者は事變の勃發とともに離散し、あるひは我が占領區域内の鐵道にとゞまつて、重慶政權の鐵道建設計畫の推進を阻み、その技術的構成を低下させた。かくて交通部は先づ交通労働者の西南移住を慫慂する一方、同十三年一月一日交通労働者の登録所を開設し、また同年四月一日には軍事委員會政治部、後方勤務部、國防部、國民救濟會と合作して交通労働者の訓練所を設置、ひきつゞき同年六月には戰時交通服務團を組織して交通労働者の集結、訓練を行ふこととした。登記所は事變の勃發によつて離散し、失業した交通労働者あるひは一般労働者の救濟を目的とするものであつて、奥地へ移住した交通労働者の經

歴を記録して必要な救濟の途を講じ、または就職の斡旋を行ふ。訓練所は登記所に申告、登録された交通労働者および一般労働者を收容して三箇月間の講習を施し、毎月八元乃至三〇元の生活費を給してゐる。また戰區の擴大するにつれて避難民、傷病兵軍需品の輸送が日を逐うて激増するに至つたので、訓練所卒業生を選抜して戰時交通服務團に勤務せしめたのである。各十名よりなる四〇個小隊をもつて四個中隊を編成、中隊は團長指揮の下に交通の要衝、たとへば重慶、長沙、株州、醴陽、衡陽、衡山の地に配分されてゐる。なほ教育部の管轄下にあつた交通大學の唐山および北平分校は奥地に移遷されるとともに、交通部の經營に移され、交通建設に必要な専門技術者の養成に當らしめてゐる。また鐵道従業員子弟のために設立されてゐた扶輪小學校六〇校も各鐵道管理局に隨つて奥地に移轉してゐる。かくして重慶政權は交通技術者、労働者の集結または訓練に大重となつてゐるが、新線建設の急需には到底應じかねてゐるので民工の徵募——(桂柳鐵道に動員された民工の延人員は四一萬の多きに達したことがあり、また滇緬鐵道の路盤築造には一時二〇萬を超す民工が徵用されてゐた。なほついでながら西北國際大公路の建設には終日勤務に奉仕した民工は實に六〇萬の多きに上つたといはれてゐる)——を行ひ、あるひは昭和十五年四月鐵道員工獎勵辦法を公布して『淪陷區域にあつて抗戰工作に参加する者は復歸後戰區黨、軍政機關の證明を得て原職に歸ることが出来る、特に功勞ある者は昇

進拔擢する』などと規定して交通技術者、労働者が新政權下にはしることを極力防止するに努めてゐる。

**新線建設の概要** いづれにしろ西南地區における鐵道の建設は抗戰の急需に促されて、可成りの急テンポをもつて推し進められてゐるが、その概況は次の如くである。

(1) 湘桂鐵道 この鐵道の建設は楊子江南岸諸省を東西に連ねかつ佛領印度支那への貿易通路となる點に軍事上、經濟上の意義が認められる。従つて舊國民黨政府は豫て湖南、廣西兩省政府と協力し、まづ衡桂段の建設を計畫してゐたのであるが、事變の勃發わけでも我が海軍による沿岸封鎖に刺戟されて、西南地區海港を經由する對外交通路建設の必要を痛感するに至つて、にはかに本鐵道の完成を急いだものである。路線は粵漢鐵道の衡陽より初陽、東安、全縣、興安を経て桂林に至る桂林段(三六〇キロ)と、桂林より永福を経て湖永、洛清江に沿ひ柳州に至る桂柳段(一七五キロ)および柳州より賓陽を経て南寧に至る柳南段(二六〇キロ)さらに南寧より綏遠、寧明を経て佛印國境の鎮南關に至る南鎮段(二二〇キロ)の四段よりなる全長一、〇一五キロの鐵道である。衡桂段は昭和十二年十月着工、翌年九月二十七日竣工、桂柳段は同十三年八月着工、翌年十二月十八日完成し、通車した。所要の期間は共に僅に一歳を超えたに過ぎず『戰時鐵道建設における偉大なる收獲の一つであつた』と誇つてゐる。柳南段は我が南支作戰の開始とともに、戰略上の見地から賓陽、南寧間の施工を



放棄、南鎮段の施工も歐洲大戰の勃發によつてフランスより鋼材その他材料の輸入が杜絶するとともに停止のまゝ、今日に至つてある。

(2) 欽昆鐵道 四川省敘州より鹽津、彝良、威寧を通じ西南地區における最大炭田にある宣威、曲靖、馬龍を経て昆明北郊の王旗營において滇緬鐵道に連り昆明に至る七七三キロの鐵道である。四川省とビルマおよび佛印を結び、西南の寶庫四川開發の基幹をなすものである。昭和十三年九月二十日すなはち武漢失陥の直前に起工、同十五年七月末には工事の一五%を完成し、同年末までには曲靖までの通車が豫定されてゐた。重慶政権では昭和十六年夏までには全線通車の運びとならうと稱してゐる。

(3) 湘黔鐵道 桂州、貴陽間一、〇〇九キロの鐵道で事變勃發直前に着工され、武漢失陥の當時には既に桂州、藍田間二三〇キロの通車をみてゐたが、武漢の失陥とともに停工、工務員および建設資材は黔桂鐵道の建設に振りむけられた。

(4) 黔桂鐵道 貴陽より柳州に通ずる六五八キロの本鐵道は、武漢失陥の後長沙に對する危機が迫り湘黔鐵道の停工に代るものとして計畫され、既に定線の測量も完成されてゐるが、工事進行の状態は詳かでない。

(5) 成渝鐵道 成都、重慶を結ぶ五二三キロの鐵道で、別に隆昌、敘州間一〇〇キロの支線を建設せんとするものである。昭和十二年六月着工され翌十三年四月には、重慶、内江間の工事完成

をみたが、その後において長江の水運がとざされ建設資材の入手が困難となつて一時停工されたが、路盤その他の土木工事はほぼ完成してゐるとみられる。従つて欽昆鐵道が完成して軌條その他建設資材の輸送が可能となれば、日ならずして軌條の敷設をみるものといはれる。

(6) 滇緬鐵道 昆明より英領ビルマに通ずる西南國際鐵道建設の計畫は粵漢鐵道の潰滅に備へるため昭和十三年七月測量を開始同年十二月二十五日着工、翌十四年七月末までに路盤工事の二五%を完成したのであるが、豫定の計畫を變更して欽昆鐵道の完成を先決とするに及んで、滇緬交通の重任を滇緬公路に譲つたものである。

いづれにしろ重慶政権の鐵道建設計畫の主要方向は、西南地區と西南海港を結ぶ佛印ハイフォン間の連絡を強化せんとするものであることは、上に列記した事變勃發後における新線建設によつて推察されるが、我が海軍による西南海港の封鎖と、南支派遣軍の佛印進駐によつて右の計畫は根柢より覆されたと思像するに難くない。従つて、西南地區における對外交通路の確保を基調とする重慶政権の鐵道建設計畫もまた根本的に修正されて、滇緬鐵道建設計畫を再建し、あるひは西北國際鐵道(成都より蘭州)の西端寶鶏に至る寶成鐵道——昭和十五年末には全線開通の豫定。寶鶏より西進して甘肅省の蘭州に至る寶蘭鐵道五〇〇キロ。蘭州より更に西進して新疆にのびソ聯のトウルクシブ鐵道に連絡

する國際鐵道一、八〇キロ。いづれも目下積極的に測量の歩が進められてゐる)を根據として西南鐵道網の完整を計ることに、その方向を轉換せざるを得ないであらう。

交通建設に對する第三國の援助 西南經濟の後進性についてはいふまでもない。さればその建設計畫も海外より必要な資材の供給がなければ、これを推進することが出来ない。のみならず輸出土貨たとへば桐油、タンクステン、アンチモニーなどが専ら軍需器材の輸入に引當てられてゐる所から、建設資材の輸入は愈々困難となり、ひいては建設の計畫を阻む。かくして重慶政権の西南經濟建設計畫は第三國の援助なくしては遂行されないのである。

しかも第三國の援助は(イ)投資の安全を計り、(ロ)事變前における對支投資の回收を有利ならしめる、(ハ)北支、中南支において喪つた市場を西南地區に再建するためにも、重慶政権の交通建設借款に應ずるのが最も適切である。重慶政権としても對外交通路を確保することが出来れば軍需器材、建設資材の輸入に引當てられる土貨の輸出を促進し得るであらうし、かたゞ重慶政権の交通建設に對する第三國の援助は戰事の長期化されるにつれて、いよいよ強化されるばかりである。ともあれ事變勃發後における第三國の交通建設に對する援助の動向は次の如きものであつた。

アメリカ 昭和十三年十二月アメリカ復興金融會社々長ジョーンズは「復興金融會社は輸出入銀行に對し、重慶政府がアメリカの農産品および工業生産品を購入するため、二、五〇〇萬ドルの

借款を供與する權限を賦與する旨を発表した。ついで同十五年三月より第二次二、〇〇〇萬ドル第三次二、五〇〇萬ドル米借款が相ついで供與されついで日獨伊三國軍事同盟の締結が公表された直後の昭和十五年九月三十日ルーズヴェルト大統領が突如として重慶政権に對し特に合計一億ドルのクレジットを供與しかつ支那より六、〇〇〇萬ドルの諸物資購入の追加契約を行ふ意向なる旨を発表した。しかしルーズヴェルト大統領の聲明によれば右の一億ドル借款のうち五、〇〇〇萬ドルは「一般的目的のため」に使用すべく輸出入銀行が融資し、残りの五、〇〇〇萬ドルは重慶政権の通貨の保護と、法幣安定のためアメリカ政府の爲替平衡資金から支出されるものであるが、この一億ドルの巨額による借款は専ら「政治的考慮」に基いて供與されたものであること疑はれないにしても重慶政権としては、右クレジットの運用と法幣爲替の安定とによつて軍需器材はもとより經濟建設資材の輸入が保證される譯であつて、今後における西南經濟の工業化、西南地區における交通建設をわけても滇緬通商路の確保にその死力を傾けることであらう。

イギリス 中英借款は昭和十三年十二月第一次米支借款とほとんど時を同じうして成立したものであるが、その内容については、ロンドンよりの消息を綜合してみると  
(イ) 滇緬鐵道五〇〇キロの建設のため、イギリス政府は重慶政権に對して總額一、〇〇〇萬ポンドの借款を供與すべき協定に達した。本鐵道の建設資金は高務省輸出信用保證局の協力の



下に、専らイギリスの關係業者によつて供與される。すなはち一、〇〇〇萬ポンドの融資のうち六〇〇萬ポンドは鐵道建設に四〇〇萬ポンドは重慶政權がイギリスより輪轉材料を購入するために用ひられる。

(ロ)イギリス政府は右の借款契約を具體化するために必要な手續として昭和十三年十二月八日輸出信用保證擴張案(商務省輸出信用保證局の保證額を五、〇〇〇萬ポンドから七、五〇〇萬ポンドに増額、かつ輸出信用保證の原則を變更して、今後は商業上のみならず、政治上の必要からも輸出信用の保證を行ひ得る)を議會に提出してその協賛を得た。

しかしながら重慶側の報告によれば「交通部は手工業生産によつて建設材料の自給を積極的に強化する方策をとつてゐる。従つて瀘緬鐵道建設のためにイギリスから購入しなければならぬものは軌條、輪轉材料、掘鑿機などに過ぎないから、その所要購入費もさしたる額には上るまい」といわれてをり、また「瀘緬、敘昆鐵道の建設材料は二億元を査定されてをり、そのうち外國から購入する材料は二〇〇萬ポンドである。しかしながら既存の材料および既に準備したものを控除すれば一〇〇萬ポンドに満たない」と報告されてゐるので、右の中英借款によつて現実に重慶政權に供與されたクレジットの額は昭和十五年四月報道された五〇萬ポンドを出でぬとみられ、主として瀘緬公路その他に用ひられるトラックの供與にあつたものゝやうである。なほアメリカの對

支一億ドル借款に呼應して同十五年十二月十日バトラー外務次官は下院において一、〇〇〇萬ポンドの對支借款を供與した旨を報告してゐるが、右のクレジットも法幣維持と支那よりの物資購入資金に充當せられるものと報ぜられてゐるので、その成行もまた嚴重監視されねばならないものである。

フランス 昭和十三年四月二十二日重慶政權交通部および財政部とフランス・シンジケート團ならびに中國建設銀行公司との間に一、〇〇〇萬フランの鐵道建設材料信用借款と湘桂鐵道南鎮段建設借款一四四、〇〇〇ポンドの契約が成立した。

なほ我が南支作戦の發展、佛印進駐によつて湘桂鐵道南鎮段建設の工事は放棄され、ひいて右の借款契約は實質的にその効果を失つた。

### 三 西南經濟建設の先決條件

「抗戰建國」の口號の下に、重慶政權は専ら西南地區の經濟建設によつて持久抗戰の力量を培養せんと必死の努力を傾けてゐるのであるが、西南經濟の後進性はその建設に巨額の資金を要すべきことはいふまでもない。この資金を如何にして集中し、準備するか、先決問題であるが、中國有数の經濟學者馬寅初が昭和十五年十月六日附香港商工日報紙上において發表した「西南經濟建設と抗戰繼續の先決條件」と題する論文の要旨を摘記して右の問題に對する回答にかへてみよう。

『現在上海における遊資は約二〇億元あるが、すべて事變勃發後に集中したものである。その原因は(一)淪陷區域内の銀行が均しく上海に集中し、(二)各地の有産者が資金を携へて上海に蟄集したためである。この二〇億元に上る巨額の資金は何れも當座預金として活動してゐる。しかし各銀行はこの種の預金を受納しても、これを貸附すべき對象をもつてゐない。すなはち戦前にあつた多數の工場は何れも破産焼失し、あるひは日本に奪取され、殘餘の少數工場たとへば若干の紡績工場の如きは多額の不正利得を收めてゐるので、銀行からの融資を必要としない。こゝにおいて各銀行と預金者は競つて投機を行ふやうになり、上海は一大投機市場と化してゐる。米貨證券あるひは爲替の賣買は何れも投機の尤なるものである。爲替の買被せに好機を掴めば實に八、九割の利益が得られるのである。錢を有する者の誰が八、九割の利益を犠牲としてまでも西南投資を望むものがあらう。況んや西南はなほ良好な投資ではないのである。かりに上海の遊資を奥地へ誘ふことは可能であるとしても、ひとたび爲替に振り替へると、この資金の現金引出しは容易でなく、しかも引出す時の爲替手数料は莫大なもので、現在すでに重慶、上海爲替手数料は一、〇〇〇元につき三—四〇〇元を要してをり、將來どこまで昂騰するか見當もつかない始末である。また資本家が進んで西南投資を承諾したとしても、奥地では物價が非常に騰貴してゐるため、香港で三〇〇萬元で一工場を設備することが出来るのに、西南奥地では四、〇〇〇萬元を必

要とする。しかも、一割の金利を見込むとしても、香港において年三〇萬元の利益を得ることは極めて容易であるが、西南奥地で四〇〇萬元を利得することが果して可能であらうか。更に上海は全國の中心市場であり、内においては全國に對する販路があり、外においては南洋、歐米に發展できる環境にあり、市場全般の利益を享受することが出来るのであるが、西南奥地に工場を設立したのでは、市場は一隅に限られてしまふ。誰か内外市場を犠牲にしてまでも局部的市場に移遷することを望まう。とはいへ西南各省は交通が不便であるため輸入品の運賃がこぶ高く、恰も一個の自然的な關稅障壁を築き、競争を弱くしてゐる。また工場機械設備の運輸、工具あるひは土地、運轉資金などに至るまで政府はあらゆる援助を與へてをり、また政府に利潤の保證を要請し得るので上海の遊資を西南奥地に誘ひ相當の利益を得させること必ずしも不可能ではないのである。しかし政府が保證する利息は年四分に過ぎないが、上海では八、九割の儲けがあるので、かれこれ利害を比較するに、得たるものをもつてしても、失つたところのものを償ふに足らず、いきほひ西南投資は希望されないのである。従つて西南經濟の建設は専ら外資の輸入にかけられる次第であるが、『支那が外資を利用する場合つねに二重の取引をしてゐる。一つは借款の調辦であり、二つはその資金による物資の購入である。しかも借款の目的は資金自體を得るにあるのではなく、これによつて所要物資を獲得することである。この二重取引は國



内において行はれることもあれば、また外國との間に行はれることもある。たとへば重慶において上海より借款を獲得する場合、必ず上海市場で重慶爲替を手當するといふことは他の場合と、少しも變らないが、重慶法幣の爲替相場は昂く、上海法幣の相場は廉いから、そこに一つの取引が行はれる。しかし重慶で所要資金が借款できたと假定して、香港で物資を購ふには、必ず法幣で香港ドルを買はねばならぬが、重慶法幣の相場は必ず下落してをり香港ドルの相場は必ず騰つてゐるから、こゝにもまた一つの取引を行はねばならない。故に普通借款を起すには凡て二重の取引を行ふこととなる譯であつて、これを綜合すれば上海市場では損失を免れ得ないにも拘らず、重慶では固より損得なく、利得はすべて香港にあるといへる。従つて上海で資金を求めるときには必ず上海で物資を購ひ、香港では決して調辦しないといふ條件が附せられるのである。かうすれば上海法幣の缺損とはならぬのであつて第一に上海から爲替を振替へるとき、上海の法幣は廉くなるが、第二に上海から物資を調辦する時には、必ず爲替が上海に戻つて来るから上海の法幣は騰り、損失は平均されるのである。かゝる事情は外國で起した借款についても理を同じうする譯であつて、假りにアメリカから借款する場合には必ずアメリカ商品を購入することを條件とされるのである。アメリカから借款した二回の棉麥借款の如きはその著例である。しかし借款が二重取引によつて完成したと假定しても、その物資を如何にして輸送するか重大問題で

あつて、例へば器材を外國より購ふのはよいが、運輸できなければ、外商に爲替相場の保證を與へるだけでは濟されない。従つて借款の移轉手續には二種ある譯で、一つは金融的なもの、一つは商業的なものである。資金の爲替振替は金融的であり、器材の賣買運輸は商業的である。しかし金融的の手續にたとへ完全な保證方法が講ぜられても、商業手續が完全にできなければ、結果は無に等しい。いづれにしろ外資を利用して西南經濟の建設に資することをもまた、國內借款の場合と、資金の性質を異にこそすれ、非常に困難であることには聊も變りがないのである。

### 國共の相剋を暴く

今日の支那が三つに分れてゐる事實は何人も率直に認めるところであらう。皇軍の領導下に東亞共榮圏の一環として更生しつゝある支那、西南農民を中世的苦役に従事せしめつゝ餘命を保つ蔣政權、荒蕪たる西北支那の一角に根據を置き戦亂に乗じてアミューバの如く繁殖を續ける赤色支那、その何れもが支那の一部として呼吸を續けかつ支那の霸權を握るべく抗争に暇がない。抗日の線においては重慶と延安とは同一歩調に立つてゐるが、本来それは火と水であり、何れかが熄れるまで闘ふべき宿命を持つ。重慶の動向および新生支那については既に詳論せられてあるので、こゝ

ではワシントンとロンドンに繋がる重慶と、モスクワに結ばれてゐる延安との相關關係を略述して見たい。

### 一 國共合作の特質

一九二七年四月の上海クーデターを契機とする國、共第一次合作の分裂以來、兩者はあらゆる鬭争の武器を動員して深刻なる戦ひを續けて來たが、一九三五年(昭和十年)の八・一宣言に至つて兩者の關係に大きな變化を生ずるに至つた。勿論八・一宣言の内容が實質的な政治情勢となつて展開されるまではなほ西安事件、今次事變の勃發に至る過程が介在するのであるが、八・一宣言は支那、特に中國共產黨の政策の一大轉換を公的に表明した歴史的宣言であると共に、それが西安事件と並んで、今次事變の二つの導火線であり、ある意味において近代東洋史の上にも記憶さるべき事實である。

五回にわたる國民黨の「共匪討伐」「圍剿工作」によつて、一九三四年十一月ながら支那ソヴェト政府の所在地であつた江西省瑞金が陥落し、紅軍は命からがら大西遷を行ひ西北支那の一隅の荒野に押しこめられ、かつては精銳を誇つた紅軍も消耗甚だしく、その數約八萬、かつ黨内には分裂騒ぎまで隨伴して再び起つ能はざるかの如く見られてゐた。こゝにおいてコミンテルンは中國共產黨の軍事打開による勞働者、農民層の獲得といふ從來の方法を一擲して、國共聯合によつて剿共停止の時局を招來すべき

國共の相剋を暴く

ことを餘儀なくされたのである。當時モスクワにあつた中共代表王明(陳紹禹)らは、このコースに沿つて活動し、一九三五年の七月二十五日から八月二十七日まで開催されたコミンテルン第七回共產黨大會において正式にこの方針が議決承認された。この會期中八月一日に中國共產黨より發せられた「爲抗日救國告全國同胞書」が即ち八・一宣言なのである。その内容を概述すれば、國內の各黨、各派は一切の行きがかりを捨て、抗日のために一切の國力(人力、物力、財力、武力)を集中しなければならぬ。…國民黨がソヴェト區域に對する攻撃を即時停止すれば、そして抗日戦を實行しさえすれば、相互の間に存在する舊怨にこだはることなく、共產黨は彼らに對する軍事行動を直に停止するばかりでなく、抗日救國共同鬭争のために親密なる握手を希ふものである。…と全支に互る抗日聯合軍の組織を説き、更に統一的國防政府の樹立を要請して十二項目の政策を擧げて支那の國內統一を絶叫し、日本國內の攪亂を主張したのであつた。「銃ある者は銃を、糧あるものは糧を、錢あるものは錢を、力あるものは力を、専門技能あるものは専門技能を出し、全國同胞を總動員して、あらゆる新舊武器をもつて幾百幾千萬の民衆を武装動員せしめること」といふ、人と物との總動員によつて日本との戦ひを迫つたのである。當時中共は國民黨政府の『國內の統一を圖つた上で外夷を討つ』とか、『徐ろに力を養つ上で第二次世界大戦が起つた時、日本と戦



はう』とか、あるひは『日本がソ聯と開戦した時に起つて日本を討たう』といった態度に甚しく不満を抱いてゐた。コミンテルンとしては支那が日本と即時開戦すべきことを希望して已まなかつたのである。そしてこの希望を実現するためには如何なる手段をも用ふることを辭せなかつた。さきにも述べた王明の如きも蔣介石を賣國奴と罵り國民黨幹部を日和見主義者と侮つてゐたが、その理由としては、日本との即時開戦を肯んじないといふ點にあつた。

かくて八・一宣言に盛り込まれた毒酒は忽ち全支の學生層や一般知識層に擴がり、昭和十年冬から翌年にかけて全支を嵐の如く襲つた『學生救國運動』は、何れもコミンテルンの決議や中國共產黨の『策略路線』を、そのまゝ信奉したものであつた。所謂人民戦線派も、これに呼應して起ち、主として上海を舞臺として狂氣じみた活躍を續けたのであるが、かゝる混亂と怒號のうちに昭和十一年十二月十四日、突如西安事件が勃發したのである。張學良は蔣介石の生殺與奪の權を握りながら八箇條の要求を突きつけた。表面に躍つたのは學良であるけれども、この大芝居を仕組んだのは中共であり、その代表周恩來は調停に名を藉りつつ抗日戦連開を求めたのである。かくて蔣の身代金として共產黨との争ひを中止し、國力を専ら外敵日本に注ぐ政策は秘密裡に約束され、國民黨政府をして聯ソ容共政策を採らしめんとする中共の政策は、提唱以來僅か一年五箇月にりて、ほどその目的を達したのである。蘆溝橋事件はその後七箇月にして勃發、中共の尖兵たる秘密結

社『冀東偽團』以下の暗躍によつて事件は益々擴大されて遂に全面的日支戦争に立ち至つた。

かくて十二年八月二十二日紅軍は改編されて國民革命軍第八路軍となり、九月二十二日中共は『精誠團結、一致抗敵宣言』を發表し

一、中山先生の三民主義は現下の中國においては必要不可欠にして本黨はこれが徹底的實現のために奮闘すべし、二、中國國民黨を覆滅せんとする一切の暴動、政策および赤化運動を取消し暴力による地主の土地沒收政策を停止する、三、現在のソヴェト政府を取消し、民權政治を實行し、全力政權の統一を期す、四、紅軍の名義、番號を取消し國民革命軍に改編し、國民政府軍事委員會の指揮を受け、出動命令を待ち抗敵前線の職責を擔當すべし。

この政策改變を聲明したが、これは國共合作の成立を證明する公式宣言であつた。

蔣介石は同月二十五日これに答へて「中國共產黨員が從來の意見を放棄して、國家の獨立と民族の利益を重要視するに至つた以上、我々は唯それが眞に一致して、その宣言にあげた諸點を實行せんことを望むものであり、更にそれが禦侮救亡の統一指揮の下に一人残らず全能力を發揮して國家に貢獻し、全國同胞と共に國民革命の使命を完成せんことを望むものである」と述べ、八月二十一日成立を見たソ支不侵略條約と相まつて、こゝにモスクワ、

延安、南京を結ぶ國共再婚は正式に成立し、英米佛などの援蔣國家の輸血と呼應しつゝ、統一抗日戦線の完成による抗戰形勢が展開され、今日に至つてゐるのである。

## 二 共產黨の地盤擴大

かくて中共は天晴れ支那の民族英雄として登場し全國民の信望を集めつゝ地盤を擴大した。その宣傳に眩惑されて彼等の實力を買ひ被ることは危険であるが、彼等が短時日に民衆を掌中にした戰術については一應考察しなければならぬ。皇軍の武力に對して到底敵し得ぬことを悟つてゐる彼等は、日本軍との衝突は極力避けてゐる。糧食に苦しんでやむなく兵站部隊を襲撃する時、または日本軍に包圍された時にのみ銃火を交へるのであつて、他は軍の損傷を怖れて逃げ廻つてゐる。彼等は國民黨軍と戦ひつゝ地盤を奪取することに忙しく、その全力は窮乏せる農民層、敗殘の雜軍に働きかけて共產主義工作をなすことに注がれてゐる。八路軍は如何なる行軍に際しても、その通過地方において必ず民情の調査を行ひ政治工作員を派遣して三民主義の假面を被つたソヴェト式の宣傳をなし、最初は民族主義的興奮を與へることより始め幾段階を経て共產思想を植ゑつけるのである。例へば皇軍の進撃、戰禍の擴大によつて富豪、地主、金融業者らが逃れ去つた後へ侵入した中共は、その土地を沒收してこれを貧農へ分ち與へる。永らく飢餓的搾取に苦しんで來た貧農層にとつては大きな生

國共の相剋を暴く

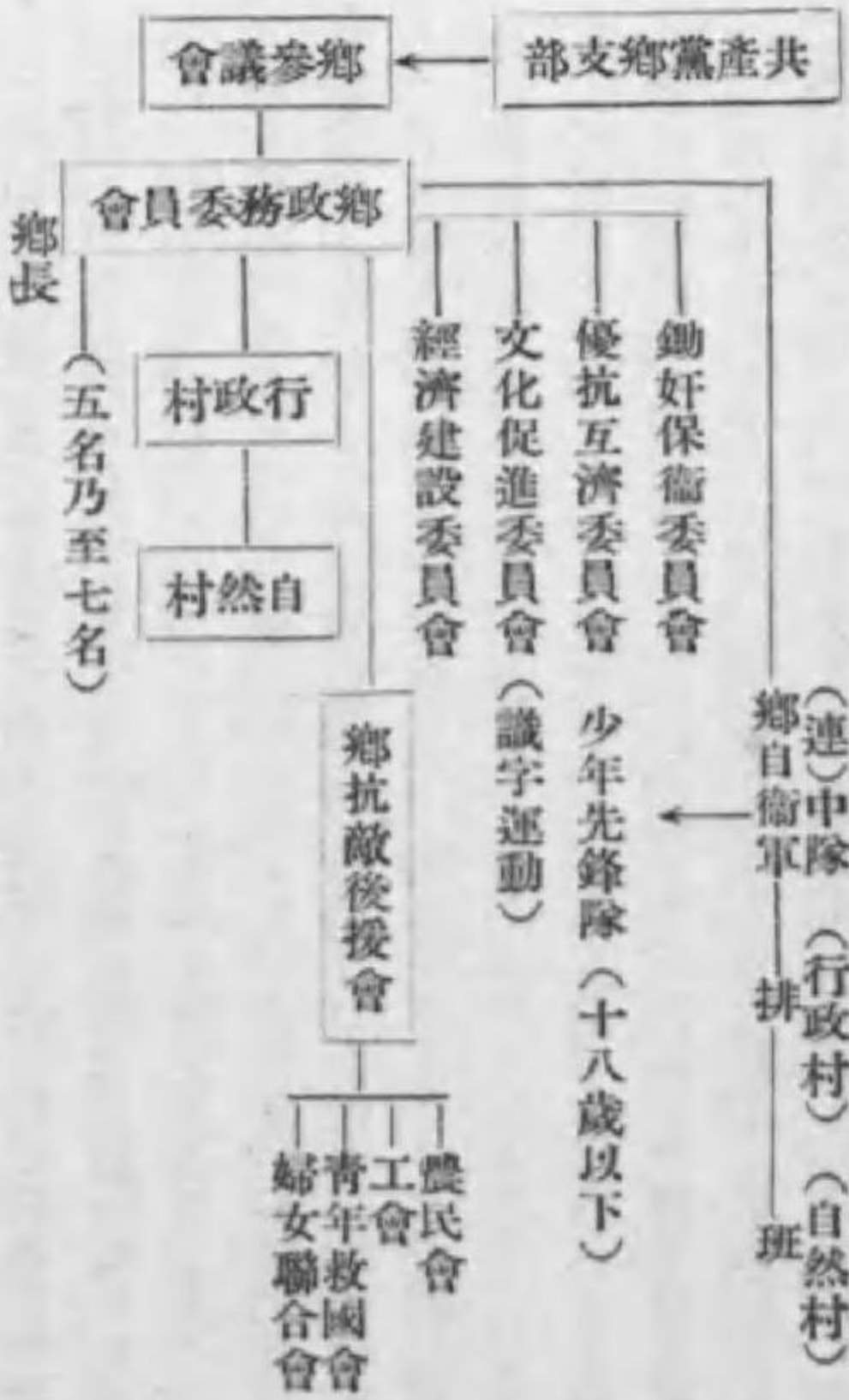
活向上であり、無智文盲であるが故に、共產主義の何たるかを少しも理解し得ずとも、初めて與へられた新制度を謳歌して中共自衛團に志願して、この制度存続に献身する。全支においても最も貧農層の多い北支を舞臺とし、更に大規模の戦亂を背景として共產黨の勢力が驚嘆すべき速度で擴大されたのは、この故である。

雜軍の赤化、吸収に至つては更に容易であつた。蔣介石は事變當初より中支には直系軍の精銳及び傍系軍中の有力部隊を當てたが北支には地方軍閥より成る雜軍——宋哲元、張學良、閻錫山、石友三、鹿鍾麟、于學忠、沈鴻烈らをもつて皇軍の銳鋒を受けしめ、雜軍整理の一石二鳥の策を用ひた、大機動戰の背後に取殘され、復讐する數十萬の敗殘兵は僅かの糧食に釣られて赤軍に吸着され渴した者が毒水を飲み下すやうに共產思想の洗禮を受けたために、深い理解や信念を持つことなく赤軍の手先きとなつてゲリラ戰に従ふ兵士の數は雪達磨の様に増し、そのため八路軍の數は事變當初より一年後には從來の約三、四倍、二年後には約十倍の七、八十萬に達するものと推定され、現在では民兵——民衆自衛軍、保安隊を合せて約百三、四十萬に上るものと見られる。

この膨脹を四期に分けて考察すれば、蔣介石より山西入りを認められた中共は、西安附近より兵を起して山西北部と察哈爾南部で、我が軍と兵を交へたが、到底敵せぬことを悟つて敗退山西の山奥に入りこみ、戰術を變更した。第二期には専ら山西省内の地盤を確保することに努め、閻錫山軍を吸収しつゝ各地に赤色部落



を建設し、遂に昭和十三年一月河北省西境の阜平に晋察冀邊區政府を樹立した。力を貯へた彼等はいよいよ第三期に入つて、河北平原に進出を始め、京漢沿線の敗残兵を攻め、あるひは收めて中央軍の自滅を待ちつゝ、その後の冀中地區、察哈爾南部、山西東南部、冀南地區、山東東南部などに赤色地區を創建した。第四期は全北支中共勢力統一時代ともいふべく、遂に昭和十五年夏には豐饒な平原地帯に養はれて根強い地盤を確保し抗日を叫びつゝも、皇軍との武力衝突を避けてゐた共產軍は、今や時至れりとばかりに雀躍して活潑な武力活動を開始するに至り、同年八月正太線の襲撃を試みたが、直ちに皇軍に叩かれ、かつ各根據地を掃蕩せられて再び従来の戦略に戻つた。かゝる膨脹を遂げた中共の政治經濟工作の状況を晋察冀邊區政府を例にとつて見れば次の如くである。



以上の二つの組織を通観して何よりも目につくことは、民衆武裝の一線に沿つてこれらの組織が營まれてゐることである。生産力低く抗戦力の僅かな農民層を驅り立て、兎も角も抗日戦を維持するためには、民衆の動員、その武裝及び半武裝より外に途のないことは明かである。邊區政府の政治工作員の月給は月六元内外郷支部主任の主席より郷長は五元より一元五角程度の給與を受け五百元以上の收賄は死刑といふ峻厳なる制度の下に民衆動員は續けられてゐる。

アミーバの如く膨脹を續けるこの赤色農村——共產軍は、東亞新秩序の建設を意圖する皇軍にとつても黙過し難い事實であるが

それは同時に民族ブルジョアを中核として統一國家を建設することを看板にして來た重慶政權にとつても、獅子身中の蟲たるはいふまでもない。かくて複雑な性格を持つた國共の相剋は繰りひろげられるのである。

### 三 國共摩擦の實相

元來イデオロギイを異にしてゐる國民共產兩黨が、抗日といふ一時の權謀のために從來の矛盾をそのまゝにして聯合したのであるから、最初から軋轢のあるのは當然である。中共がイデオロギイを隠蔽して着々野望を遂げつゝあることは既に見た通りであり、蔣介石自身も國共合作とはいへ、身邊には一人の共產黨員も近づけてはゐないし、周恩来は連絡機關に過ぎず、度々の強請に於て實現した中共側の代表者は諮問機關あるひはさほど實力力を持たぬ會議に出席し得るに止まり、勿論舊國民黨側によつて絶對多數が占められてゐたのである。これは中共側とても同様であつて陝甘寧邊區政府、晋察冀邊區政府、赤軍その他の重要機關はすべて瑞金以來の生え抜きをもつて固めてをり、赤都延安は嚴重な警戒網のために外人記者と雖も自由な行動を許されてゐないのである。この立場よりすれば國共の摩擦は必然的現象であつて、たゞ世上に傳へられてゐるが如く『軋轢即分裂』と推論するところに非常な危險が存してゐるのであらう。かゝる安易な樂觀論はイデオロギイと戰術の問題を混同してゐるものであり、國共再婚

の動因に思ひを致せば、この間の事情は明かにされるであらう。即ち憎み合ひ、血を血で洗ふ争鬭を末梢細胞が營みつゝも、なほかつ抱き合ひを續けてゐる事實に意義を認めなければならぬのである。

さて、國共の相剋は波多野乾一氏の調査によれば、再婚以來確實なもの四十五件（昨年未までの資料であり、その後の新四軍移駐問題については後述）に及び、次の十二項目に分類し得るとされてゐる。（興亞、十六年一月號八七頁）

- 一、軍事的衝突
  - 二、兩黨黨部の衝突
  - 三、イデオロギイ及び合作性質問題の争執
  - 四、中共側の反國民黨的言論ならびに赤化意圖の露説
  - 五、國民黨側の反共的言論、反共通電および中共存在否認の言説
  - 六、中共機關誌（紙）の襲撃、發禁
  - 七、中共系出版物の發禁
  - 八、中共系民衆團體の發散
  - 九、國民黨側のトロッキストその他反共宣傳者利用による摩擦
  - 十、國民黨側の中共内部切崩し
  - 十一、軍事問題（防衛問題等）に關する兩黨意見の對立
  - 十二、國民黨の防共（反共、制共、限共、溶共）施策による摩擦
- 以上の如く精緻な分類が施されてあり。國共相剋の複雑な性格



を示して遺憾無いが、これを更に簡明にすれば、軍事的争闘と政治的摩擦の二つに大別し得るのであり、これらに貫くに民衆獲得戦と、國際勢力の一舉一動がこれを彩つてゐるものと見る事が出来る。

眞先きに起つた摩擦事件は、共産黨の機關雜誌『解放』が國民黨攻撃をやつたので發禁となり、合作性質問題の論争にまで進んだ陝西省兩黨衝突事件で、合作成立後僅かに二箇月を経た昭和十二年十一月の出來事であつた。昭和十三年に入り一月の中共機關紙『新華日報』の襲撃事件から十二月十八日の汪精衛脱出までの相剋を通過して見られる特徴は、中共側の新聞、雜誌、單行本、パンフレットなどを通ずる宣傳戦が活潑に展開され、その期間におけるソ聯よりの強力なる軍事的援護を背景にあらゆる分野に互つて蠶食を續けてゐたことである。北支においてはこの間に赤色地區の構造を一通り完成し、舊國民黨政府に對しては蒋介石の自重論につけ入つて各地の衝突事件の真相を捏造しつゝ、陝、甘、寧邊區政府を強化すると同時に貧農、敗殘兵、學生、文化人などの赤化吸収に努めた。

これにたまりかねて昭和十四年二月舊國民黨は『防制異黨活動辦法』を制定公布し、八月には『處理異黨問題辦法』、十月には『處理異黨問題實施方案』が制定された。これらは勿論秘密規定であつたが、當然中共側に探知され、兩黨の關係はこのころより急激に悪化した。従來蒋介石の自重論に服従して鳴りを鎮めてゐた舊

國民黨主腦部の反共言論もぼつ／＼現はれ、なかでも當時黨秘書長であつた朱家驊が同年十一月八日香港でA・P特派員の質問に答へて

一、日支和平問題に關して國民黨は共産黨に相談する必要がない。

二、邊區政府は法的根據を持つてゐない。

三、八路軍は國軍の一部で中央の命に服すべきものである。

と語つたことは、これよりさき十月十日の中共延安決議が國、共分裂の可能性を豫想してゐること、十二月の邊區黨二全大會が露骨に摩擦事實の暴露をやつてゐることなどと考へ合せて國共兩黨の争闘が一つの新しい段階に突入したものと見ることが出来る。

即ち非占領地區の民衆獲得の争ひにおいて中共側は一つの據點をこの頃完成し、更に南下せんとしたのに對して、重慶側が必死の反撃を開始したのである。(共産主義者八名を斬殺、活埋にした有名な平江慘案はこの年六月十二日に、舊國民黨中央軍と共産軍の最初の衝突である隴東事件は十二月上旬に勃發してゐる)。

昭和十五年に入るに及び陳誠の共産黨非難演説を中心に激しい論戦が展開された。これは前年十二月中旬とも傳へられる韶關における公開演説で『八路軍は遊んで撃たず、延安に一人の傷兵も無いのはその證據である』と言ひ、共産軍が遊撃戦に長じてしきりに偉功を樹てゐるかの如く宣傳してゐるのを冷笑、非難したものであつたが、陳誠は元來親ソ派と目され國共合作の有力な首

唱者であつたに拘らず、このやうな反共言説をなしたことは各方面に大きな衝動を與へ、毛澤東のこれに對する惡罵、少壯軍人派の反共進撃など、相剋の規模はますます擴大した。中共はこの頃より「憲政促進」の名による民衆獲得運動を展開し、合作以來三民主義に假裝してゐた戰略を捨て、新民主主義を高唱し、新民主主義による憲政實施を重慶に迫るに至つた。この年二月二十日延安における『各界憲政促進大會』の席上毛澤東は

我々が現在欲する民主政治は新民主主義の政治であり新民主主義の憲政である。それは舊式な、取り残された、歐米流の、資產階級專制のいはゆる民主政治ではなく、同時にまた最新式のソ聯式の、無產階級專制の民主主義でもない。……この民主主義憲政は幾つかの革命階級が聯合し漢奸、反動派の民主專制に對抗することである。……われ／＼が苦勞してこの會を開いたのは何故か、それは進まざる連中があるからだ。寢ころんで動かさず、少しも進まざるどころか、尻尾を垂らして神棚の申公豹のやうに後ろ向きになつてゐる。彼らに前に進めといつたつて死んでも進もうとはしない。この連中の頑固さ加減には手がつけられない。そこでわれ／＼はこの會を開いて彼らを促すのである。孫文先生が死んで十五年にもなるが、彼の主張した國民大會は今に至るもまだ開かれてゐない。毎日訓政の聲ばかり喧しくて、何時まで經つてもがや／＼騒いでゐるばかりだ。それでも口先きでは孫文先生に假託してゐる。孫文先生が地下

國共の相剋を暴く

でこの不肖の子孫を何と見てゐるだらう……。孫文が地下で苦笑してゐるのは四億六千萬人を赤化せんとする延安であるか、西南農民に塗炭の苦しみを與へつゝある不肖の子孫蒋介石以下であるか、今更ながら彼等の曲説に驚く外はない。將來の結果は頑固(蒋介石を指す)が進歩を取消すのではなく、進歩が頑固を取消すのだ。頑固分子の剋共の經驗は相當に豊富である。しかし、もしも現在剋共に着手するならばそれは勝手である。といつて、毛澤東は舊國民黨に宣戰を布告したことは注目される。つまり最初は柔順な風を裝つてゐた中共が、一定の地盤を得たとの自信の下に、がらりと重慶に對する態度を變へたのである。『憲政の即時實施、國民大會の開催』といふ中共の提唱は、民衆を酷使しつゝある重慶政權にとつては何よりも痛いところであるが、かゝる巧妙な方策によつて中共は民衆の中に赤化地盤を擴大し、幾何級數的に繁殖を續けたのである。

この情勢に對して昭和十五年三月軍事委員會天水行營政治部は『中共不法行爲及破壞抗戰事實紀要』といふパンフレットを公表したが、これこそ舊國民黨側から公表された最初の反共文書であり、そのなかに

一、所謂陝、甘、寧邊區政府の存在は行政組織の破壞である。

二、赤軍は絶えず中央軍に武力反抗を續けてゐる。

三、遊撃戦と稱するも戦ひは後にして、民衆を擄取することに専心してゐる。



四、赤軍の命に服せぬ良民は直に斬殺し、赤色地域の民衆は塗炭の苦にある。

五、山西新軍は日本軍に對戦せずして常に中央軍に對して叛亂煽動を試みてゐる。

六、軍隊を濫獲し金融破壊に努力しつゝある。

など中共の罪状を列挙してゐる。中共はこれに對し『摩擦は何處から来るか』といふ小冊子を八路軍の名で發表し、『處理異黨問題辦法』以下の國民黨側反共秘密規定を暴露した。かくて隨東事件を起點として摩擦は局部的なものから全面化し單なる衝突（一地域の糧食爭奪）から軍事化したと同様に、この天水行營小冊子以後相剋は秘密から公開化され、從來よりは遙にはつきりした姿をわれ／＼に示すに至つたのである。しかし、この期間——昭和十五年前半においても調和路線は存してゐたのであり、國共兩黨がその凡ての力を出し盡して相剋に血眼となつてゐると解するのは勿論誤りである。即ち、七月に出された中共の『抗戰三周年對時局宣言』の中においても、從來の摩擦を『局部的、地方性』と規定し『國共關係を調整し内戰の危機を根絶すべきである』と説いてゐるのである。その得意の曲説は兎も角、彼等の争闘も抗日戰繼續といふ命題の前には中止の態勢を執らんと欲してゐることを看過してはならぬ。

昭和十五年末より喧しく傳へられる新四軍強制移駐問題、これに伴ふ國共兩黨の宣傳戰も、すべてこの段階に發生した一つの波

であるに過ぎず、たゞその規模が大きいものであつたので、世界の注目を惹いたに止まる。ドイツの猛爆に對する英國の意外の強靱性、ワシントンの本格的援蔣態度表明に氣を良くした蔣介石はこの機を逸す可からずと考へたものか、江北に蟠踞する新四軍に對して昭和十五年八月黄河以北移駐の内命を發し、その容れられざるを見るや更に十月中旬軍事委員會の正式命令によつてこれを強制した。これは同委員會委員長何應欽、副委員長白崇禧の連署をもつてしたもので、重慶側としては最高の形式を踏んだものであり、その決意の程も察せられる。新四軍の駐屯地は江蘇、安徽方面であるが、この地方の中央軍との協調は、その豊饒な農村を背景とする故に最初から不可能であり、抗戰や民權意識を煽る手段が巧みで、着々中央軍の地盤を崩壊せしめつゝあつたことに對する武力的彈壓で、一箇月の期限内に移駐が實行されぬのを見てその本據を襲つて軍長葉挺を捕へて軍法會議に附し、副軍長（實質上の指導者）項英は戰死し、一應新四軍削減は成功を見たかの如き觀を與へた。中共側はその後も例の如く抗議を繰返しながらも新に新四軍の軍長、副軍長の任命を發表して、反擊態勢を見せてゐるが、武力による正面衝突では重慶側に壓倒されることは勿論で、今後延安が打つ手が刮目されるわけだが、延安自體がモスクワのコミンテルンの手先きであることに想ひを致せば、この問題の省察は畢竟ソ聯の對東亞外交政策の檢討に移らねばならぬ。

#### 四 ソ、蔣關係の二重性格

ソ聯とコミンテルンとが異身同體であることは周知の事實であるが、二十年來ソ聯が東亞赤化の唯一の發火劑として中國共產黨育成に拂つて來た努力は實に大きく、それに比例して中共に期待する役割もまた大なるものがある。だから重慶側の攻勢が今後も繼續して一部少壯軍人、極右派の主張するが如く西北邊區政府の討伐が行はれるやうなことがあれば（現在の重慶の民衆把持力武力などよりしてそれは著しく困難である）が、ソ聯が西北赤色地區を見殺しにするやうなことは決してあり得ず、あらゆる力を赤色ルートにより輸血して蔣政權打倒に盡力するであらう。しかし現段階においては以上述べ來つたやうな紛争にも拘らず、ソ聯は支都に對する戰略として人民戰線理論を捨て去つてはゐないものである。今次世界大戰を第二帝國主義戰爭と規定し、自國の富強を圖るために十數年來の盟友フランスの人民戰線派に煮湯を飲ませて、ドイツの武力と手を握つたコミンテルンは、大戰勃發と同時に先の第七回大會で決議された人民戰線理論を放棄したのであるが、特に支都に對する戰略として除外例を設け、蔣政權抗日戰の現狀より見て支那の社會民主主義者との提携を繼續すべきことを決定してゐる。その現はれとして昭和十六年一月上旬蔣政權との間に茶、羊毛、鑛産物などの特産物と軍需品との四億元に及ぶパーター制を協定し、援蔣政策の不變を表明したが、この協定に

國共の相剋を暴く

ついでには次の諸點が注目されるのである。

一、從來行はれた、ソ、支通商協定は、重慶の財政逼迫により對ソ不拂ひが相當額に上つてゐたこと。

二、西北ルートの現狀より見てこの協定が完全に實行されるとは思はれぬが、ソ聯が從來の債務を帳消しにして重慶の財政的苦境に緩和を與へたこと。

三、新四軍の移駐問題を繞つて國共關係に極度の危機が傳へられたおりに、ソ聯が積極的な援蔣態度を表明したこと。

四、支那事變の長期化によつて日本の勢力を消耗させるといふ原則においては英米ソは本質的に利害一致し、樞軸國家群と民主主義國家群の世界的對立の今日、いろ／＼の角度から推測されてゐたソ聯の外交政策が、支那事變に關する限り依然として民主主義陣營にあることが明かにされたこと。

またソ聯は中ソ文化協會を通じて親ソ派の國民黨要人に働きかけることを忘れてはゐない。孫科以下の親ソ派の占める地位は輕視し難いものがあり、皇軍の佛印進駐、ビルマ・ルート連爆によつて、ソ聯軍需の比率が増大しつゝあることも否み難い。即ちソ聯の對支外交政策は、ソ聯の外交政策一般の特性である二重性格を毫も逸脱するものではなく、複雑な様相を呈しつゝも、東亞赤化の一線に沿つて進められつゝあり、時にその打算、現實主義が國際情勢——世界史の現段階に對する彼等の判斷の如何によつて右に左に變貌するに過ぎない。



### 五 國共分裂の限界點

以上見た如く國共兩黨の摩擦は、兩者とも當初より豫期してゐたところであつて、たゞ蔣政權が外力利用の一つとして『溺れる者に槳』の如く飛びついたので反し、中共側は初めから綿密な計畫を樹て、紛争が無ければ最上、小問題は胡魔化し、大問題が起つて破局に立てば反撃といふ、三段構への周到さを持つてゐたことを想起すれば足りる。かくて、今日までに惹起した紛争が國共兩黨の提携を中絶せしめる性質を有するものであるかを検討しなければならぬ。この間に對しては『現在の情勢では——即ちソ聯の對東亞政策に本質的變化を來さぬ限り、國共兩黨の合作は續くであらう』と率直に答へたい。ドイツの英本土攻略が成功しイギリス帝國が地球上より姿を没し、これに對應してもしもクレムリンの世界赤化の方略が大きな變化を示すならば、現在見るが如きモスクワ—延安—重慶の相關關係も大きく旋回しなければならず、従つてこゝに重慶と延安とが眞正面から全力をあげて立ち向ふことになるであらう。現在ではそこまでは進展してをらず、國共分離の限界には達してゐないと思ふべきであらう。東條陸相の議會における言明を俟つまでもなく『國共相剋で蔣介石が倒れると思ふやうな他力本願は棄て去る』べきであり、われ／＼が國共相剋を観察する時、それが日本人の想像に絶するねばり強さを持つ支那人の營みつゝあるものであること、支那の農村の一つ一

つが今日ではロンドン、ワシントン、モスクワに結ばれてゐる事實を看過してはならない。

## ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

### 一 前哨基地—東亞ソ領

東亞は表支關か 歐亞に跨るソヴィエト聯邦にとつて、歐亞即ち西方がその表支關であるか、それとも東亞面、即ち東方が表支關であるかは、一概に斷定は出来ない。かつてレーニンが『革命は東方（支那を指す）において決すと豫言したことがあるからソ聯にとつては、東亞こそ表支關であつて、歐洲方面は革命戰略からいつて、かへつて裏門であり、結局支那を中心とした舞臺が世界革命の原動力であるとの見方も行はれてゐる。しかして、これを裏書するのが、ソ聯工業基地の東漸とその積極的東亞建設畫並に赤軍五〇〇、〇〇〇の東亞常駐であるとする。しかるに今次歐洲戰の勃發と相前後して、ソ聯の關心は、西方國境に集中され、ポーランド進駐をきっかけとして、次でフィンランドと衝突、レニングラード要塞を擁護するといふ軍事的見地からフィンランドを強壓して、結局、所期の目的を貫徹した。進んでは、南露オデッサを護る意味からルーマニアに手を伸ばして、ベッサラ

ビア及びブコヴィナを奪還、つゞいて、曩に前進で押へつけてゐたバルト三國をも、遂にソ聯邦に編入した。そして歐洲戰局の發展如何によつては、まだ／＼西南方面に向つて、進出の機會を狙つてゐるものゝやうであつた。かゝるソ聯の西方における動きは、ソ聯の表支關が、西方國境に移つてゐることを示し、元來ソ聯の表支關は東方になくして、西方であつたのだといふ見方が有力になつて來てゐる。ソ聯の表支關、裏支關の問題は、いづれに重點が置かれてゐるかの表現形式であるが、實際には、東西兩面に支關があつて、いづれも表支關なのである。

### 赤軍の兩正面作戰

かつて赤軍の事實上の統帥者であつたトハチエフスキー元帥は、東西兩正面同時作戰を樹立して、西歐國境と東亞での兩正面衝突に備ふる戰備を完成せんとした。この戰備は、今日の赤軍においても、未だ撤回されたことを聞かない。モロトフの如きは、東亞建設計畫實施に際して、東亞ソ領こそはソ聯の國防前哨基地であると叫んでゐる。更に支那に對するソ聯の政策に見ても、國共兩者間の軋轢激化し、内亂狀態に陥つてゐるに拘らず、依然として援蔣政策持續の不變更を宣し、間接に英米の援蔣政策再強化に微妙なる作用を與へ、支那を繞る國際關係をいよ／＼複雑化せしめてゐる。このソ聯の援蔣政策は、ソ聯の東亞建設計畫と相俟つて、ソ聯の裏門どころか、その東亞への關心は、敢て西歐に劣らぬものがあるを發見するのである。従つてその時の情勢によつて、ソ聯の關心に、東西兩國境に多少の差は

ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

あつても、本來この兩者に明確なる區別を附してゐる譯ではなく兩面とも重要な前哨基地であり、その相手國にして弱勢であり進出の機會さへ生ずれば、その東西いづれを問はずといつた兩正面政策を把持してゐるといへよう。

### 二 ソ聯工業基地の東漸

重工業の分散計畫 ソ聯が一國社會主義建設政策に轉向して國內經濟建設五箇年計畫に着手したとき、もつともソ聯當局を考慮せしめた問題は、ソ聯の重工業基地の西南に偏在してゐることであつた。周知の通り帝政ロシアは、穀物において、南露ウクライナに依存し、重工業資材なる石炭、鋼鐵、石油においてドンバースとバクラー、バツムに依拠してゐた。かゝる工業基地の偏在は、一朝戰爭開始の際、近代戰の武器である飛行機の發達によつて、忽に、敵爆撃機の好餌となり、ソ聯の重工業基地の壊滅は、直に戰爭遂行能力の停止を意味することを痛感した。時代はナポレオンのモスクワ侵入當時とは一變し、國土の老なることだけでは、近代戰に勝味はない。殊に當時の國際情勢は、ファッシズム及びナチズム勃發の氣運に際會してゐただけに、この危険性は、一層痛切なるものがあつた。で、ソ聯は、經濟建設に當つて、重工業の分散主義を採用し、ドンバースに匹敵すべき重工業基地を求めて、ウラル・タズバスの綜合工業地帯を發見したのである。即ち一九三〇年五月第十六回黨大會におけるスターリンの報告演説

六一九



に基き、ウラル・クズバス綜合基地建設に關する案が公式に決定し、ウラルの鐵礦とクズバス炭田を結合して、ソ聯第二の強力なる綜合工業基地を短期間に完成すべく、早くも一九三〇年秋にはゴスプラン（國家計畫院）の下に特別委員會が組織されて、實際の計畫に着手したのである。このウラル・クズバス工業基地の設定は、とりも直さず、ソ聯工業基地の東漸であつて、これが影響は、直接には西部シベリアのカザクスタンの資源開發を誘致し進んでは東部シベリア及び東亞ソ領の開發に重大なる推進力を與へたのである。その上、見逃すことの出来ないのは、ソ聯の第一次、第二次五箇年經濟建設計畫が、實質において、このウラル・クズバス綜合工業基地建設を重點として、動いたことであつた。

**豊富な鐵、石炭** 試みにソ聯重工業の資材中、石炭と鐵礦及び有色金屬の分布圖を示すと、先づ石炭産出の第一基地は、ドンバス（ドネツの炭田で、ドン河の支流、北ドネツ河の沿岸にありウクライナとロシア共和国のロストフ州の一分に跨つてゐる）でその面積二五、〇〇〇平方キロ、埋藏量五〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン、炭質は、灰分多く且つ硫黄の含有量高く、良質とはいひ難いが、たゞ豊富な鐵礦産地（クリウオログ及びケルチ半島）に比較的近接（約四〇〇キロ）してゐることがその強味である。ソ聯第二の石炭基地は、クズバス（クズネツ炭田で、アルタイ山脈中のトミ河流域にある）で、その面積は、ドンバスと伯仲であるが、埋藏量は四五〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇トンといは

れ、ソ聯第一位を占めるものである。クズネツ炭礦都市の第一次五箇年計畫は堅坑の新設二九、一九四二年の出炭能力は二五、〇〇〇、〇〇〇トンに達する豫定。また一九三七年には炭田の使用する重載炭機は四二臺であつたが、一九三九年にはこれを倍加、一九四二年には採炭設備の機械化率を九〇%に高める。第三次五箇年計畫ではクズバスの最良質のコールクス用炭の額を一〇、〇〇〇、〇〇〇トンに達せしめる。第三の石炭基地は、カザクスタンのカラガンダ炭田（シベリア鐵道幹線から東南ベトロパウロエクに出る新鐵道線にある）で、その埋藏量五〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン、コールクス用炭である。このカラガンダ炭田は、クズバスよりも、ウラル鐵礦に約二倍程近い距離にある上に、同炭は、カザクスタン有色金屬工業及び輸送工業にも、極めて重要な役割を演ずるものである。

**ウラル・クズバスの發展** 次に鐵礦地區についていへば、ソ聯の南部で、ドンバスと連結するクリウオログの鐵礦區は、埋藏量一〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン、その鐵質は優良にして、含有鐵分五八・六二%、但し深層である。ケルチ鐵礦區は埋藏量約三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン、ソ聯最大の鐵礦區で、露天掘りにも適し、含有量三三・四〇%。その他南部地區には、クルスク地方の埋藏量二〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇トンに達する鐵礦區がある。しからば東部地區即ちウラル地區では如何なる状態かといへば（一）マグニトゴルスク（埋藏量四〇〇、七〇〇、〇〇〇

トン）（二）バカール（埋藏量一〇〇、〇〇五、〇〇〇トン）（三）コマロウオ・ジガデンスク（埋藏量一〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン）（四）ダギロ・クシュウインスク・グルブ（埋藏量二八〇、〇〇〇、〇〇〇トン）（五）ゴールナヤ・シヨリヤ（スタンリンスクの南東地區で、埋藏量約三〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン）等でこれ等ウラルの豊富な鐵礦とクズバスの無盡蔵なる石炭とを結合させるためには、二、二六〇キロの距離を征服する必要がある。これがためには、ソ聯當局も、あらゆる近代社會主義的設備を施し、鐵道、電力を利用する輸送機關をはじめ、最近では、西方ウラルのマグニトゴルスクと石炭産地のクズネツの兩者に、熔鐵爐を建設し、コールクスをマグニトゴルスクに運んだ列車は、歸路には鐵礦をクズネツに運ぶといつた振子の原理に基いて、二工場群を活躍せしめ、その各々が年一、〇〇〇、〇〇〇トンの生産力を發揮するに至つてゐる。かくて、ソ聯の五箇年計畫が、進捗するにつれ、ウラル・クズバス一帯の工業地區は、一大飛躍をとげ、ノオシビリス市は人口四〇〇、〇〇〇萬を包容する大都市となり、クズネツ鐵礦所のある新都市スターリンスクの如きは二〇〇、〇〇〇を擁する工業都市に變化し學校四二、鑛業大學一、クラブ二五、劇場二を算するに至つた。なほ第三次五箇年計畫によると、こゝに合金鐵製造工場、鐵滓セメント工場を新設し、製鐵所には年産能力八〇、〇〇〇—一〇〇、〇〇〇トンのストラップ再生鐵場、屋板製造鐵場、家庭用金物製造鐵場を新設し、製鐵所の

ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

能力は一九四二年には、鉄鐵一、七七〇、〇〇〇トン、鋼塊二、一五〇、〇〇〇トンに増加せしむる豫定となつてゐる。

**カザクスタンの重要性** ソ聯の有色金屬産地についていへば最近とみにカザクスタン地方が、その重要性を増して來てゐる。特にソ聯唯一の銅産地は、カザクスタンであり、埋藏量八、〇〇〇、〇〇〇トン、内コウンラード（バルハシユ湖北岸）には、年一〇〇、〇〇〇トンを産出する大製銅綜合工場が建設されてゐる。亜鉛及び鉛もカザクスタンのイルツイシユ右岸リール附近を産地とし、亜鉛の埋藏量二、八〇〇、〇〇〇トン、鉛が一、九六〇、〇〇〇トンと稱されてゐる。

以上の如き情勢は、人口一、〇〇〇、〇〇〇を既に包容せるウラル・クズバス綜合工業地帯のソ聯の經濟建設上に占める重要地位を示し、これが建設發展に伴つて、その膨脹力を東部シベリアから東亞に及ぼすに至ることは、自然の趨勢であり、その傾向が鐵道網の擴張によつて、具體的に示されてゐる。

三 第二シベリア鐵道

**和戰兩様の目的** シベリア幹線の南部を東走して、東部シベリアのタイシエトに達する延長三、〇〇〇キロの所謂南部シベリア豫定鐵道の西部區間マグニトゴルスク—カルタライ—アクモリンスク間八〇六キロは一九四〇年一月に開通した。この新線は第三次五箇年計畫で豫定されてゐたものである。この南部シベリア



豫定線は、クスタナイ、北カザクスタン、カラガンダ、パウロダール、ノオシビリス諸州、カザク共和国、アルタイ地方、ハカス自治州及びクラスノヤール地方を通過するもので、一面第二のシベリア鐵道を構成すると共に、他面ウラル・クズバス綜合工業地帯及びカザクスタン地方の開発輸送に資するもので、その意義重大なるものがある。この鐵道敷設に關聯して一九四〇年十一月七日の革命記念祭に、共產黨西部シベリア委員會議關紙ソヴァエトスカヤ・シベリ紙は、特に第二シベリア鐵道建設の意義を高調し、その一部である西部シベリア工業地區の中心スターリンスクとその西方トルクシブ鐵道沿線バルナウルとを結び全長二三〇キロの鐵道は一九四一年初頭竣工の豫定なりとし、第一段階であつたカルタリイ—アタモリンスク間は一九四〇年の初頭に完成してをり第二段階たるスターリンスク—バルナウル間の線が完成した曉は、その工業資源の開発發展とこれが生産物の輸送に畫期的成果を齎すものと發表してゐる。一度ソ聯の地圖を開けば明瞭なる如く、ウラル山脈を境として、歐露方面は、モスクワを中心として、鐵道が蜘蛛の巣のやうに張り廻されてゐるに拘らず、シベリア方面及び東亞方面を見渡せば、そこにはたゞ一本のシベリア鐵道を發見するに過ぎない。ソ聯として東亞方面が裏支圖であるとはいひ得ないとしても、一度戦時ともなつて、軍隊を輸送する場合、忽ち非常な困難に直面し、東亞ソ領は愚か、中部アジアへの大軍輸送は、事實上不可能に近い。また平時にあつても、東亞建

設の推進力は、鐵道の發達に依據せねばならぬ。この意味からソ聯當局もシベリア及び東亞方面に新なる鐵道建設政策に特別の注意を拂つてゐる譯で、第二シベリア鐵道の建設計畫も、戦時と平時兩様の目的をもつて進められつゝある。

**完成は四七年度** この第二シベリア鐵道は、モスクワを起點として、ウラル鐵道地帯の中心地ウファを経て、クズバスの重點アタモリンスクを通り、アルタイ地方のバルナウルに達し、こゝから一部はトルクシブによつて新疆省に通じて中國ソヴァエト地區への輸送路を構成し、本線はバルナウルから更に東進してクズバス炭田の中心スターリンスクに出で、それからバム鐵道起點のタイシエトに連絡し、バイカル湖を北に迂回してプラトスコエ、ウスチクト等を経由して、黒龍江下流の新興工業都市コムソモリンスクに達し、やがて太平洋に面するソウガワニ(ソヴァエト灣)に出るといふ蜿蜒一〇、〇〇〇キロに及ぶものである。この第二のシベリア鐵道の完成は、一九四七年十一月七日即ち革命三十周年記念日に間に合はせるといふ。かくて二本のシベリア急行列車が通ひ始める頃になつて、東亞建設も本格化する順序である。

#### 四 東亞建設の現段階

(1) **第三次五箇年計畫の目標**  
 東亞の自給自足 ソ聯が第三次五箇年計畫に入つて、一九四一年は第四年目に當る。ソ聯の東亞建設第三次五箇年計畫の目標

は、概括すれば東亞の生産力を高めて、主要物資の自給自足を計ること、これによつて輸送力の負擔を軽減して、戦時輸送力の餘裕を作らうといふ點にある。第三次五箇年計畫實施に際して、モロトフ首相の東亞ソ領建設に言及した報告演説に見るに『ソ聯東亞諸地方の如く、特殊の事情ある地域にありては重要産業の綜合的發展なしには、國家の最も重大なる利益を擁護することは困難である。東亞地方においては、燃料は勿論、能ふ限り多量の金屬及び工作機械、セメントその他、輸送上多大の負擔を課する食料品及び輕工業製品等の必需品を現地において、自給するを要する。吾人は、東亞ソ領をもつて、ソ聯政府が將來全面的に強化するを要する重要な國防前哨基地と認め、これを重要視するものである』と述べてゐる。しかして東亞第三次五箇年計畫として、東亞に投資する額は全ソ聯投資額の一〇%となつてゐるから一八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルを支出するわけである。その内東亞における生産力擴充計畫について見ると、石炭においては第二次五箇年計畫末の探炭高に對し二・五倍の増産即ち一、二、八〇〇、〇〇〇トン、石油においては三・八倍の増産即ち一、三〇〇、〇〇〇トン、鐵においては、ベトロフスタ、ザバイカル及びアムール製鐵所の竣工、ブレイヤ・ヒンガン綜合企業の建設を敢行する。セメントにおいては、一九三七年度の三倍餘の増産即ち五二〇、〇〇〇トン、穀物においては、播種面積の擴張に俟つことになつてゐる。

#### ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

**懸念の工業化運動** なほコムソモリンスク、ニコラエウスタ、ハバロフスクの諸都市に、地方電力供給を目的とする發電所を建設する。自動車組立工場、セメント工場を完了し、コムソモリンスクのセルロイズ製紙綜合工場の建設と東亞一帯の木材工業の生産能力を増大せしめる。また東亞地方の油田に對する地質調査を進捗せしめ、ウランウデ、イルターツク、ハバロフスク三市に製糖工場を新設する。コムソモリンスク、ハバロフスクの魚類加工工場場の建設を完了せしめ、ソウガワニ(ソヴァエト灣)及びベトロバウロフスクには造船所をそれぞれ建設しカムチャツカ、オホーツク海沿岸及びアヤン地方の開発を促進する。その他東亞の鐵道支線、水運及び航空路に關しても、第三次五箇年計畫において、それぞれ進出計畫をすゝめてゐるが、これ等東亞建設の第三次五箇年計畫の達成は、目下進捗途上にあり、その數字を明確にし得ざるをもつて、第二次東亞五箇年計畫の實績によつて、判斷するより外はない。

(2) **東亞建設の計畫とその實績**  
 東亞地方の建設計畫が、本格的になつたのは、第二次五箇年計畫からであつて、その投資豫定額が四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルであつたのが、實際は八、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル即ち第一次五箇年計畫の八倍の額に達したのである。第二次五箇年計畫の基本課題は一、製鐵基地の創設を中心とする東亞建設の強行、二、燃料工業と機械製造工業の發展、三、東亞農業の



社會主義的施設に伴ふ食糧の確保にあつた。しかしして輸送機關、特に鐵道建設も、これが動脈として重要な役割を課せられてゐたのである。そこで東亞建設の達成状態を個別的に擧げて見よう。

**バム鐵道** バム鐵道即ちバイカルとアムールを結ぶ總延長五、二〇〇キロ、建設費一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルをもつて、一九三二年に、時の交通人民委員カガノウツチの提唱によつて、着工したのであるが、豫定線はバイカル湖の西方タイシエトを起點として、バイカル湖を北方に迂迴して、ブラストコエ、ウスタクト、キレンスク、ボダイボ、チンダ、ゼーヤ、コムソモリスク、ソウガワニ(ソヴイェト灣)に達するもので一部は完成してゐるが、この鐵道が主として、ザバイカル鐵道の戰略的缺陷を補ふ目的をもつてゐると、建設工事に多數の政治犯人を使役してゐる上に、東進するに従つて、氷結地帯を通過する關係から線路の土工作業は極度に困難を加へ、豫定通りの進捗を見せないために、工事進行程度は秘密にされてゐる。今日その全線完通期は未定で、あるひは一九四二年度、即ち第三次五箇年計畫最終年度には竣工するといはれ、更にそれよりも遅れて、一九四五五年になるともいはれてゐる。その代りにハバロウスクとコムソモリスク間の支線は、既に開通してをり、バム鐵道本線でもタイシエトとボダイボ間、コムソモリスクとウオロチャエフカ間は工事完成してゐるといはれる。

**コムソモリスク工業都市** コムソモリスクは東亞五箇年建設

ボシエト、シヂミ、オリガ、カンガウス等を數へるが太平洋に面せるソウガワニ(ソヴイェト灣)の建設は、バム鐵道の終點に豫定されてゐるだけにウラジオストツクと共に、ソ聯太平洋艦隊特に潜水艦の根據地として、重要軍港の役目をもつものとして注目される。ここには、大規模の船舶修理工場が建設されつつある。

**ブレイヤ・小興安嶺綜合企業** ブレイヤ炭田(埋藏量一四〇、〇〇〇、〇〇〇トン)と小興安嶺の鐵礦(埋藏量五〇〇、〇〇〇、〇〇〇トン)とを結合して、東亞の製鐵工業の基地とする建設計畫であるが、現在ブレイヤ流域の發展は、鐵道運輸を缺いてゐるため、ブレイヤの探炭は、撤出の途がない。シベリア幹線イスヴェストコーヴアヤ驛から出てゐる鐵道は、トウイルマまで延びてゐるだけで、そこからブレイヤ流域の中心地ウルガラまでは約一八〇キロの距離がある。ブレイヤ炭坑は、現在二堅坑の建設を終り、二基本坑道が開設の緒につかんとしてゐるが、その建設は一般に緩慢である。といふのはブレイヤ河は舟運の便が悪いのであるが、鐵道のないために僅かに建設用貨物を水路によつて、ブレイヤ炭坑に運んでゐる有様であるからである。それと肝腎のコムソモリスクのアムール製鐵工場が完成せず、同時にブレイヤとコムソモリスク間の鐵道連絡がないので、ブレイヤ炭を搬出し得ない状況にある。

**アングラ建設** バイカル湖から流出するアングラ河の水力を利用して、強力な發電所を設置し、この地區に埋藏されてゐる鐵

ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

計畫の基點に選ばれた結果、一小部落『ベルミ』は、黒龍江下流に位しながら一躍、東亞ソ領全體の指導的工業都市となつた。一九三二年、スターリンの創意に基きモスクワ、レニングラード、ミンスク、オデッサ等から、ぞく／＼押しかけた共産青年黨員によつて、建設が開始され、現在人口一〇〇、〇〇〇を算し、第三次五箇年計畫末には二五〇、〇〇〇に達する豫定である。既に建設された工場としては、船舶修理所、機械製作工場、煉瓦工場、石炭工場、木材加工工場、製麵工場、果汁飲料工場、インノケンチエフ造船所がある。その他スレドネ・アムール國營漁業トラスト所屬の漁業工場、それに市の中心を距つる七キロの地點に、東亞第一の冶金綜合企業『アムール・スタトリ』が建設中である。未完成ながらその規模において、熔鑪、壓延、鑄鐵各工場を有する大工場で、別にコークス化學工場、鑛山その他の附屬事業を有してゐる。また九個の加工職場、冷蔵庫、燻製職場と附屬する漁業綜合企業、製紙綜合企業及び自動車トラクター工場も建築中でこれ等企業の完成の時は、驚くべき發展が期待されてゐる。なほ鐵道は、近くコムソモリスク市とハバロウスク線を延長して、ニコラエフスク港及びソウガワニ(ソヴイェト灣)とも連結することになつてゐる。

**ソウガワニ(ソヴイェト灣)** 東亞ソ領の港灣としては、ウラジオストツク、ニコラエフスク、アレクサンドロフスク、デカストリ、テチエ、オホーツク、オダ、ウスチカ・ムチャツカ、アヤン、鑛及び炭田と結合して、ウラル・タズバス工業基地と東亞の先端ブレイヤ小興安嶺工業基地の中間に、一大工業地帯を出現せしむる計畫であるが、本計畫の進行状態はソ聯當局の發表がないので現在不明である。

**建設工作の障礙** これを要するに東亞建設状況は、一部において相當進捗せる部分はあるが、大體において計畫の多くは未遂行に終つてゐる。その主要な原因は、東亞地方に人的資源が乏しく、勞働力の誘引に失敗してゐること、鐵道建設が工業基地建設に伴はず、依然運輸機關の不備が目立つこと、一般に東亞地方の經濟力が微弱で、本國に依存するところ多く、五〇〇、〇〇〇の赤軍を擁して、東亞の物資、食糧の自給自足は速急に期待されな

い。今東亞ソ領の現勢表を示せば次の如くである。

東亞ソ領の現勢

面積(東亞ソ領)

内 譯

東亞地方	ハバロフスク地方	2,572,000
	沿海地方	208,800
	チタ州	720,000
	東部ソ連ラフ地方	331,400
	フリヤト蒙古	922,400
	イルクーツク州	5,326,439
ソ 口 (1939年1月現在)		



内 譯	東 亞 地 方	1,430,875	東 亞 地 方 (1937年)	2,090,000
	東 亞 地 方 { ハバロフスク地方	907,220	東 部 シベ リ ア ( " )	—
	チ タ 州	1,159,477	化 學 工 業 生 産 高	—
	東 部 シベ リ ア 地 方 {	542,170	東 亞 地 方	4,700,000
	イ ル ク ー ツ ク	1,286,696	東 部 シベ リ ア	—
工 業 (工業總生産高)	東 亞 地 方 (1938年)	624,000,000	セメント生産高	—
	東 部 シベ リ ア 地 方 (1935年)	576,000,000	東 亞 地 方 (1937年)	164,000
石 炭 (出炭高)	東 亞 地 方 (1938年)	47,500,000	東 部 シベ リ ア	—
	東 部 シベ リ ア ( " )	68,500,000	魚 獲 高	3,930,000
石 油 (採油量)	東 亞 地 方 (1938年)	360,000	東 亞 地 方 (1937年)	—
	東 部 シベ リ ア ( " )	—	東 部 シベ リ ア ( " )	—
電 力	東 亞 地 方 (1937年計畫)	305,000,000	農 業 (總播種面積)	—
	東 部 シベ リ ア ( " )	468,900,000	東 亞 地 方 (1938年)	899,100
鉄 道 生 産 高	東 亞 地 方 (1937年)	—	MTC 數 (マシントン・トラクター・ステーション)	1,714,000
	東 部 シベ リ ア ( " )	34,000	東 亞 地 方 (1939年)	110
機 械 製 作 生 産 高			東 部 シベ リ ア ( " )	143
			トラクター數	7,500
			東 亞 地 方 (1939年)	5,809
			コムバイン數	2,073
			東 亞 地 方 (1939年)	

東 部 シベ リ ア (1936年)	303
農 業 用 貨 物 自 動 車	
東 亞 地 方 (1939年)	3,447
東 部 シベ リ ア (1936年)	1,327
穀 物 收 穫 率 (1938) 1ヘクタール當り	
東 亞 地 方 { 哈 爾 濱 地 方	5.50
チ タ 州	8.15
イ ル ク ー ツ ク 州	9.92
東 部 シベ リ ア	10.70
家 畜 頭 數 (1937年)	
馬	170,600
牛	412,000
羊	8,2000
豚	470,000
馬	284,000
牛	730,000
羊	900,000
山 羊	400,000
コルホーズ (總播種面積)	
東 亞 地 方 (1937年)	658,800
東 部 シベ リ ア ( " )	1,487,300

ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

製材高 (1937年)	1,000,000
東 亞 地 方	—
東 部 シベ リ ア	—
本材調達高 (1938年)	3,306,000
東 亞 地 方	3,569,000
東 部 シベ リ ア	—
交 通 (鐵道幹線) (1939年)	
東 亞 地 方 { 東 亞 沿 海 鐵 道	2,557
チ タ 州	1,107
イ ル ク ー ツ ク 州	1,658
東 部 シベ リ ア	2,539
モロトフ鐵道	7,328
東 部 シベ リ ア 鐵道	—
民間航空 (1938年)	
東 亞 地 方	6,700
空 路 延 長	589
輸 送 郵 便 物	6,230
貨 物 輸 送 量	6,290
旅 客 輸 送	6,290

林 業

③ 東亞建設のチンキとロンの運商の可能性

自給自足と前途展望 以上において、ソ聯の東亞ソ領に對するその遠大なる計畫の全貌とその實勢力を大體検討した。由來、



ソ聯は、重點主義に徹底した國で、いざ軍事上または特殊の事情によつて、ある一點の建設補強を必要と認められた際は、いかなる困難も、いかなる悪条件をも突破して、強行する癖がある。その點になると全然經濟上の採算を無視してかかるのである。ソ聯國境に張り廻されたトーチカ陣の急造、曠野に一夜にして出現せしめたコムソモリスク工業都市といったやり口は、これが適例である。したがつてソ聯の東亞開發計畫にしても、よくその軍事的方面の施設と本格的經濟建設方面の施設とを區別して眺める必要がある。東亞ソ領の軍事的方面の施設は別とし、平時の經濟建設事業に對しては、その計畫の老大なるに比して、今日まで実績のあがつてゐないことは、第二次五箇年計畫の實際成果によつてよく窺はれる所である。これをいまい少し詳しく、東亞地方の物資供給關係、特に石炭、石油、鐵、セメント、穀物等の主要物資について見ると、石炭は一九三八年度四、七五〇、〇〇〇トンの採炭數量を示してゐるが、これは東亞地方の需要量を満たすまでにはなつてゐず東亞ソ領は毎年相當の數量を他地方から移入してゐる。

**輸送機關も不備** 先づ東亞地方の石炭自給率は八〇%程度に止つてゐる。石油においても、サハリン探油が一九三七年度において三五〇、〇〇〇トン、殘餘は北コーカサス及び中央アジア方面から鐵道によつて移入され、それが三〇〇、〇〇〇トンに達してゐる。東亞地方の石油消費量約一、〇〇〇

東亞地方第二次計畫豫定と実績

業 務	単 位	豫 定	實 績	遂行率
電力	(百萬 <sup>ワット</sup> 時)	305.90	—	—
石炭	(千 噸)	6,500.00	4,740.00	72.90
石油	( )	800.00	350.00	43.70
鐵	( )	50.00	—	—
金屬	(百萬ルーブル)	150.00	2.06	—
セメント	(千 トン)	280.00	164.00	58.60
煉製	(千 個)	400.00	69.70	17.40
瓦材	(百萬立方米)	1,900.00	1,150.00	60.50
魚獲	(千 疋)	384.70	393.00	102.10
砂糖	( )	11.50	3.30	28.70
農業	(千ヘクタール)	1,190.00	865.10	72.70
播種	( )	920.00	617.30	67.10
(イ)穀物	( )	140.00	98.10	70.10
(ロ)工藝作物	( )	100.00	90.50	90.00
(ハ)蔬菜	( )	30.00	19.10	63.70
(ニ)飼料	( )			

〇、〇〇〇トンと見積つて、東亞地方の自給率は三五%に過ぎない。鐵はブレイヤ・小興安嶺綜合企業に期待が、かけられてゐるが、コムソモリスクのアムール製鐵所が完成してゐる。

ないので、自給率は皆無であり、全部他地方からの移入に依つてゐる。セメントはスバスカのセメント工場とコムソモリスクの小工場に依存してゐるが、一九三七年度一六四、〇〇〇トンの生産で、これまた東亞地方の需要量四二〇、〇〇〇トンに對比して、その半額にも達しない。更に穀物の自給率にしても、二八%程度で、西部シベリア、東部シベリアから穀物の供給を仰いでゐる状態である。これに加ふるに東亞地方の輸送機關は、軍事的方面に偏して、純經濟的鐵道は、まだ微々たるもので、五〇〇、〇〇〇の赤軍を養ふべき東亞地方の物資自給力は、なほ前途遠慮であると思ふべきであらう。これを別掲東亞地方第二次五箇年計畫の豫定と実績表及び一九三三年度における東亞向物資移入表に見ると更に明瞭である。

東亞向移入物資 (1934年度) (單位千噸)

東亞地方總移入量	2,700.00
東亞ソソリア總移入量	195.00
内	
石	
油	
石炭及びコークス	
金屬及び同製品	

東亞地方	265.50
東亞ソソリア	123.20
東亞地方	384.60
東亞ソソリア	—
東亞地方	340.10
東亞ソソリア	178.90

ソ聯勢力の東漸とその東亞建設

**現狀の不自然性** 上記の資料によつて、東亞ソ領の物資自給不足の未だ前途遠慮なること、即ち今後相當の期間、他地方より重要物資並に輕工業品の供給に依つべきことが、明かにされた。ソ聯が軍略的意味において、この不自然なる方法による物資の移入によつて、あくまで東亞ソ領の經濟的獨立を企圖するものであればとにかく、もし本格的に東亞ソ領の經濟建設を圖らんとするならば、當然地理的に隣接せる滿洲國及び日本との通商關係強化によつて平和的に東亞建設を促進し得るはずである。

從來日ソ關係は餘り良好でなく、殊に滿洲事變後は一種の對立關係にあつて、不時の國境衝突事件すら頻出した。これがためにソ聯もある程度東亞經濟建設計畫を犠牲として、國防強化に邁進せざるを得なかつた事情にあつた。しかし歐州戰の勃發以來、國際政局は重大なる變化を來した。ソ聯は西歐方面における領土膨脹に忙しく、東亞地方の建設テンポの緩慢となり來つたのも、これに原因する所が多い。もしソ聯にして、最近の東亞の新事態を正確に把握し、日本の基本政策となつた南進政策を正解するに至れば、日ソ間の從來の緊張狀態は必然的に緩和さるる時期に到達しつつあるを覺えるであらう。假りに日ソ兩國間に今後不侵略條



日本品の對ソ輸入 (單位數量、價格ルーブル)

日本より 輸入物資名	1934		1935		1936		1937	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
粒穀(燕玉)	499	197	409	110	354	108	312	121
種子	—	—	17.715	2.786	14.890	2.047	2	3
野菜	2.842	924	6.141	749	2.475	388	981	139
果實	102	206	886	333	422	250	34	46
茶	3.855	3.250	5.956	4.949	2.643	2.997	3.697	5.087
木材	6.081	1.726	727	18	3.326	168	2.498	157
罐詰	530	1.638	528	591	514	702	289	264
煙草	18	272	30	227	30	232	11	82
石炭	26.425	583	65	2	2.006	31	621	17
鹽	1.776	92	10.989	258	6.334	161	22	4
セメント	683	79	184.163	3.802	100.184	1.965	219.715	3.696
陶磁器	15	18	473	35	920	28	959	56
染料	35	74	160	556	—	—	98	80
機寸	4	9	4	4	8	7	6	5
紙	25	31	52	105	151	244	42	113
絹物織	—	—	30	420	69	981	—	—
綿織物	13	293	50	368	15	38	—	—
絲	38	140	421	937	1	6	2	6
麻製品	423	823	6.966	5.904	272	295	128	269
衣類	81	2.199	108	994	78	503	44	239
鐵鋼鐵材	—	—	2.509	854	3.216	931	1.916	468
鐵鋼鐵板	—	—	5.557	1.183	1.269	428	1.909	632
機械設備	3.245	3.460	1.121	837	4.518	8.622	1.307	1.116
蒸汽設備	3.244	3.456	106	79	216	150	43	175
電氣機械	118	504	926	1.454	8.158	11.794	—	—
船舶	59	1.209	89	894	147	4.928	144	1.062

約の如き政治協定が成立する可能性ありとせば、東亞ソ領と日滿兩國間の通商、貿易關係を調整して、彼我有無を通ずることは、最も自然の條件を有利に利用するものといはざるを得ない。

**日滿ソの共榮可能** 一度ソ聯にして、日滿兩國との共存共榮關係の建前に立つならば、五〇〇、〇〇〇の東亞赤軍の駐屯は、その半ばは不要に歸すべくかつ北鐵讓渡代價金の現物支拂によつていかに東亞ソ領が日滿兩國の輕工業品及び食料品、セメント等の供給によつて、利益したかの過去の實績に鑑みても、日ソ通商關係の調整が、東亞建設に、いかに資する所が多いかは多言を要しないであらう。またこれを日本側から見ても、東亞ソ領の純經濟的發展は、何等日本を脅威するものでないばかりか、人口稀薄、經濟的に微力であつた東亞ソ領の開発は、いよ／＼滿洲國の繁榮を促進するものとなるであらう。われ等は一日も早く、ソ聯の東亞建設を警戒の眼をもつて眺める心構へを一掃して、互助の通商關係を結びつつ、東亞ソ領の平和的建設を、楽しみをもつて眺め得る時期の來らんことを念願するものである。



引 索

---

引 索 表 計 統

---

表 算 換 位 單 種 各

---



索引

ア

- 隘口街……………三三八、三三〇
- アイスランド……………四〇九
- アウリツチ大使……………四〇〇
- 亞鉛灣……………三三二
- 秋富部隊……………三三九
- 秋元部隊……………三三九
- アキーモフ……………三六六
- アキレス號……………三五五、三五七
- アクモリシスク……………三三九、三三二、三三三
- アザツド……………三三〇、三三三
- 淺間丸事件……………三三九
- アツサム……………三二七、三二九
- アデレード……………三三五
- 阿部海軍軍務局長……………四〇三
- 阿部首相……………三〇五、三〇六、三〇三、三〇二、三〇九、四〇七、四〇九、四一〇、四一三、五三六
- 阿部大使……………八二、八三、八四、八三
- 阿部大將……………八
- 阿部内閣……………七
- アーベント……………四〇六
- アムール・スターリ……………六二四
- アムール製鐵所……………六三三、六三八
- アムール鐵道……………六二七
- アメリカ……………三三三、三三七
- アメリカ援將借款……………九二九、三六五
- アメリカ援將一億ドル借款……………四〇九
- アメリカ第一次援將借款……………四〇八
- アメリカ第二次借款……………四〇八、四〇九
- アメリカ第三次借款……………四〇八、四〇九
- アメリカ第四次借款……………四〇八、四〇九
- アメリカ金屬貯藏會社……………一〇九、一〇九
- アメリカ・ゴム貯藏會社……………一〇九、一〇九
- アメリカ航空會社借款……………四〇七
- アメリカの在支權益……………三六八
- アメリカ太平洋定期航空……………三六八
- アメリカ中立法……………三七五
- アメリカ復興金屬會社……………三七五
- アメリカ法幣安定資金借款……………四〇八、六〇五
- アメリカの輸出許可制……………四〇八
- アメリカ輸出入銀行……………四〇九、四〇五
- アメリカン・レザーヴ・カンパニー……………四〇九
- 廈門……………三三三、三三七、三九四、三五五、四二二、四四一、四七六
- 天羽國際聯盟帝國事務局長……………四〇九
- 天羽駐伊大使……………四〇九
- 綾部部隊……………三三三
- アヤン地方……………六三三
- 荒木貞夫……………三三〇
- アラハバッド……………三三〇
- アラバット……………一六六
- アラバンソン……………三〇四
- 有田外相……………一〇二、一〇三、一〇五、一〇六、一〇七、一〇九、二〇九、二五八、二五九、二九〇、三〇二、三〇四、三〇六、三〇八、三〇九、三二四、三三六、三三九、三六二、四〇三、四〇三、三七四、三八一、四〇三、四〇三、
- 有馬頼寧……………四〇三
- アルコツト……………四〇三
- アルタイ……………三三三
- アルタイ山脈……………六三〇
- アルバイ地方……………六三〇
- アルパニア……………三六四、三六六、三九九
- アルマ・アタ……………三八八
- アロン灣……………一八四、一八五
- 安化……………一八四
- アングラ……………六二五
- 安徽省……………三四三、三四八、三四九、三四四
- 安徽大學……………一〇二
- 安慶……………五九三、三七三、三四七、三三八
- 安江……………五六六
- アンコール……………五八八
- 安仁……………一七九
- 安順……………五九〇

索引



安西... 安ソノニー... 安達... アンチケワ... 安東衛... 安藤南支軍最高指揮官... 安藤明道... 安南... 安福... アン・ブラン... 安北城... 安樂... 安陸... アンリ大使... 飯塚鐵礦... 飯塚部隊... 飯野部隊... イヴニング・ポスト(上海)... 威遠...

イ

威海衛... 威海衛接收條約... 章煥章... イギリスの援將借款... イギリス第一次法幣安定資金... 第二次... イギリス第一次對將輸出信用借款... イギリス第二次對將輸出信用借款... イギリス第三次對將輸出信用借款... イギリス北支屯駐軍... イギリス揚子江艦隊... 池田成彬... 池田部隊... 遺産税... 石原農相... 石原産業... 石本部隊... イシヌコフ... 維新政府...

ウ

伊ソ通商協定... 板垣支那派遣軍總參謀長... 市川部隊... イーデン... 渭南... 犬養健... 犬養内閣... 威震... 井上電々總裁... 井上支那方面艦隊參謀長... 井上電々總裁... イラワチ河... 伊豫... 蘇良... イルクルツク... イロイロ... 印花税... 陰山... 股同... インノケンチエフ造船所... ヲイクトリア州... ヲイシール政府...

ウイシンスキー... ウイリアムス... ウエーク島... ウェリントン(ニュージーランド)... ウオズネセンスキー... ウオルフラム... ウオロシエフ... ウオロチヤエフカ... ウインソン案... 宇垣外相... 宇垣・クレギー會談... 宇學忠... 宇賀部隊... ウクライナ... 宇佐美總領事... ウスチクト... ウスチノフ... 吳淞鐵路... 内田廈門總領事... 鬱江...

鬱林... 子品卿... ウフア... 子右任... ウラル... ウラル・クズバス綜合工業基... ウランウデ... 雲王... 運城... 雲南省... 雲南水泥廠... 雲南造紙廠... 雲南大學... 雲南鐵路... 雲南ビルマ鐵路... 雲陽... 英伊協定... 營山... 永新... 營昌...

エ

榮城... 英蔣貿易委員會... 永州... 永修... 永淳... 永綏... 永綏號... 永川... 英ソ交渉... 英德... 永平... 英米通商協定... 永利化學工業公司... 衛立煌... 益華... エグルストン... 益陽... エスカレーター條項... エストニア... エチオピア... 越界路... 粵漢鐵路... 粵漢鐵路... 永貞號...

オ

エフレエモフ... エミラウ島... 延安... 垣曲... 鹽池... 關錫山... 援將ルート... 鹽津... エンダベリー島... 歐亞航空公司... 及川支那方面艦隊司令長官... 大井川部隊... 王揖唐... 王蔭泰... 岡崎香港總領事... オークカ鐵道管理局長... 岡田内閣... 岡田部隊... 汪煥章... 王環縣城...

王宮揚... オークランド... 翁源... 王克敏... 大阪商船... 應山... 應城... 王修... 汪時澂... 王新元... 汪精衛... 王正廷... 太田一郎... 太田部隊... 大竹部隊...



應潭……………五九四  
 汪仲章……………四三三  
 王寵惠……………二〇〇、一三〇、一七〇、二〇七、  
 四八八  
 オデッサ……………六八八  
 大橋忠一……………三三三  
 大平大佐……………三八一  
 翁文瀾……………一三三、五八四  
 歐米派……………二七、三五五  
 汪漫雲……………六七、七七  
 大村部隊……………三三八  
 王明(陳紹馮)……………六〇九  
 オリツサ州(インド)……………二七、二九  
 オルコフスキー……………四三三  
 オルスタ……………三三三  
 オールドス……………四三三  
 オイルマン……………四三三  
 横濱城……………三三三  
 オレルスキー大使……………三八八  
 溫江……………五八九  
 恩施……………五八九、五九八  
 温州……………三三五、三四〇、三五二、三五七、  
 四二二、四二二  
 温州灣……………三三九  
 溫世珍……………四二六  
 溫宗堯……………五七、五九、六七、七、七、八、  
 八、二、九四

カ

河相外務省情報部長……………四八八、四二一  
 カイ大使……………三七六、三六二、三六四、四〇九、  
 四三八  
 華亞聯合大學醫學院……………一四〇  
 雅安……………五九八  
 夏威……………三三三、三五三  
 海運中央統制輸送組合……………四八七  
 開遠……………四四三、五九〇  
 回教……………三二五、三六三、三九二、三三〇、  
 三三三、三三三  
 海關報告……………一五五  
 海軍測江部隊……………五  
 海軍部……………七六、七七  
 崖縣……………三四六  
 崖縣城……………三三〇  
 海口……………三三〇  
 外交委員會……………七六  
 海杭鐵路……………五八八  
 開口店……………五八八  
 外交部特別委員會……………一三七  
 會昌……………五九一  
 海州……………三三〇、三六八、三六八、  
 五八六、五九一

海東港……………三三三  
 海東江……………三三三  
 海南鐵路……………五八八  
 海南島……………二五八、三三九、三三〇、三五五、  
 三六八、三三〇、三五五、三七七、  
 三六八、三三二、四一五、四四〇、  
 五五五

海籌號……………三三七  
 開封……………三三三、三四六、五六三  
 開封綏靖主任……………七七、一〇三  
 開平……………五八八  
 海門……………三四〇  
 海門島……………三五七、三五九、四二二  
 開深炭礦……………四八〇  
 會理……………五九八  
 界嶺……………三二七、三三〇  
 海和……………一〇三

外匯基金管理委員會……………五八〇  
 外匯基金管理委員會章程……………九六、九八  
 ガウス……………三三三、三四〇、三四六、  
 三四六  
 ガウラー北海稅關長……………三六二  
 華英銀行司……………三三三  
 花烟山……………三三八  
 何應欽……………二〇〇、二二八、二二〇、三三、  
 一四九、三三三、三六八

下花園炭田……………五五一

科學研究助理……………一七〇  
 カガノヴィツチ……………二六八、二七六  
 カガノヴィツチ外國貿易人民  
 委員代理……………三三三、六六六  
 下關……………五九六  
 夏奇峰……………七六  
 夏恭……………三三三、三五三  
 華僑……………二六〇、一八二、一八四、一八五、一八九、  
 一〇〇、一〇一、一〇二  
 華僑投資國內事業獎勵辦法……………一四五  
 河曲……………三三三、三四三  
 鶴崗……………三四七  
 岳口鎮……………三三〇  
 カクザール黨……………三三一  
 霍山……………三二七、三三八  
 礪山……………三六〇  
 鄂州……………三五七、四二〇  
 鄂城……………三三〇  
 岳州……………三二一、三三五、三三七、三四〇、三三三  
 角石……………三三三  
 郭泰祺……………九一  
 岳陽……………三三七  
 角羊鎮……………五九八  
 影佐禎昭……………八三、三九五  
 何健……………一三三  
 花縣……………三三三

嘉興……………五八八  
 華興券……………五八二  
 華興商業銀行……………五八二  
 河興離濕……………五八二  
 カザクスタン……………六〇〇、六二二  
 カザク共和国……………三九二、六三三  
 風見章……………二九二、二九四、四三三、四六四  
 下川島……………三三九  
 夏宗德……………九六、九八  
 片野部隊……………三三三  
 片山部隊……………三三三  
 河池……………五九七  
 カイチン……………二四三、二四四  
 華中亞鉛鐵板指定商組合……………五七一  
 華中鹽業股份有限公司……………四七九、  
 四八〇、五八六、五八八  
 何柱國……………三三三、三三三、三六〇  
 華中鐵業會社……………三三三、三三三、三六〇  
 華中鐵業股份有限公司……………四八〇、  
 五五四、五八四  
 華中蠶絲股份有限公司……………四八〇、  
 五八五、五八七  
 華中水産股份有限公司……………四八〇、  
 五八五、五八八  
 華中水電股份有限公司……………四八〇、  
 五八四、五八六

華中線機、線機加工品輸入組  
 合……………五七一  
 華中鐵道會社……………五七一  
 華中鐵道股份有限公司……………五六六  
 華中鐵道輸入業者組合……………五七一  
 華中鐵道股份有限公司……………四八〇、  
 五八六、五八八  
 華中電氣會社……………五五  
 華中都市公共汽車股份有限公司……………四八〇、  
 五八五、五八八  
 華中電氣通信股份有限公司……………四七九、  
 五八六、五八七  
 華中輪船股份有限公司……………五八六、  
 五八九  
 合作社運動……………一〇一、一三三  
 合作社修正辦法……………一四三  
 碓石灣……………三五九  
 葛家鎮……………三三〇  
 嘉定……………五八七、五九八  
 嘉定絲織廠……………五八七  
 嘉定電燈公司……………五八六  
 何庭流……………七七  
 加藤部隊……………三二八、三三一、三三三  
 加藤青島總領事……………三二八、四一五  
 カトル……………一八七、三五二  
 金井最高顧問……………五八  
 カナダ……………二九、二四五、二五九、二六二、五三三

金谷憲兵隊長……………四二八  
 河南作戰……………三六〇  
 河南省……………二六、三八、三四、三四、三八、  
 五〇四、五〇七、五〇九  
 何佩瑛……………七二  
 華美晚報……………四二  
 カフターノフ……………三六九  
 何炳賢……………九九  
 嘉德……………三五七  
 華寶炭礦……………五九八  
 華北鹽業股份有限公司……………四七九、  
 五八六、五八八、五九〇、五九二  
 華北交通會社……………四八四、五八六、五八七、  
 五八八、五八八、五八八、五八八  
 河北省……………三四、三六八、五〇五、五〇七、  
 五〇九、五〇九、五〇九、六二二  
 河北省銀行券……………五七五  
 華北綏靖軍……………一〇三、一〇四  
 華北綏靖軍總司令……………七七  
 華北政務委員會……………七四、七六、一〇三、  
 一〇四、五〇五、五〇六  
 華北政務委員會組織條例……………七四、  
 一〇三  
 華北石炭販賣股份有限公司……………五五九、五六一  
 華北電業股份有限公司……………五五七、五六一

華北電信電話會社……………四三三、四六六、  
 四八四、五八六、五八七  
 華北礪土鐵業股份有限公司……………四三三、  
 四三三、五八八  
 華北棉花改進會……………五八六  
 峨嵋……………三五七  
 カムチャツカ……………六三三  
 カムラン灣……………一八四、一八五、一九三、  
 一九三  
 カメネフ……………三三三  
 賀羅祖……………一三七  
 加來市……………三三三  
 カラガンダ……………三三三、六三三  
 カラガンダ炭田……………六三三  
 賀龍……………一三三  
 カリ特使……………三三三  
 カリニン……………二六四、二六五、二六六、  
 二六七  
 嘉陵江……………五八六、五八九  
 カルカタ……………三三〇、三三〇  
 カルカタイ……………六二二、六三三  
 ガレット……………三三〇  
 カレリア……………二八四、二八五、二八六、  
 三三〇  
 川口部隊……………三三〇  
 川崎部隊……………三三〇  
 河田藏相……………三三三  
 川俣部隊……………三三三  
 還安……………五九八  
 感恩……………三三七







京包鐵路	一一〇、三三、四八、五五〇
漢口	五九四
京古鐵路	四八六、五八三
京滬鐵路	六〇一
經濟委員會	七六
經濟攪亂行爲取締法	五七五
經濟建設委員會	六二
經濟新體制確立要綱	五八四
經濟部工礦調整處	五八四、五八八
經濟部資源委員會	五八五、五九三
經濟部揚子江水利委員會	六〇一
瓊山	三三〇
京山	三三一
京山鐵路	四八六、五八八、五八三
ケーシー	一九四、三三三、三三四、三八、二四〇、四四五、四四六
惠州	三三三、三三一、三六一
桂州	六〇四
京湘鐵路	六〇三
啓洋洋灰公司	五八七
京津鐵路	三五
京綏鐵路	三三五
警政部	七六、七七
ケン	一五九、六〇
惠通橋	三五八、四四六
景德鎮	五六六
桂平	六〇〇
興亞院	二五三、二五五、二七九、二九、二九〇
興亞院中華聯絡部	五四四
興亞會	一一三
興亞建國運動	一一三、二五
興安	三三三、三五
高安	五八九
江安	五九七
興安	五九〇、六〇三
廣安	五八九
顧維鈞	三九、四一
江一平	四一
江陰	三三
項英	六六
コウラード	六二
膠澳電氣股份有限公司	五七七
興化	一〇九、三四、三四六
興化	三三三、三四〇、三五
廣海寒	三六一、三六二
古開部隊	三三三
黃華村	三三三
興化灣	三五七、三九、四三、四三
吳鶴齡	五六
功果橋	三五八、三五九、四六
孝感	三八
廣漢	五八九
高冠吾	三
五旗營	六〇四
公義明	五五〇
簡錫務公司	五九一
廣九鐵路	三三三、三五七、六〇
功峽	三五九
航空委員會	一四五、五九二
國境畫定委員會	三九一
國共內訌	一〇一
國土設定要綱	五三四
國立師範學院	一一三、一三五
國際聯盟	一一、三五、三六五、三六九、三七、三五、三九四、三九九、四〇〇、四〇一、四〇九
國際聯盟極東問題諮問委員會	三六九
國防最高委員會	一三〇、一三三、一三六
國防最高會議	一三〇
國民救濟會	六〇三
國民教育實施要綱	一三三
國民參政會	三三七
國民政府	一三、三九、四〇、七、二九、二九二、二九三、三四七、三六六、四〇三、四一六、四一四、四一〇、四五一、四五二、四五六
國民政府軍事委員會	七六
國民政府參謀本部	七六
國民政府政綱	七四、九二
國民政府組織法	七四、八二

國民政府中央農業試驗所	一〇一
國民政府糧食管理委員會	一〇一
國民大會	六、九、九四、一三、二四、二九
國民黨	七
國民黨軍	六一
國民黨左派	一三三
國民黨第六次全國代表大會	六
國民黨臨時全國代表大會	五八三
國民同盟	四六三
國民新聞社(上海)	四三一
國語	五五一
黑龍江省	三九〇
興業	三九〇
工業合作社協會	五九七
興業銀行	五八八
工業獎勵法	五七三
工業同業會法	一四五
吳繼雲	一四六
顧維鈞	九
廣漢	七
衡桂鐵路	五八九
興建	一四七
膠縣	一四
孔憲鑑	五九
廣元	七
五權制度	五九
五原	八、三三、三四三、三四四
五元作戰	五六、五五
湖口	三三、三四、三五
五々憲法	九五、二六
江亢虎	七七、七六
古鰲頭	四二
九江	六〇〇
合江	五八九
工業獎勵助暫行條例	一四五
狗虎山	三四六
工礦調整處	一四五
興國	五九〇
鄉抗敵後援會	六二
工礦調整委員會	五八四
滬杭甬鐵道	三四五、六〇一
廣濟	三二七、三三〇
五寨	三三
膠濟鐵路	五八三、六〇一
小坂戰車隊	三二
衡山	六〇三
鄉參議會	六二
固始	三六
考試院	三六、六
鄉自衛軍	六三
黃沙舖	五九七
湖州	五三
光州	三八
抗州	三三四、三五、三四五、五六、五六六、五七、五六八
梧州	五八三
杭州灣	三三、三五、三五七
廣州灣	一八四、一八五、一八七、三九三、三九四、四三、五九七、六〇〇
顧祝同	一三、三三、三四五、三四六、三四七
廣昌	五九〇
公勝號	三三
吳城	三三一
項城	三六〇
孔祥熙	一三〇、一三三
香爾路	三六、三六三、四七
香上銀行	一八二、四五、五六〇
工商部	七六、七七
五色旗	五
コソギン	二六七
江津	五八六、五八九、五九三
コソイキン	三六九
ゴスプラン	六〇
コスム駐支佛大使	四一、四四四
江西省	三三、三九、三三三、三四、三三三、三三八、三四六、三五二、四七九
滬西越界路	五五二、五五三、五五四
鄉政務委員會	四一八
黃石港	三三〇
考選委員會	七六
合川	五八九、五九三
抗戰建國綱領	一三三、三六、五六四
抗戰建國實施辦法	五八四
合川酒精廠	五九三
五全大會	六
江蘇警政學院	一三九
江蘇學院	一三九
江蘇省	三四、三三〇、三三八、三四六、五三三、五三三、五三四
胡宗南	一三、三三
高宗武	七、二七
吳村墟	五九七
光大瓷器廠	五六六
興中公司	三六三、四八〇、五五〇、五五六、五六一
交趾支那	一八九
顧忠琛	七七
五中全會	一〇〇
江朝宗	五一
鄉鎮中心學校	一三三
廣通	五九〇
交通銀行	一五五、四五一
交通銀行券	五七五
交通工業製造設計委員會	四四
交通大學	一五五、六三
交通部	七六、七七







瀘州 五五〇  
 四川大學 一三七  
 四川省 二九、一四七、三四、三五、三九、  
 三四三、三四四、四五、四七九、  
 五五八、五八三、五八五  
 四川伐木公司 五八七  
 資中 五八九、五九三、五九八  
 資中精糖廠 五八七、五九三  
 七中全會 二六、二七、二八、二九  
 實業總署 七六、一〇四、一〇五  
 梓潼 五九六  
 シドニー 一六六、二三三、三三六、三三九、  
 二四七、二五一、二五六  
 シドニー・モーニング・ヘラ 二四七  
 ルド 二四七  
 朱德 一六、一三三  
 兒童義務隨習班 一九九  
 支那派遣軍總司令部報道部 四四四  
 支那方面艦隊報道部 四四四  
 思南 五八六、六〇〇  
 四排坪 五九七  
 柴田部隊 三三三  
 シーハン 三三五  
 ジブソンチユタイ 三三五  
 シベリア鐵道 六二、六三  
 司法院 七四、六、七  
 司法院行政法院長 六

司法行政部 七六、七七  
 烏田支那方面艦隊司令長官 三三三  
 烏田部隊 三四五  
 志摩部隊 三三一  
 清水北支方面海軍最高指揮官 一〇三  
 シムラ 二九  
 ジャヴァ銀行 四三、五〇  
 ジャヴァ銀行 一〇九、五九  
 社會大眾黨 四三  
 社會部 七六、七七  
 沙魚浦 三六  
 善溪 三九、三二  
 沙市 四〇、五七  
 シヤシニコフ 二六、二九  
 シヤフーリン 二六  
 ジャマイカ 五八  
 沙面 四〇  
 射陽河 三四〇、三五七  
 札賓諾爾 六  
 上海 五〇、二六、三三、三三、三八、  
 三三三、四八、四一〇、四三〇、  
 四二、四三、四七、五六、  
 五七、五八、五九、五九、  
 五九四、六七、六八  
 上海共同租界 四一六

上海共同租界工部局 四七、四八  
 上海恒産股份有限公司 四八〇、  
 五五五、五五八  
 上海市政公署 五三  
 上海市政督辦 五三  
 上海石炭聯合會 五七一  
 上海中立地帶設置案 三七七  
 上海特別市 五三  
 上海特別市政府 四一五、四一九、四二〇、  
 四三三、四三三、四三三、四三三、  
 四三六  
 上海內河輪船股份有限公司 四六  
 上海日本工業藥品同業組合 四八〇、  
 五八四、五八七、五八九  
 上海南市 五七  
 上海南市自治委員會 四一五、四一六  
 上海佛租界 四一五、四一七、四一八  
 上海硫磺廠 五八五  
 秀英砲臺 三三〇  
 周思來 一三三、一三三、三八八、六三  
 朱家驊 一七、六二四  
 周家集 三三三  
 從化 三三三、三三三、三三三、三三三、  
 周化人 六七、七七  
 宿松 三二七  
 蕭州 四一〇

肅叔萱 七七、一〇三  
 重慶 五八〇、一八四、一八七、一〇三、  
 二四八、二九、三〇、三三、  
 三六、三三、三九、三三、  
 三七、三八、三九、三三、  
 三四、三四三、三四八、三四九、  
 三五、三五三、三五八、三五九、  
 三八九、四二、四三、四三、  
 四三六、四四四、四五一、四九九、  
 五〇〇、五五五、五七七、五八五、  
 五八六、五八八、五九三、五九四、  
 五九五、五九八、六〇〇、六〇一、  
 六〇三、六〇四  
 重慶工業職業學校 二三八  
 重慶國民黨 六五  
 重慶植物油廠 五九三  
 重慶尚船專科學校 二七  
 重慶水泥廠 五八九  
 重慶政權 四、五六、七、九、一三、  
 一三〇、一四八、四〇五、四一六  
 重慶電廠 五九三  
 重慶兵工廠 五九三  
 重慶鍊銅廠 五九三  
 珠江 三三三、三三五、三三七、三三八、三四〇、  
 三六八、三六〇、四一〇、四二二、  
 四二五  
 珠江開放 七

珠江部隊 三五六  
 施渝公路 五八九  
 周作人 一〇四  
 梁山浦 三五一  
 舟山列島 三三五、三四〇、三六〇、五八  
 蕭山 三四五  
 株州 五八三、五九〇、五九二、六〇二、六〇三  
 株州工廠 六〇二  
 朱紹良 一三三  
 修水 三三三、三三六  
 修正農工商會條例 一四四  
 修正民衆學校規定 一三三  
 朱深 五七、五九、六七、七、七八  
 修仁 五九七  
 首村 三三三  
 周村鎮 三四六  
 集團安全保障 三六三、三六四、三七一、  
 三七七  
 出口貨物精滙領取滙價差額辦  
 法 一四四  
 朱德 二一、二二、三四  
 ジョーニフ參事官 三三  
 集寧 三五  
 肅寧 三五  
 周佛海 六三、六四、六六、七、七七、  
 八三、九六、九九、四八五、五七  
 五八〇

朱模 六七、七七  
 壽陽 五八  
 朱履蘇 七  
 周際庠 八三  
 遵化 五九  
 春季攻勢 八  
 遵義 五八六、五九六  
 純正國民黨 六六五、一五、一三三  
 酒陽 三三〇  
 資陽 五八九、五九三、五九八  
 詔安 三三五、三四〇  
 詔安 四二  
 祥雲 五九〇、五九一  
 叙永 五九八  
 昭化 五九八  
 蔣介石 五、六一、五九、六〇、六三、  
 一六、一七、二二、三三、  
 一三五、一三七、一三三、一四九、  
 二九、二九二、二九四、三〇一、  
 三二、三二六、三二七、三三、  
 三三三、三三六、三三九、三三三、  
 三四三、三四三、三四七、三四八、  
 三四三、三四四、三四六、三四八、  
 三四五、三四四、四五一、四六一、  
 四八五、四九六、四九七、四九八、  
 五〇〇、五二二、五三六、五九四、  
 五九〇

徐海道 六〇、六一、六三、六四、  
 六六  
 商會法 九  
 湘雅學院 一四六  
 松花江 一三九  
 徐家匯 三九〇  
 松坎 四二〇  
 詔關 五九六  
 詔關公路 五九八  
 勳好保衛委員會 六二二  
 鐘毅 三四八  
 諸暨 六〇三  
 初級實用職業學校 一三六  
 章邱 五九八、五九四  
 湘鄉 五九八  
 商業同業公會 一四六  
 正金銀行 二〇九、五九  
 湘黔公路 五九〇、五九七  
 湘黔鐵路 五九〇、六〇四  
 將軍廟 三九一  
 食糧管理局 一四五  
 湘桂航線 六〇〇、六〇一  
 湘桂公路 五九〇、五九七  
 湘桂鐵路 三九四、四七、四五一、五九〇、  
 五九四、五九七、六〇二、六〇六、  
 五三  
 松滬 五三

紹興 三三五  
 湘江 三四〇  
 小姑山 五六六  
 湘江實業銀行 四三  
 叙昆公路 六〇〇  
 叙昆鐵路 四七、一五三、四七、四五一、  
 六〇四  
 上蔡 三六〇  
 焦作 五九四、五六一  
 焦作工學院 一三九  
 焦作炭坑 三六三  
 鐘山 五八六  
 邵式軍 九九  
 韶州 九一、五九〇、五九四  
 徐州 五、二〇、二六、四七、一八六、三六、  
 三七、三五、三九、三三〇、  
 四三、五九八、六〇〇、六〇一、  
 六〇四  
 徐州會戰 五  
 常州 五五三  
 商城 三二八  
 ジョージ・タウン 五八〇  
 湘西區 五九〇  
 蔣政權 四、五、六、四四九、四五〇  
 襄西作戰 八  
 諸青來 七、七七  
 省選 三〇〇



如泉……………五五三  
 小村店……………三三三  
 正大鐵路……………三五、三四、三三、六二  
 湘潭……………五九〇、五九一  
 小池口……………三二九  
 消鑛工廠……………六〇三  
 昭通……………五九六、五九八  
 正定……………〇五  
 徐庭搖……………三四五  
 常德……………五九〇、五九八  
 襄東作戰……………八  
 焦土政策……………五三、五四  
 焦土戰術……………五九  
 汝南……………五六〇  
 湘南區……………五六〇  
 正壽號……………三七七  
 鄭浦……………五九〇、五九一  
 商務印書館……………一〇七  
 徐謨……………二四八  
 松門……………三三三  
 條約口岸……………一四〇  
 叙野工廠……………六〇三  
 上猶……………五九〇、五九一  
 初陽……………六三三  
 邵陽……………五八七、五八八、五九〇、五九一  
 襄陽……………三三三、三三三、三四八、三四九、三五九  
 昭和製鋼所……………三八、四八〇

ジョンズ米商務長官……………三三七、三四六  
 ジョーンズ融資局長官……………四五一、四五〇  
 ジョーンズ大使……………二四六、三六六、四一一  
 ジョーンズ島……………五三三  
 處理異黨問題實施方案……………一四、  
 六六  
 邵力子……………二五、三三七  
 徐良……………七七、八三  
 思樂……………五九〇、五九七  
 自流井永利硫酸廠……………五九三  
 自流井精鹽廠……………五九七  
 思練城……………五九七  
 新安鎮……………三三〇  
 新化……………五九〇、五九一  
 新開鐵路……………五六三  
 新華日報……………六四四  
 新華報……………五八六  
 シンガポール……………一六六、一七三、一八〇、  
 一八一、一八五、一九〇、一九三、  
 一九四、一九五、一九七、二〇一、  
 二〇二、二〇三、二二一、二二八、  
 二三五、二六六、二七七、二四〇、  
 二四五、二四八、二五〇、二五二、  
 二六一、二七二、二七四、二七五、  
 二七八、二九一、二九三、二九三、  
 二九三、二九三  
 震寰紗廠……………五八五

成吉思汗紀元……………五六  
 新疆省……………一四  
 辰谿……………五九〇、五九一  
 沁縣……………三三四  
 新憲法草案……………九五  
 深圳……………三六一、三六四、四一五  
 新鄉……………五六三  
 新黃河……………三六〇、三四五  
 進口物品申請購買外匯規則……………一四  
 晉察冀邊區政府……………六一、六三  
 新四軍……………一〇、一一、一〇三、三九三、  
 六三六、六六七  
 新市……………三六  
 新塘河……………三三三  
 新塘河……………三三五  
 仁勝號……………三七七  
 新春……………三三〇  
 新津……………五八九、五九一  
 新津港……………三三四  
 新水……………三三〇  
 親ソ派……………六一七  
 新泰……………五八四、五八九  
 新中公司……………五八五  
 新店……………三三二  
 新甸舖……………三三三  
 新都……………五八九、五九一

新塘……………三三一  
 岑德廣……………三七、七七  
 親獨派……………一七、二七、三六、  
 ジンナー……………二五、二八、二九、三〇、  
 三三  
 新南群島……………二四七、三六、三七、  
 三九六  
 晉南作戰……………三三五  
 眞如……………五六六、五六七  
 眞如送信所……………五六七  
 新寧鐵路……………五六二  
 秦皇島……………五八八、五九〇  
 新繁……………五八九  
 新豐……………九一、五九〇  
 申報……………四二  
 晉北……………五五、五五六  
 晉北自治政府……………四二  
 津浦鐵路……………四、五、五三、三六、三四、  
 三五、三三〇、三六〇、四八六、  
 四八七、四八八、五八三、五八八、  
 六〇一  
 新法幣……………五七七、五八〇、五八一、五八二  
 新法幣……………五三二、一一二、一三三、一四三  
 新民學校……………一〇八  
 新民教育館……………一〇七  
 新民主主義……………六五

人民武裝自衛隊……………六二二  
 服務委員會……………七六、七七  
 信陽……………八、三六、三八、三三、三七、  
 三四八、三四九、六〇一

ス

綏遠……………三四、三三、三六、五三、五七、  
 綏遠平市官錢局……………五七三  
 瑞金……………六〇九、六三三  
 隨縣……………三四八  
 水口關……………三五〇  
 水口山……………四七九  
 水產實業合作社……………四九  
 瑞昌……………三二八、三三〇、  
 三三〇  
 遂州……………五九〇  
 綏靖軍官學校……………一〇三  
 水東……………三六一、三六二  
 遂寧……………三三九、五九八、五九八  
 綏靖號……………三八  
 遂平……………三六〇  
 水利委員會……………七六、七七  
 綏遠……………三五〇、五九七、六三三  
 スヴエリヨフ……………二六八、二七九  
 崇義……………五九一  
 崇善號……………三七七  
 崇陽……………三二一、三七七

末次部隊……………三九  
 末永部隊……………三八  
 須賀彦次郎……………三八  
 スカラブ號……………三八  
 杉村大使……………一八四、三九五  
 杉山元……………三三四、三五五、四六五  
 錫……………四四八、四四九、四五〇  
 薄田部隊……………三四六  
 鈴木貞一……………二九九、三〇五  
 鈴木部隊……………三三三、三三三  
 スターデイ……………二二七  
 スターマー公使……………四四一、四四二  
 スターリン……………二六六、二六八、二六九、  
 二七六、二七九、二八〇、二八六、  
 二八七、二九〇、二九六  
 スタートリンスク……………六二、六三  
 スタール……………四二  
 スタンレー商相……………三七九  
 スチムソン……………三九、三七二、四〇五  
 スチュアート……………二四三、四七、二四八  
 ストリート……………二二七、二四〇  
 スパスカ……………六九  
 スペア中佐……………三八二  
 スペイン……………三六四、三六〇  
 スペンダー……………二四、四三、四四、二四八  
 スマトラ……………四九、五〇、五二  
 スミス長官……………三八一

スミス香港民政長官……………四六、四七  
 澄田部隊……………三三三  
 スミルノフ……………二六八  
 スメターニン大使……………三八七  
 油頭……………三三〇、三三七、三四四、三五五、  
 三四〇、三五三、三五八、四〇九、  
 四三三  
 スワンスキー……………二二六  
 寸金橋……………五九七  
 靖安……………三三七  
 西安……………一四七、三三八、三九三、三九六、三九八、  
 四〇〇、五八五、五八六、五八六、  
 五九九、六一一  
 西安電廠……………五九二  
 青海……………一三四  
 清化鎮……………三三四  
 西漢公路……………五九四  
 盛京號……………三六四  
 井陘炭礦……………四〇、五八八、五六一  
 井陘煤鐵股份有限公司……………五八六  
 西江……………三六一、三六二  
 西康省……………二九、四七九、四八六  
 西沙群島……………一八四、一八五、三九四  
 星子……………三三八、三九三、三〇

政治訓練部……………七六、七七  
 西碧山……………三三〇  
 西昌……………五九八  
 齊燮元……………六六、七、七、一〇三  
 西新集……………三三三  
 清水河……………三三三  
 靖西……………四四四  
 青天白日旗……………五三、四七、四八  
 青天白日滿地紅旗……………七、八〇、八一  
 成都……………一四七、一八六、三三六、三三九、三三九、  
 三九九、四四四、五八五、五八八、  
 五九九、五九九、六〇四  
 成都電燈公司……………五六六  
 西南運輸管理局……………一四六  
 西南經濟建設委員會……………五八四  
 西南經濟建設研究會……………一四四、五八四、  
 五八五  
 西南行營……………五九二  
 西南五省……………一三二  
 西南公路運輸管理局……………五九八、五九九  
 西南ルート……………九、四四七  
 西南聯合大學……………一三三、一三五、一三七  
 整備貨幣暫行辦法……………九六、九六  
 西浦……………四三  
 西北公路運輸管理局……………一四六、五九六  
 西北行營……………一三二  
 西北工學院……………一三七、一三九



西北航空公司……………三六九  
 西北師範學院……………一三三、一三五  
 西北特別行政區……………一三三、一三九  
 西北農學院……………一三七、一三九  
 西北農林專科學校……………一三九  
 西北ルード……………三九二、四〇三  
 西北聯合大學……………一三五  
 西北聯合大學工學院……………一三九  
 成渝公路……………五八九、五九〇  
 成渝鐵路……………五八九、六〇四  
 青島……………三三七、三三七、五九〇  
 正陽……………三六〇  
 青島作戰……………三六〇  
 政友會久原派……………四六三  
 政友會半島派……………四六三  
 清湖……………三六八  
 西蘭公路……………五九四  
 整理貨幣暫行辦法……………五九〇  
 齊魯大學……………一三九  
 石灰嘴……………三三七  
 石灰嘴……………三三七  
 石角……………三三〇  
 浙河市……………三三三  
 石家莊……………三三三  
 浙贛鐵路……………三三一、三三五、三六六、三四五、  
 三五二、三五三、三五八、三五九、  
 五九四、六〇二

石景山製鐵所……………五五〇、五六一、五六三  
 石康……………五九七  
 浙江省……………四、三四、三五、三八、三四六、  
 三五二、三五三、三五九、五五三、  
 五五三、五五四  
 石山……………三五八  
 赤色ルード……………一二二  
 赤水河……………五九八  
 石島……………三五七  
 石德鐵路……………五八八、五六三  
 石壁……………三六六、三五九  
 石寶山……………三三三  
 石門……………一〇〇、五六三  
 石友三……………六一  
 薛岳……………二二、二七、二八、三三、三五、  
 三六、三五  
 ゼットランド……………二九  
 セーゲン……………二六八  
 セーナ……………一七三  
 セブ……………一六六  
 セムリヤーチカ……………二六七  
 ゼーヤ……………二六四  
 セラム……………四九二  
 セルゲーエフ……………二六八、二七八  
 セレベス……………四九二、五〇三、五〇六  
 宣威……………五九八、六〇四  
 陝甘寧赤色地區……………一〇四

陝甘寧邊區政府……………六三、六三、六四、  
 六五  
 川鄂公路……………五九八  
 川黔公路……………五九八  
 戰區或接近戰區各項事業制限  
 辦法……………一四六  
 全縣……………六〇、六〇三  
 遷江……………五九七  
 川康建設期成會……………一三三  
 川康建設視察團……………一三三  
 川康公路……………五九八  
 全國經濟委員會……………五九八  
 川西區……………五九八  
 陝西省……………三六、三九、三九、四〇、四七  
 川康公路……………五九八、五九五、五九  
 戰時金融委員會……………一四三  
 戰時健全中央金融機構辦法要  
 綱……………一四三  
 戰時超過利得稅……………一四三  
 戰時民衆失學補習教育推行委  
 員會……………一三五  
 泉州……………三三五、四〇〇、五二、三五七、四二、四二  
 全州……………五九七  
 先修制度……………一三五、一三七  
 詮叙部……………七六、七六  
 川湘公路……………五九八  
 錢大塊……………六、九、五八〇

川中區……………五八九  
 戰地黨政委員會……………一三三、一三三、  
 五九八  
 川滇公路……………五九八  
 川滇西路……………五九八  
 川滇中路……………五九八  
 宣傳部……………七六、七七  
 全堂……………五八九  
 川東區……………五八九  
 錢塘江……………三三五、三四五  
 仙桃鎮……………三三七  
 油尾……………三五五、三五三、三五七、三九九、四二二  
 宣撫班……………一一一  
 陝北公學……………三六八  
 全面和平……………三六八

ソウガリニ……………二七、六三、六三、六四、  
 六五  
 添田部隊……………三二八  
 宋介……………一一三  
 租界返還……………六〇、八、九〇  
 雙河鎮……………三三三  
 蘇嘉鐵路……………五八八  
 息烽……………五九八  
 宗慶……………五九八  
 宋慶齡……………一三七、一三八

ソ

蒼梧……………五九三  
 ソコロフ……………二六九  
 ソサイエテイ群島……………二六二  
 象山浦……………四二二  
 蘇錫文……………三三  
 ソシヤル・セキユリテイ法……………二五三  
 二五三  
 賊式殺……………八四、九〇  
 ソ交通商條約……………三六六、三六七、三六九  
 六七  
 ソ支不可侵條約……………三六三、三六四、六二〇  
 滄州……………四  
 蘇州……………五六八  
 蘇州河……………四七、四三三  
 ソ蔣パーター協定……………三九三  
 ソ蔣秘密協定……………三八八、三八九  
 ソ支武器協定……………四四八  
 宋子文……………二一、八五、四八、四五、五五  
 ソ蔣貿易信用借款……………一五三  
 ソ蔣軍事協定……………三八八  
 ソ蔣信用借款……………一五三  
 ソ蔣貿易借款……………一五三  
 增城……………三二、三三、三八  
 ソースニン……………二六八  
 曾醒……………七一  
 蘇浙皖綏靖軍……………一〇三  
 蘇浙皖三省綏靖軍事總司令部

楚泰號……………三七  
 蘇體仁……………七  
 曾仲鳴……………六三、六四、七、二六  
 宋哲元……………三九、六一  
 ソトイ……………二六、二六二  
 掃蕩報……………五六  
 ソートフ……………二六八  
 園田部隊……………三九、三三〇  
 象鼻山……………五五四  
 宋美齡……………一五  
 ソ芬戰爭……………三五  
 孫文……………四〇六  
 楚雄……………五九〇  
 東陽……………三三、三四八  
 曾養甫……………三三  
 楚有號……………三七  
 雙流……………五八九、五九八  
 ソロモン群島……………三三七  
 孫蔚如……………三三六  
 孫科……………二九、二五、二六、二七、二八、  
 三八、三九、三九、六七  
 孫家埠……………五六八  
 孫總理……………六四、六九  
 孫殿英……………三四  
 孫桐萱……………三六〇  
 孫連中……………三六〇

大亞細亞主義……………六五、六六、二四  
 戴高盧……………九  
 戴英夫……………六七、七七  
 大英夜報……………四二  
 大岡山……………五六六  
 大角頭島……………三三三  
 大倉機器公司……………五八五  
 太原……………五、一〇、五六三  
 太原炭田……………四〇、四八、四九、五六一  
 太湖……………三五、三三〇  
 大庚……………五九一  
 大溝河……………一〇九  
 太湖縣城……………三七  
 大洪山……………三三  
 大行山脈……………八、三七、三四六  
 第五次國民參政會議……………五六四  
 大公職業學校……………一三六  
 大公報……………六四、九四、五六六  
 大高峰……………三七  
 岱山島……………三三五  
 第三黨……………一三三  
 大上海瓦斯股份有限公司……………四八〇  
 タイシエト……………五六五、五六八  
 六三、六三、六四

大寺坪……………三三六  
 第四戰區……………四四四  
 第十八回共產黨大會……………二六六  
 第十八集團軍……………一一、一〇四  
 臺州灣……………三五三  
 大成……………三五八  
 岱青山……………三五三  
 大青山炭田……………四七、五五一  
 大星市……………三四五  
 大竹……………五八九、五九八  
 タイディングスマクダフイ獨  
 立法……………一五八、五五三  
 戴傳賢……………一三三、一三七、一三八  
 大天山……………三九  
 大同……………四、五三、一一、五六三  
 大東港建設局……………一五  
 大道主義……………三三  
 大道政府……………五一  
 大同炭田……………四、四〇、五五〇、五五一  
 大同炭礦株式會社……………五五、五五八、  
 五六一  
 第二期晉中作戰……………三五五  
 第二シベリア鐵道……………六三  
 第二十九軍……………三九八  
 第二次近衛內閣……………八、一〇、一三、一四、  
 一六  
 對日建設通牒……………三九四







長壽號 三六  
趙培鈞 一〇三  
張發奎 二七、三一、三六、四三、四七、  
三五三  
趙丕廉 二七  
龐炳勛 三四  
澄邁灣 三〇  
褚民誼 六七、六八、七〇、七二、七三、  
八三、九四、四〇  
朝陽 六三  
長樂街 三六  
長蘆鹽場 四七  
池潭村 三五  
チモシエンコ 二六、二七  
チモール 四三、五〇、五二、  
五七  
陳維遠 七  
鎮遠 五九  
陳介 二七、三〇、三九  
鎮海 三五、三五、三五  
鎮海作戰 三五  
陳果夫 一三、二八  
陳玉銘 五、七  
陳群 五七、五九、六六、六九、七二、七四、  
八三、九六、九八  
陳君慧 五八  
鎮江 五六  
陳公博 六三、七二、七三、八二、九四、  
一〇三

陳光甫 三六、三五  
沈鴻烈 六二  
陳濟成 七  
沈爾喬 七  
陳士碩 七七、九六、九八  
陳春圃 六七、七八、九九  
陳紹禹(王明) 一三、六九  
陳昌祖 一〇三  
陳誠 二二、二四、二六、二七、二八、  
一四九、三八、三四五、六四  
沈素民 九五、九八  
陳村水道 三六  
青島 九〇、三〇九、三六〇、  
四三、四一五、四三、四七、  
五四九、五五六、五六〇、五六三、  
五七一  
青島會談 五八、六七、六九、七〇  
青島埠頭株式會社 五七  
チンダ 六四  
陳鏡 二六  
鎮南 五九  
鎮南關 六、五三、三七、四九、五〇、  
三四、四一、五九、五九七、  
六三  
鎮寧 五九  
陳孚木 一三  
陳布雷 一七

陳立夫 二二、二七、三六  
陳錄外交部長 四七、四二

六五四

テウオシヤン 二六八  
デカノゾフ 二六四  
迪化 一三、三八  
デター提督 四三  
テケリ 三三  
鐵道部 七  
デニソフ 二七  
出淵勝次 二七  
デュイガン少將 二七  
寺内壽一 三三  
寺垣部隊 三九  
テリオキ 二八  
デリー(チモール) 二六  
デリー(インド) 三六、三七、三八、  
三九、三九  
露益 五九、五九  
耀越公路 四三、四四  
耀越鐵路 一八、三三、三三、三三、  
三六、四四、四四、四四、五〇  
田家屯 五八  
田家鎮 三〇  
瀋陽公路 五九  
瀋陽 五九  
天津 四、一〇、二二、三三、三三、三三、  
四三〇、四三一、四三一、四三一、  
四三四、四三三、五九六、五九六、  
五九三、五七一

天津交通銀行 四三  
天津租界封鎖 七  
天行行營 六五  
電白 三六、三六  
天保 五九  
天寶山 四七  
デンマーク 四九  
瀋陽公路 四七、四三、三三、  
三五、五六、五九〇、五九五、  
五九六、六〇六  
瀋陽鐵路 一〇、四七、三八、四一、  
六三、六四、六五

ト

東亞醫療機械組合 五七  
東亞會 一三  
東亞海運會社 四七、五六  
東亞危機說 二  
東亞共榮圈 一六、一七、一九、三九、  
一七六、一七七、一八七、一九〇、  
一九二、二〇八、二〇九、四五五、四五  
東亞俱樂部 一〇  
東亞同文書院 四〇  
東亞モノリ主義 四三  
東亞聯盟 一四、二五  
東亞聯盟中國同志會 二四

東安 一六、五九、六〇  
ドイツ軍事顧問團 三九  
都勻 五九  
ドウエズ大佐 一九  
ドウマン 三三  
杜運宇 五、五八  
湯思伯 三三、三三、三六〇  
唐河 三三、三三、三六〇  
東海 一〇三  
潼關 六〇  
銅官山 五六  
冬季攻勢 八、三五  
陶希聖 七、七、一〇  
唐縣 三三  
ドウケーリスキー 二六、二七  
德安 三、三九、三〇、三三、三三、  
三三  
ド・クー 一八七、一九一、三五、  
五三  
獨伊車事同盟 九、三四、三六、三九、  
四〇  
德王 五三、五六、五八、一〇  
德勝 五七  
獨將貿易信用借款 一五  
特設新路建設委員會 五五  
獨ソ通商協定 三六  
獨ソ不可侵條約 七、三五、三七

特別新路建設委員會 一四  
德陽 五九、五九  
鄧顯超 一五  
杜月笙 五八  
杜源 五九  
東江 三三  
董康 三  
東鄉 六〇  
東鄉大使 三六、三六、三九、三九、  
三六  
東郷・モロトフ會談 三六  
ド・ゴール 一七、一八、一八、  
二六、二六、三〇

同濟大學 一  
東山 四二  
銅山 三三、三三、四二  
獨山 五九  
斗山瀘 三三  
道士楸 三〇  
桐梓 五九  
渡支制限令 五六  
湯爾和 七、九  
陶錫三 一三  
同春 一〇  
塔城 三九  
東條陸相 二九、二九、三三、三五、  
四六、四六、六八

桐城 三二  
統稅 一四  
鄧祖禹 七  
東臺 五三  
土地章程 四三  
土地豪帳 四七  
桃冲 五六  
湯澄波 七七  
洞庭湖 三二、三二、三六、三六、  
三五  
ドナウ 三六  
瀋南 三九  
ドニス大佐 一三  
トニレサツ湖 一七  
ドネツ 六〇  
桐柏 三三、三三  
トハチエフスキー元帥 六九  
杜文濱 七七  
東邊道 四七、五七  
東邊道開發會社 四〇  
導報 四八  
同蒲鐵路 一〇、三四、三〇、  
四三  
富田健治 四三  
黨務相特別委員會 二七  
桐油 四七、四八  
東洋雲母會社 五三

六五五















マツクリイ 二四三  
 マツクリイ 二四〇  
 ムツクブライド 二四三  
 マツケシー少将 三三三  
 松島公使 三三三、三三三  
 松平貴族院議長 八  
 松田部隊 三九  
 松村憲 二九  
 松宮大使 一三、一三、一三、一三  
 松本俊 八三  
 マドラス 二七、二七  
 マニラ 一六、一六、一六、一六、一六、一六  
 磨盤山 三三  
 馬淵部隊 三三  
 馬淵軍報道部長 六五  
 マリタ参事官 三三  
 マルイシヨフ 二六、二六、二六  
 マルタン佛印軍司令官 一七、一七、一七、一七

萬家埠 三三  
 滿洲航空會社 四七  
 滿洲國濟南辦事處 四〇  
 滿洲國天津辦事處 四〇  
 滿洲中央銀行 三六、三六、三六  
 滿洲國北京通商代表部 四〇  
 滿洲糧穀會社 三六、三六  
 滿洲獨資條約 三九  
 滿洲獨資協定 三九  
 三浦憲兵隊長 三三、三三、三三  
 三浦上海總領事 三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 ミコヤン 一三、一三、一三、一三、一三、一三  
 未占領海關 一五、一五、一五  
 水井部隊 三九  
 密山 三九  
 ミチエリコフ 二六  
 ミツドウエー島 一六、一六、一六、一六、一六、一六  
 ミドロヒン 二六  
 南オーストラリア州 二九  
 峰木部隊 三三  
 宮川参事官 二八、二八、二八

宮崎駐佛代理大使 三九  
 宮田司令官 四三  
 ミューズ 四三  
 ミンヘン會議 三三、三三、三三  
 ミンヘン協定 三三  
 彌勒 三九  
 岷江 三九  
 岷山 三九  
 民衆自衛軍 六一  
 民生號 三三  
 民德 一〇  
 無錫 五、五、五、五、五、五、五、五、五、五  
 ムセ 五九  
 武藤陸軍少将 四三、四三、四三  
 ムツソリーニ首相 三九、三九、三九  
 村田部隊 三三、三三、三三  
 室谷部隊 三三  
 明江 四七、四七、四七  
 明港 三〇  
 名山 三九  
 メーキン 三三

メコン河 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 メナム河 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 メフリス 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 メルグイ 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 メルボルン 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 メンジース 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 綿陽 一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七、一七  
 蒙化 五九  
 毛家村 三三  
 蒙疆 四〇、四〇、四〇、四〇、四〇、四〇、四〇、四〇、四〇、四〇  
 蒙疆銀行 一〇  
 蒙疆青年興亞同盟 一〇  
 蒙疆電業株式會社 一〇  
 蒙疆聯合委員會 一〇  
 蒙銀券 一〇  
 沐陽 三三  
 木曜島 三三

孟縣 三三  
 モーゲンソール財務長官 三三、三三、三三  
 蒙古聯合自治政府 五、五、五、五、五、五、五、五、五、五  
 蒙古自 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 蒙自電燈公司 五、五、五、五、五、五、五、五、五、五  
 茂州 五、五、五、五、五、五、五、五、五、五  
 モスカトフ 二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七  
 モスクワ 二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七、二七  
 毛澤東 一三、一三、一三、一三、一三、一三、一三、一三、一三、一三  
 森井蒙疆青年興亞同盟厚利支部長 二一  
 森島参事官 四一  
 森田部隊 三三  
 毛利部隊 三三  
 森本部隊 三三  
 モレスビー 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 兩角部隊 三三  
 モロトフ外務人民委員 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三

モロトフ鐵道 六三  
 門戸開放 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 門頭溝 三三  
 門炳岳 三三  
 モンロー主義 四〇  
 ヤオバン 四四  
 安井内相 四三、四三、四三、四三、四三、四三、四三、四三、四三、四三  
 柳川平助中將 二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九  
 ナーネル大將 二六  
 谷萩那雄 八三  
 山崎部隊 三三  
 山下天津陸軍特務機關長 四六  
 山田乙三 三三  
 山田部隊 三三  
 山村部隊 三三

山本部隊 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 ヤンビ鐵道 二七  
 湯淺倉平 三三  
 裕華紗廠 五九  
 裕溪口 五九  
 熊繼武 六三  
 遊擊隊 六三  
 優抗互濟委員會 六三  
 滄昆公路 五九  
 榆社 三三  
 勇勝號 三三  
 裕繁 三三  
 裕豐紗廠 三三  
 榆林 三三  
 楊愛源 二六  
 楊鏡珣 三三  
 楊撥一 三三  
 葉家集 三三  
 楊家杖子 三三  
 楊家屯 三三  
 余漢謀 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三

愚欽 五九  
 楊杰 二七  
 葉劍英 三三  
 陽江 三三  
 橫山部隊 三三  
 芳澤謙吉 一〇、一〇、一〇、一〇、一〇、一〇、一〇、一〇、一〇、一〇  
 余晉蘇 七  
 楊樹桐 七  
 吉田海相 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 吉野部隊 三三  
 陽城 三三  
 陽新 三三  
 揚子江 二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九、二九  
 揚子江開放問題 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 揚子江開放要求 三三  
 揚子江部隊 三三  
 陽泉 三三  
 葉楚傖 二七  
 葉挺 二七  
 米内海相 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 米内首相 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三  
 米内々閣 三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三、三三



葉蓬 七、七、一〇三  
羊樓司 三三

ラ

ライオン 二五九  
ライオンズ 三三、三四、三五  
涿縣 五九  
萊州 三五七  
雷州 三六一  
雷州半島 三六一  
來陽 三九〇  
老開 一八四、一八六  
ラオス 一七、一七、一七、一七、一八八  
樂安 五三四  
略江 三五六  
略江航線 六〇、六一  
維谷 六〇  
樂山 五九七  
樂至 五九八  
樂昌 五九〇  
洛清江 六〇三  
洛陽 三五一  
羅君強 三三四、三四四  
羅源 六七、七九、九三、四三、四三三

羅源灣 三五  
羅江 五八九、五九六  
ラシオ 四三、四六、四五〇、五九六  
羅津 四八七  
羅卓英 三三二  
羅定 三三五  
ラバラツチ少將 三三七  
ラホール 三三三  
喇嘛教 一〇  
ラムガル 三三〇  
ランカシャー 三三九  
ラングストン 三三三  
ラングーン 三三三、三四五  
蘭州 一四七、三三八、三九一、三八八、  
三九一、五九六、六〇四  
ランソン 一八五、一八六  
蘭封 三三三  
蘭封 三三三

リ

李誦一 七七  
李家鈺 一六六  
李漢魂 一三三、一三七  
陸水 三三六  
陸川 五九七  
陸陽鎮 三四七  
里高 五九七  
李根源 二七、二八  
李濟琛 一三三、一三三、三三  
李士群 七  
李守信 五六、五九、六一〇  
リースロス 三六  
李聖五 七、七七  
李石曾 一三三、二七  
利川 五九、五九  
李祖虞 七、七七  
李宗仁 二七、三三、三三、三三三、  
三三六、三四四、三四八、三四九、  
五八三  
リットマン 三〇八  
リツペントロフ 二七九、二八三、  
四四、四九  
立法院 七四  
深陽 三四六  
リトヴィノフ 三六六、三六九  
リパチヨフ 二六八  
李品仙 三三〇  
李銘 三三三  
龍門 三三三  
劉郁芬 七、七七、〇三  
龍雲 六〇、二七、三三、三八  
龍烟鐵礦 五八、四七、五五、五五、  
五九

龍烟鐵礦株式會社 五八、五八  
龍眼洞 三二  
龍江 三四六  
柳江 六〇  
榴江 五九七  
劉公島 九、九、一〇三、三四  
立古部隊 三三〇  
劉師舜 三四八  
劉時 一三七  
劉汝明 三三三  
龍州 二七、八五、三三、三四九、  
三四九、三四三、五九七、五九八、  
六〇〇、六一  
柳州 三三九、三四三、五九〇、五九四、  
五九五、五九七、六〇三、六〇四  
陸昌 五九、五九、六〇四  
柳條溝 九六、九九  
柳汝昌 三四八  
劉振三 三四八  
柳泉 五八八、五六一  
龍潭庄 三四九  
劉鼎和 三三三  
龍南 五九一  
劉培楨 七七  
劉伯承 一三三、二九  
リュビームフ 二六八

劉文輝 一三七  
劉文島 一三〇  
龍門江 三三六  
龍門島 三三六  
龍里 五九七  
柳林驛 三八  
綠豐 五九〇、五九六  
遼縣 三四四  
良口 三四七  
良口墟 三四七  
良口作戰 三五五  
梁鴻志 七、八、五七、五八、五九、六〇、  
六六、七、七、七、七、三〇六  
梁山 三六、五九、五九  
諒山 四四三、四四四  
凌雲 七七  
陵川 三四六  
陵龍 五九六  
李烈鈞 二七、二八  
臨沂 五九  
臨高 三六  
林康侯 四三  
臨時參議會 一八  
臨時政府 五、六、三三、三四、三五、  
五八、五九、六五、六六、六六、  
七、七、四、四六、四六、  
四三三、四三三、四三三、四三三

臨城 五七四  
綸昌紡織廠 五八八  
林森 三三二  
林汝珩 八二、二九  
臨川 一二五  
林祖涵 五九〇  
林柏生 五九〇  
林彪 七六、二二、三三  
臨汾 三三六、三四五、三四八  
臨浦鎮 三四五  
臨榆 三四八、三四九  
リンリスゴイー・インド總督 二八、二九、三〇、三三、  
三三  
ルアンパバン 一七、一七、一七、  
一七、一七、五五  
ルイズ 二七  
ルイチニコフ 二六六  
ルキーン 二六六  
ルーク 二六三  
ルーゾヴェルト大統領 二、二五、  
一五九、一六〇、一九四、二八、  
二四三、二五八、三三九、三六〇、  
三六〇

ル

ルツクナール伯 二五二  
ルーマニア 六二八  
レアンダー號 二五五  
黎山 三三〇  
靈山 五九〇  
靈州 五九七  
黎城城 五九七  
冷水難 五九一  
レイノルズ上院議員 四〇五  
荔浦 五九七  
零陵 五九〇  
醴陵 五九〇、六〇三  
レガスビー 一六六  
レキー 二四三  
レーサム 三三三、三四七、三四八  
レトコフ 二六八  
レーニン 二六八  
レニングラード 二七五、二八四、六八  
連雲港 九、一〇三、三三、三四九、  
五五七、五六〇、五六三

リ

蓮花 五九〇  
蓮花堂 三三三  
聯銀券 四三、五七、五七、五七九  
廉州 五八、五八、五八  
廉江 五九七  
麗安 三四、三四六  
ロイド 二五〇  
ローウイン 五九  
龍海鐵路 三四、五、一四七、三六、三六、  
三三〇、三三八、三六、四八六、  
五九、五九、五九、六〇、  
六〇  
老河口 五九五  
老窩舖 五九〇  
六安 三三、三八  
六河溝 五九、五九  
濠口 五九  
六寨 五九七  
鹿鐘麟 二八、六一  
六中全會 六五、六九、七、二二、三三  
六房嘴 三三  
瀘溪 五九〇、五九六



盧縣	五四九
瀘縣	五九、五九一
瀘溝橋	三四
瀘溝橋事件	六〇、三七〇
廬山	二六、三七、三九
廬山	五九八
ロシア大使	一四四、二四五、二五九
瀘州	五二二
瀘州	三三九、五九八
瀘州	三三六、三三八
ロシヤ	三三六、三三七
ロイズ島	一九五
ロストフ	六二〇
ロフスキ	二八二、二八八
瀘定	五九八
ロヂシア	三三六
魯東作戦	三三七
臨東事件	六四
臨南	五九〇
ロハス	二五八
ロバノフ	二六八
ロバン佛印總督	一七、一七三
瀘邊閑話	三七三
魯北	一〇五
ロマコ	二六八
ローマ法皇廳	一三、元
ロメロ	一五九

ロングモア少將	三六
ロンゴタイ	二五八

ワ

淮安	三〇〇
淮陰	三〇〇
淮河	三二七、五五五
淮南	三三五
淮南炭	五六八
淮南炭礦會社	五五
淮南鐵路	四八六、五八八、六〇二
淮南煤礦股份有限公司	四八〇
和恩	五五五、五八八
若松總領事	三三八
若松部隊	三二七、三三八、三三〇
和合市	三四五
ワシントン	三三二、三四五
ワシントン條約	三六九
和盛市	三四五
和戰組特別委員會	二七
渡邊部隊	三三三
ワフルーシフ	二六八
和平運動促進會	六五
和平義勇軍	一〇三
和平建國軍	一〇三

### 統計表索引

#### 日本

日本生ゴム輸入相手國別統計	二〇〇
日本の鑛業自給率	四七七
十五年度對外貿易	四八九
對圓ブロック貿易額	四八九
對南洋貿易	四九〇

#### 滿洲國

滿洲國の躍進	一四
滿洲國豫算の膨脹率	三三
滿洲國康徳七年度歳出豫算	三三
滿洲國康徳七年度歳入豫算	三四
滿洲國內國稅收入内譯	三四
滿洲國康徳七年度各特別會計歳入出豫算	三三—三六
滿洲國合作兩社概況	三〇
全滿洲金融機關の預金貸出	三〇—三三

#### 支那

滿洲國主要國別貿易	三三
滿洲國康徳七年度貿易	三四
滿洲國康徳七年度國別貿易	三四
滿洲國重要物資統制實施機關	三五
滿洲國開拓民實績	三五
戶口人口一覽	三五
開拓民各種別内譯	三五
開拓民出身府縣別	四六
青少年義勇隊	四七
抗日支那軍の戦費推定表	一五〇
重慶政權の事業費增加表	一五一
重慶政權の内債發行高表	一五二
重慶政權の對外借款表	一五三
重慶政權の一般經常歳入表	一五四
重慶政權の對外貿易額	一五四



統計表索引

支那主要開港場の貿易額……………一五五  
北支經濟建設體系……………五六一—五五九  
中支經濟建設體系……………五六一—五五九

フィリッピン

フィリッピン五大農産物生産高……………一六六  
フィリッピン鑛産高……………一六三  
フィリッピン對外貿易……………一六三  
フィリッピン貿易主要品目……………一六四  
フィリッピンの財政……………一六六

タイ

タイ國累年貿易……………一六〇

佛領インド支那

佛印の鑛産物……………一六八  
佛印の農産物……………一六八  
佛印の對外貿易……………一六九  
佛印の對日貿易……………一六九

英領マレー

英領マレーの貿易……………一九七  
英領マレーの國別輸出統計……………一九九  
英領マレーの國別輸入統計……………一九九

蘭領東インド

蘭印輸出入總額……………二〇〇  
蘭印の主要輸出入品……………二〇〇  
蘭印の對日貿易……………二〇二  
蘭印の對本國貿易……………二〇二  
蘭印の對日主要輸出入品……………二〇三

インド

インド國別貿易額……………二〇三  
インド累年貿易額……………二〇三  
インド輸出品……………二〇三  
インド輸入品……………二〇三

ニュージーランド

ニュージーランド輸入品制限表……………二二五  
ニュージーランド國防費……………二二五  
ニュージーランド貿易……………二二五

ソヴェト聯邦

ソ聯人口統計……………二二七  
ソ聯の海軍力……………二二七  
ソ聯一九四〇年度決定豫算……………二二七  
ソ聯國防費の膨脹……………二二七  
ソ聯第三次五箇年計畫の目標……………二二七  
東亞ソ聯の現勢……………二二七—二二七  
東亞地方第二次計畫と実績……………二二八  
日本品の對ソ輸入……………二二八

南方諸國關係

ゴム及び錫の生産高……………二二八  
南洋の人口及び密度……………二二八  
南洋の國際貿易……………二二八  
南方諸國の輸入先……………二二八  
南方諸國の輸出先……………二二八

統計表索引

アメリカ

歐洲戰爭最初の一年間におけるアメリカの各月對  
英佛輸出狀況……………二〇七  
アメリカの對英飛行機輸出各月狀況……………二〇七

雜

資源綜合表……………二〇七  
鐵道普及度……………二〇七



# 各種單位換算表

## 貨幣 (昭和十六年八月一日現在)

圓 (滿洲國)	わが圓と同價
元 (支那)	同上
法幣 (支那)	約四一錢
香港ドル (フランス)	約一圓〇七錢
フラン (佛印)	約一〇錢五厘
ピアストル (佛印)	約九八錢
バート (タイ)	約一圓五九錢
海峽ドル (マレー)	約二圓〇一錢
ルビー (インド)	約一圓二八錢
ギルダ (蘭印)	約二圓二八錢
ペソ (フィリッピン)	約二圓一二錢
ドル (アメリカ)	約四圓二六錢
ポンド (イギリス)	約一七圓一四錢
ポンド (オーストラリア)	約一三圓七一錢
ポンド (ニュージーランド)	約一三圓七一錢
ルーブル (ソ聯)	約六〇錢

## 度量衡

一インチ	約八分四厘
一フット	一三英寸、約一尺六厘
一メートル	三尺三寸
一キロ	一、〇〇〇メートル 九町一〇間
一マイル	一・六キロ、一四町四五間
一ノット(漣)	六、〇八〇フィート 一六町五八間
一ヤード	三尺一分八厘
一ヘクタール	一〇、〇〇〇平方メートル 一町二五歩
一平方キロ	一〇〇町八反三畝九歩
一平方マイル	二六一町七畝一五歩
一施	一、〇〇〇キログラム 二六六貫六七〇匁
一キンタル	一〇キログラム 二六貫六六〇匁
一ブツシエル	二斗一合強
一ポンド	一二〇匁強

昭和十六年十二月二十日印刷  
昭和十六年十二月二十五日發行

昭和十三年—十六年版  
朝日東亞年報  
定價 三圓八十錢

不許轉載

編輯人兼  
發行

印刷人

東京市麴町區  
有樂町二丁目三番地

朝日新聞社

發行所

東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

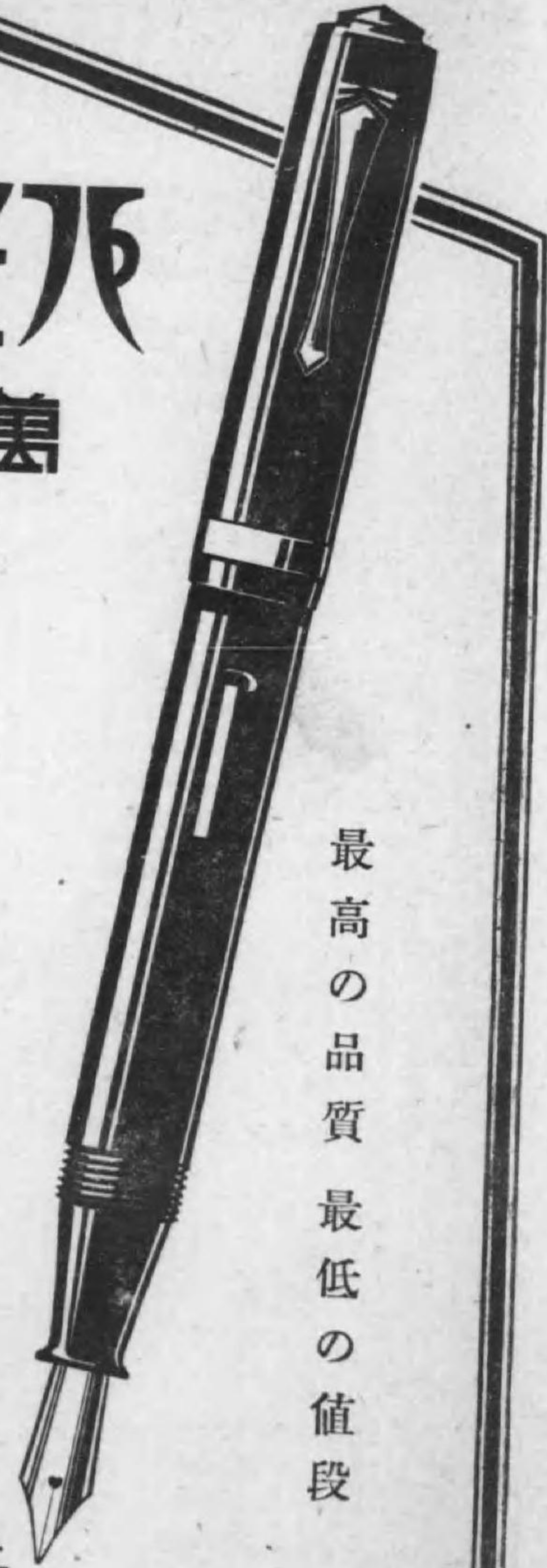
振替口座東京一七三〇番  
日本出版文化協會 會員番號一〇一五〇三番A



# パイロット 万年筆

断じて錆びない  
パイロット自製不銹合金

¥2.00以上



最高の品質 最低の値段



天下一品ノ  
一家一瓶ノ

英米品 何者ぞ！  
と東亞より  
彼等インキを  
驅逐したる  
ライト！



(大瓶 小瓶 各種...  
全国 文具店にあり)

# ライラ

2オンス入 公價 30セシ

株式会社洋造製キニイ 總本



戦線の勇士へ！  
銃後の眞心をこめた  
慰問袋を送りませう！

## 三越の慰問品

本店一階・新宿一階・銀座二階  
★皇軍慰問品賣場



大 京 札 仙 高 神 大  
連 城 幌 臺 松 戸 阪  
支 支 支 支 支 支  
店 店 店 店 店 店

京 東  
越 三





# 東京芝浦電氣株式會社

東京市京橋區銀座西五丁目貳番地(マツダビル)

電話銀座(57)代表五五七一

取締役社長 山口喜三郎

## 芝浦支社

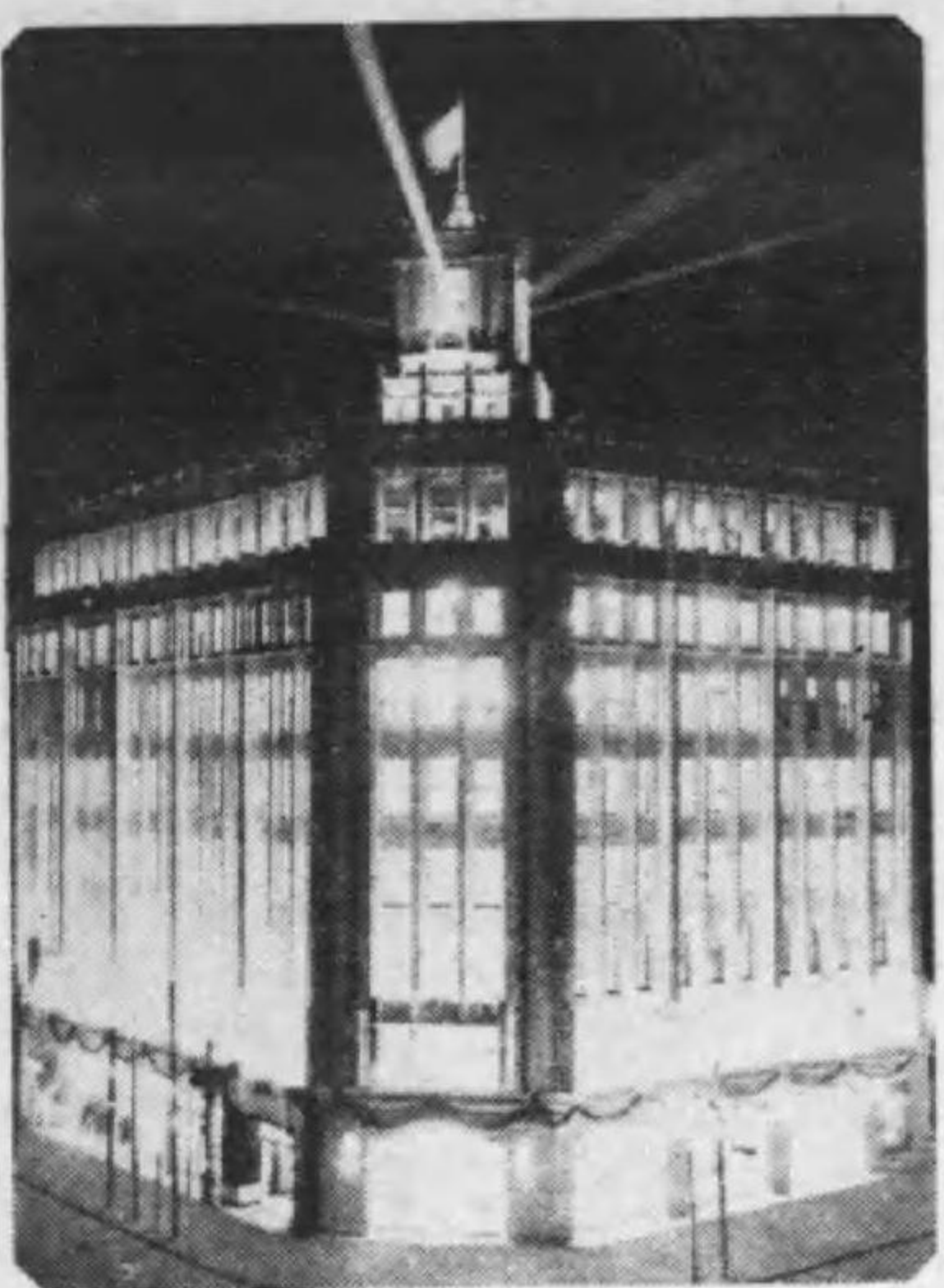
橫濱市鶴見區末廣町貳丁目四番地  
電話(代表)川崎三五〇一

舊株式會社 芝浦製作所

## マツダ支社

川崎市堀川町七拾貳番地  
電話(代表)川崎三五六一  
大森七五〇一

舊東京電氣株式會社



營業  
種目

火災・海上・運送  
傷害・自動車・信用



# 日產火災海上保險株式會社

本社 東京市麴町區丸ノ内二丁目十八番地

地方  
營業所

福岡・下ノ關・京城・新京  
大阪・京都・神戸・名古屋  
北海道(札幌・小樽・釧路)  
仙臺・橫濱  
上海・北京・天津・青島



資本金 貳千萬圓

業務 燐礦採掘・水産海運・土地經營  
拓殖移民・資金供給・定期預金  
日本銀行代理店



# 南洋拓殖株式會社

社長 大志摩孫四郎

本社 南洋群島バラオ諸島コロール島  
東京事務所 東京市麴町區丸ノ内一ノ八  
丸ノ内電話四五三一―六

## 製品

各種銑鐵・鋼片・棒鋼・形鋼・軌條・線材・鋼矢板  
各種鋼板・其他鑄鍛鋼品・高爐セメント  
鑛滓煉瓦・鑛滓ガラス・鑛滓綿・硫酸アンモニア  
ベンゾール類・クレオソート油・タール・ピッチ・其他



# 日本製鐵株式會社

本店 東京市麴町區丸ノ内郵船ビル内

## 所業作

八幡製鐵所	福岡縣八幡市
輪西製鐵所	北海道室蘭市
釜石製鐵所	岩手縣釜石市
富士製鐵所	神奈川県大崎市
大坂製鐵所	兵庫縣飾磨郡廣田區
廣畑製鐵所	朝鮮咸鏡北道鏡城郡龍城面
兼二浦製鐵所	
清津製鐵所	





東京 丸ノ内

# 日本通運株式会社

本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ二〇

社長 村上 義一

上海支店 上海市北四川路八六〇

支社長 野田 筍一

上海支店 上海市北四川路八六〇  
 南京支店 南京市中山北路九一三  
 蕪湖支店 蕪湖市中區車站  
 杭州支店 杭州市區蘇州路六  
 漢口支店 漢口市特三區華昌街三二  
 九江支店 九江市大柵路二九二

外に

營業所 一七ヶ所  
 派出所 一三七ヶ所  
 荷扱所 一一ヶ所



## 東亞海運

### 主要經營航路

線	絡	聯	海	上	戶	神	線	絡	聯	華	日
線	支	中	神	阪	阪	阪	線	津	天	神	阪
線	支	南	神	阪	橫	橫	線	島	青	神	阪
線	島	青	濱	橫	高	高	線	海	上	濱	橫
線	海	上	雄	高	高	高	線	津	天	濱	橫
線	津	天	雄	高	高	高	線	支	南	隆	基
線	支	南	津	天	天	天	線	門	厦	隆	基
線	支	南	連	大	大	大	線	津	天	海	上
線	島	青	芝	連	大	大	線	支	南	海	上
線	港	雲	連	島	青	青	線	榮	芝	連	大

### 本社

東京市麹町區內幸二丁目

支店・代理店

東 京 北 灣 橫 上 海 濱 名 古 屋 大 阪 神 戶 門 司 長 崎  
 臺 北 朝 鮮 中 華 民 國 佛 印 泰 國 其 他 日 本 內 地  
 臺 灣 朝 鮮 中 華 民 國 佛 印 泰 國 其 他 日 本 內 地





# 大東鑛業株式會社

社長 片倉兼太郎



# 片倉殖産株式會社

社長 片倉勝衛

# 片倉製絲紡績株式會社

社長 今井五介

營業 鑛山・船舶  
種目 倉庫・製鍊

# 石原産業海運株式會社

大阪本社 大阪市西區江戸堀一丁目十一番地

社長 石原新三郎

東京支店 東京市麴町區丸ノ内二丁目十二番地

支店長 牧悅三



資本金 四億五千萬圓

# 滿洲重工業開發株式會社

總裁 鮎川義介

本社 新京特別市大同大街

支東京社 東京市芝區田村町一ノ二

銃後の真心と感謝をこめた...

## 慰問文と慰問袋を

一つでも多く送りませう！

第一線で實際喜ばれた日用雜貨類、娛樂用品、食料品等を各種取揃へて、御發送萬端の御用命を承ります

(慰問品賣場・一階)



東京・日本橋

# 高島屋

電話日本橋(代表)四一一





有價證券引受業

資本金壹千萬圓 (全部拂込済)

積立金 五百九拾餘萬圓  
繰越金

本

社 東京市日本橋區兜町一ノ三

電話 自三二四一 至三二四九

京橋支店 同 京橋區第一相互館一階  
淺草出張所 同 淺草區雷門一ノ四

# △山一證券株式會社

取締役社長

木下

茂

支店・出張所

札幌・仙臺・新潟・廣瀨・濱松・名古屋・京都・大阪  
神戶・岡山・廣島・高松・福岡・小倉・京城・臺北

滿洲山一證券株式會社

滿洲國 奉天市大和區浪花通三十二號



14.5  
661



終

